

【大学院共通科目】

講義コード	科目名		単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	シ ラ バ ス 連 番
	専修・科目	講義形態						
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目1
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	大学院共通科目2
9616001	サンスクリット(2時間コース)	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	大学院共通科目3
9617001	サンスクリット(4時間コース)	語学	8	通年	月5,木5	Tao PAN	大学院共通科目	大学院共通科目4
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	4	通年	金5	小松 久恵	大学院共通科目	大学院共通科目5
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2	前期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目6
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2	後期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	大学院共通科目7
9628001	チベット語(初級)	語学	2	前期	月1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目8
9629001	チベット語(初級)	語学	2	後期	月1	宮崎 泉	大学院共通科目	大学院共通科目9
9630001	チベット語(中級)	語学	2	前期	水1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目10
9630002	チベット語(中級)	語学	2	後期	水1	高橋 慶治	大学院共通科目	大学院共通科目11
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目12
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目13
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目14
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	大学院共通科目15
9646001	ロシア語(初級)	語学	2	後期	水2	田中 大	大学院共通科目	大学院共通科目16
9647001	ロシア語(中級)	語学	2	前期	水2	中村 唯史	大学院共通科目	大学院共通科目17
9604001	アラブ語(初級)	語学	4	通年	木3	西尾 哲夫	大学院共通科目	大学院共通科目18
9608001	イラン語(初級)	語学	4	通年	金2	杉山 雅樹	大学院共通科目	大学院共通科目19
9620001	シムール語(初級)	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	大学院共通科目20
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2	前期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目21
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	大学院共通科目22
M450001	ギリシア語(初級I)	語学	2	前期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目23
M451001	ギリシア語(初級II)	語学	2	後期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	大学院共通科目24
M452001	ラテン語(初級I)	語学	2	前期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目25
M453001	ラテン語(初級II)	語学	2	後期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	大学院共通科目26
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	2	前期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目27
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	2	後期	木5	柏村 彰夫		大学院共通科目28
9626001	タイ語I(初級)	語学	2	前期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目29
9627001	タイ語II(初級)	語学	2	後期	木5	弓庭 育子		大学院共通科目30
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	2	前期	木3	本行 沙織		大学院共通科目31
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	2	前期	火2	吉本 康子		大学院共通科目32
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	2	後期	水2	吉本 康子		大学院共通科目33
9822001	タイ研修	特殊講義	2	後期	集中	張 子康		大学院共通科目34
9822002	ベトナム研修	特殊講義	2	後期	集中	張 子康		大学院共通科目35
9822005	インドネシア研修	特殊講義	2	後期	集中	張 子康		大学院共通科目36
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	2	後期	木2	小山 哲,高嶋 航		大学院共通科目37
9822015	次世代グローバルワークショップ	特殊講義	2	通年	集中	落合 恵美子,安里 和晃,Stephane Heim		大学院共通科目38
M603001	科学技術と社会に関わるクテカルシンキング	特殊講義	2	後期	木2	伊勢田 哲治	大学院横断教育科目	大学院共通科目39
JK01001	Introduction-Transcultural Studies (Lecture)	特殊講義	2	前期	月3	WADA-MARCIANO,VASUDEVA,安里,KAMM		大学院共通科目40
JK02001	introduction-Transcultural Studies (Tutorium)	演習	2	前期	月4	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目41
JK31001	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A	演習	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目42
JK32001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A	演習	2	前期	金2	安里 和晃		大学院共通科目43
JK33001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A	演習	2	前期	火3	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目44
JK35001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B	特殊講義	2	前期	木3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目45
JK36001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) B	演習	2	前期	火4,火5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		大学院共通科目46
JK06001	Introduction-Research Skills	演習	2	前期	水4	KAMM, Bjorn-Ole		大学院共通科目47
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目48
JK08001	Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese	演習	2	前期	金5	田中 草大		大学院共通科目49
JK09001	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	水5	Tao PAN		大学院共通科目50
JK09002	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	木2	CAMPBELL, Michael		大学院共通科目51
JK09003	Foundations I-Seminar (KBR)	特殊講義	2	前期	水3	MCCARTNEY, Patrick		大学院共通科目52
JK10001	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	金1	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目53
JK10002	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2	前期	月5	岩島 史		大学院共通科目54
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		大学院共通科目55
JK12001	Foundations I-Seminar (KBR/SEG)	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治		大学院共通科目56
JK14001	Foundations I-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	前期	金3,金4	菅野 優香	前期前半	大学院共通科目57
JK14002	Foundations I-Seminar (SEG/VMC)	演習	2	前期	金1,金2	Fedorova Anastasia	前期後半8週	大学院共通科目58
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	海田 大輔		大学院共通科目59
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金4	川島 隆		大学院共通科目60
JK15003	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月3	湯川 志貴子		大学院共通科目61
JK15004	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水2	BREEN, John		大学院共通科目62
JK15005	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水5	Tao PAN		大学院共通科目63
JK15006	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目64
JK16001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquium)	演習	2	後期	火2	VASUDEVA,Somdev		大学院共通科目65
JK17001	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金2	安里 和晃		大学院共通科目66
JK17003	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火4	久野 秀二,久野 愛		大学院共通科目67
JK17004	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	金3	矢野 剛,中野 有,大西 広,田添 篤史		大学院共通科目68

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	佐野 真由子		大学院共通科目69
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水2	河合 淳子		大学院共通科目70
JK17007	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	集中	久野 秀二		大学院共通科目71
JK17008	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水4,水5	久野 秀二,小林 舞		大学院共通科目72
JK17009	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2	前期	火5	IVINGS, Steven		大学院共通科目73
JK19001	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水4,水5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		大学院共通科目74
JK19002	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火4,火5	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		大学院共通科目75
JK19003	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	ROTH, Martin		大学院共通科目76
JK19004	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木4,木5	Ida Duretto		大学院共通科目77
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	火2	高嶋 航,村上 衛,ERICSON, Kjell David		大学院共通科目78
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目79
JK21004	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	木2	TAJAN, Nicolas Pierre		大学院共通科目80
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	2	後期	水6	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目81
JK22001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG) (Colloquium)	演習	2	後期	水3	児玉 聡		大学院共通科目82
JK23001	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	月5	吉井 秀夫,富井 真,下垣 仁志,内記 理		大学院共通科目83
JK25001	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture)	特殊講義	2	後期	集中	WADA-MARCIANO, Mitsuyo		大学院共通科目84
JK27001	Research 2-Advanced Japanese	演習	2	後期	金5	田中 草大		大学院共通科目85
JK30001	Research 2-Advanced English	実習	1	後期	火3	ERICSON, Kjell David		大学院共通科目86
9829001	Heidelberg-Strasbourg Student Workshop	演習	1	後期	不定	KAMM, Bjørn-Ole, SCHAAL, Sandra		大学院共通科目87
JK29002	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	前期	不定	WADA-MARCIANO,VASUDEVA,安里,KAMM	前期修論提出者向け	大学院共通科目88
JK29001	Research 3&MA Thesis-Research Colloquium	演習	2	後期	不定	WADA-MARCIANO,VASUDEVA,安里	後期修論提出者向け	大学院共通科目89
J980001	Oral Master Examination - Oral Examination			前期	不定	WADA-MARCIANO,VASUDEVA,安里,KAMM		大学院共通科目90
J980002	Oral Master Examination - Oral Examination			後期	不定	WADA-MARCIANO,VASUDEVA,安里		大学院共通科目91

大学院共通科目1

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目2

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目3

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:荻原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目4

科目ナンバリング		G-LET49 89617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)  (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit  (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit  (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit  (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester  Week #01 Introduction to Sanskrit language  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.  Week #15: Feedback</p> <p>Second semester  Week #01 Review course content of lessons 1 to 22  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.  Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											



サンスクリット ( 4 時間コース ) ( 語学 ) ( 2 )

**[成績評価の方法・観点]**

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

**[教科書]**

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 ( Orient Book Distributors, 1986 ) ISBN:978-8120802070 ( both English and Japanese version will be used )  
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 ( Cambridge University Press, 2017 ) ISBN:978-1107459069 ( <https://www.cambridge-sanskrit.org> )  
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 ( de Gruyter, 1978 ) ISBN:978-3110071771  
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連 URL )

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)  
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)  
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)  
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)  
<http://www.indoskript.org/letters> (Scripts)

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目5

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30％、年度末40％）によって評価する。

### 【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

### 【参考書等】

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目6

科目ナンバリング		G-LET49 89659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか          第6～10週目：インド神話関連の物語          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語(中級)I(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）I(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories )  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqgG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta ( インドのヒンディー語新聞 ))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times ( インドのヒンディー語新聞 ))  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS ( インドのニュース・報道専門番組 ))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV ( インドのニュース・報道専門番組 ))  
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak ( インドのヒンディー語新聞 ))  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID ( 教育用Video SNSサービス ))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets ( 復習用オンライン・アプリケーション ))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目7

科目ナンバリング		G-LET49 89660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌          第6～10週目：新聞記事、TVニュース          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語(中級)II(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）II(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目8

科目ナンバリング		G-LET49 89628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1週）</li> <li>2. 文字と発音（4週）</li> <li>3. 名詞（4週）</li> <li>4. 形容詞（1週）</li> <li>5. 助動詞（3週）</li> <li>6. まとめ（1週）</li> <li>7. フィードバック（1週）</li> </ol>											
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											



## チベット語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、平常点（100％）によって評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目9

科目ナンバリング		G-LET49 89629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞（5週）</li> <li>2. 複文他（5週）</li> <li>3. チベット語テキスト演習（4週）</li> <li>4. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
成績は、平常点（100％）によって評価する。											
----- チベット語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目10

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

手ペット語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目11

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目12

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】</li> <li>2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】</li> <li>3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】</li> <li>4．ここまでの内容の確認と練習【1週】</li> <li>5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】</li> <li>6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】</li> <li>7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】</li> <li>9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】</li> <li>10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】</li> <li>11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】</li> <li>12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】</li> <li>13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】</li> <li>14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											



## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目13

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】</li> <li>2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】</li> <li>3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】</li> <li>4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】</li> <li>5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】</li> <li>6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】</li> <li>7．関係代名詞ktoryの用法【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】</li> <li>9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】</li> <li>10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】</li> <li>11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】</li> <li>12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】</li> <li>13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】</li> <li>14．ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目14

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目15

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目16

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（初級） Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----											



## ロシア語（初級）(2)

---

### [参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

### [授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

### （その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目17

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法  その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相  文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）  第15回 まとめ  フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

**[教科書]**

プリントを配付します。

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目18

科目ナンバリング		G-LET49 89604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語（初級）（語学） Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。  アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教（イスラーム）の聖典『コーラン（クルアーン）』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム（イスラム教徒）もアラビア語の知識をもっている。  この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) アラビア語についての概説（1回目）  (2) アラビア語学習法の概説（1回目）  (3) アラビア文字（2回目から5回目）  (4) 名詞（3回目）  (5) 冠詞（4回目）  (6) 名詞の格変化（5回目）  (7) 規則複数（6回目）  (8) 形容詞の用法（7回目）  (9) 疑問文（8回目）  (10) 場所の前置詞（9回目）  (11) これまでの復習（10回目）  (12) 存在文（11回目）  (13) 国名とニスバ形容詞（12回目）  (14) 数字の書き方と1～10までの数詞（13回目）  (15) 不規則複数（1）（14回目）  (16) 色の表現（15回目）  (17) 動詞完了形（16回目）  (18) 辞書の引き方（17回目）  (19) 不規則複数（2）（18回目）  (20) 11～100までの数詞（19回目）  (21) これまでの復習（20回目）  (22) 曜日の表現（21回目）  (23) 動詞未完了形（22回目）</p>											
----- アラブ語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## アラブ語（初級）(語学)(2)

- (24) 名詞文と動詞文（語順）（23回目）
- (25) 時間表現（24回目）
- (26) 比較表現（25回目）
- (27) 弱動詞（26回目）
- (28) 動詞派生形（1）（27回目）
- (29) 未来表現（28回目）
- (30) 動詞派生形（2）（29回目）
- (31) これまでの復習と今後の学習方法（30回目）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期については対面ではなくオンラインで実施する場合は、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章）

西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への30の扉』（ミネルヴァ書店）（中東・イスラーム世界の理解のために必読）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業毎に指示する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目19

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## イラン語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）

前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）

後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で4回以上欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目20

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											



## シュメール語（初級）(語学)(2)

### <後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

大学院共通科目21

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる                  3：短い日常会話の流れを把握できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要                  第2回 第1課 / 現在時制                  第3回 第2課 / コピュラ文                  第4回 第4課 / 所有表現                  第5回 第5課 / 未来時制                  第6回 名詞クラス                  第7回 第3課 / 存在表現                  第8回 第1～5課の復習と補足説明                  第9回 第6課 / あいさつ表現                  第10回 第7課 / 過去時制                  第11回 第8課 / 完了時制                  第12回 第9課 / 形容詞                  第13回 第10課 / 接続形                  第14回 第6～10課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目22

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語中級									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる                  3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習                  第2回 第11課 / 時間                  第3回 第12課 / 指示詞                  第4回 第13課 / 使役                  第5回 第14課 / 条件節                  第6回 関係節                  第7回 第15課 / 受身                  第8回 第11～15課の復習と補足説明                  第9回 第16課 / 相互形                  第10回 第17課 / 仮想時制                  第11回 第18課 / 複合時制                  第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ                  第13回 第20課 / 手紙の書き方                  第14回 第16～20課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック                  なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（中級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目23

科目ナンバリング		G-LET01 8M450 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
[授業の概要・目的]											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方</p> <p>第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
[教科書]											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

大学院共通科目24

科目ナンバリング		G-LET01 8M451 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
<p>水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）</p>											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											



哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目25

科目ナンバリング		G-LET01 8M452 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目26

科目ナンバリング		G-LET01 8M453 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目27

科目ナンバリング		G-LET49 89610 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語I (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 名詞文</li> <li>3. 発音と表記法</li> <li>4. 人称代名詞</li> <li>5. 基語動詞</li> <li>6. ber-動詞</li> <li>7. meN動詞</li> <li>8. 7回までの学習内容の確認</li> <li>9. アスペクト、助数詞</li> <li>10. 疑問文、疑問詞</li> <li>11. 受動</li> <li>12. 時間表現</li> <li>13. 接尾辞 -an</li> <li>14. 接頭辞 pe-, peN-</li> <li>15. 前期学習内容の確認</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価100%          なお平常点評価には、語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。</p>											
【教科書】											
森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3											
----- インドネシア語I (初級) (語学)(2)へ続く -----											

インドネシア語I (初級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

(その他 (オフィスアワー等) )

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目28

科目ナンバリング		G-LET49 89611 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語II (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的表現の復習</li> <li>2. 程度の副詞、接頭辞 se-</li> <li>3. 比較級、最上級</li> <li>4. 接頭辞 ter-</li> <li>5. 前置詞</li> <li>6. 接続詞</li> <li>7. 関係詞 yang</li> <li>8. 7回までの授業内容の確認</li> <li>9. 接辞 peN-an、 per-an</li> <li>10. 複合語、接辞 ke-an</li> <li>11. 命令文</li> <li>12. meN-kan動詞、meN-i 動詞</li> <li>13. memper 動詞</li> <li>14. 畳語</li> <li>15. 後期の授業内容の確認</li> </ol>											
【履修要件】											
インドネシア語Iの履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点100%。          なお平常点には語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。</p>											
----- インドネシア語II (初級) (語学)(2)へ続く -----											



インドネシア語II (初級) (語学)(2)

**[教科書]**

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目29

科目ナンバリング		G-LET49 89626 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語I(初級)(語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習									
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1. オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2. 発音練習 母音、声調、子音											
3. 第1課 1. 1~1. 3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4. 第1課 1けたの数字、											
5. 第2課 2. 1~2. 3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6. 第2課 2. 4~3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7. 第3課 3. 1~3. 3 職業を紹介する、尋ねる											
8. 第3課 3. 4~3. 6 完了、予定の表現											
9. 第3課 数字に関する表現											
10. 第4課 4. 1~4. 3 継続の表現											
11. 第4課 職業の表現											
12. 第5課 5. 1~5. 2 品詞と語順											
13. 第5課 5. 3~親族名称 可能の表現											
14. 総復習											
15. フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
----- タイ語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

## タイ語I(初級)(語学)(2)

### [成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題(およそ500点)、総合の課題(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### [教科書]

宮本マラシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会)ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

### [参考書等]

(参考書)

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』(めこん)ISBN:4-8396-0197-6 C0387  
(タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める)

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習:テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習:既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目30

科目ナンバリング		G-LET49 89627 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語II(初級) (語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		タイ語II(初級)									
【授業の概要・目的】											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】 1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2．第6課6．1～6．2 指示代名詞 3．第6課6．3～6．4 程度の表現 4．第6課味覚表現 5．第7課7．1～7．2 希望、要求の表現 6．第7課7．3～7．5 許可の表現 7．第7課交通機関の名称 8．第8課8．1～8．2 指示形容詞 9．第8課8．3～8．4 義務の表現 10．第8課時刻の表現 11．第9課9．1～9．2 順序の表現 12．第9課9．3～方向、方角の表現 13．第10課10．1～10．2 目的の表現 14．総復習 15．フィードバック											
----- タイ語II(初級) (語学)(2)へ続く -----											

## タイ語II(初級)(語学)(2)

### 【履修要件】

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。  
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

### 【成績評価の方法・観点】

講義中の小テスト(およそ500点)、学期末テスト(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

### 【教科書】

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習: テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。  
復習: 既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### (その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目31

科目ナンバリング		G-LET49 89631 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学) Burmese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本行 沙織			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ビルマ語入門									
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。</li> <li>・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。</li> <li>・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。</li> </ul>											
【到達目標】											
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音</p> <p>第2回 文字1(基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字)</p> <p>第3回 文字2(軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序)</p> <p>第4回 第1課 それはココヤシの実です</p> <p>第5回 第2課 元気です</p> <p>第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません</p> <p>第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか?</p> <p>第8回 第4課 ご飯食べましたか?、練習問題2</p> <p>第9回 第5課 マンダレーに行きます</p> <p>第10回 第6課 何の仕事をしているんですか?</p> <p>第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります</p> <p>第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです</p> <p>第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4</p> <p>第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか?</p> <p>第15回 これまでの授業の復習</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業で行う小テスト(50点)、期末試験(50点)											
----- ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ビルマ(ミャンマー)語(初級)(語学)(2)

**[教科書]**

加藤昌彦 『ニューエクスプレス プラス ビルマ語』(白水社) ISBN:9784560088142

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

- ・ 予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。
- ・ 授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目32

科目ナンバリング		G-LET49 89637 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語I(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語I(初級)									
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。</li> <li>挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。</li> <li>言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1回        ガイダンス 第2～4回    ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5～6回    7課 第7～8回    8課 第9～10回   9課 第11～12回 10課 第13～14回 11課 第15回       まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』大阪大学出版会』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語I(初級)(語学)(2)へ続く											



ベトナム語(初級)(語学)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目33

科目ナンバリング		G-LET49 89638 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語II(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる</li> <li>現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をする事ができる</li> <li>言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1～2回 12課 第3～4回 13課 第5～6回 14課 第7～8回 15課 第9～10回 16課 第11～12回 17課 第13～14回 18課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
ベトナム語 を履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ベトナム語II(初級)(語学)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目34

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣] 留学プログラム タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール										
【授業の概要・目的】											
<p>「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」は、短期留学及び事前・事後学習から成る授業である。多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくはタイ語で表現できるようになることを目的としている。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるタイ・チューラーロンコーン大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するタイ語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のタイ語講座では、チューラーロンコーン大学の教員による初学者向けのタイ語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)については日・英でおこなわれるチューラーロンコーン大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、タイの食文化、史跡見学、現代文化見学など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるタイの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とタイ関係についてはアジア諸国についての理解を深める。</li> <li>・また、同活動を通じて、日本文化（あるいは自分自身の身につけてきた文化）を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。</li> <li>・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</li> <li>・タイ語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。</li> <li>・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。</li> </ul> <p>プログラムスケジュール予定</p> <p>(1) 2月初旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座(3時間程度)</p> <p>(2) 2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム(於、タイ・チューラーロンコーン大学)</p> <p>1日目 日本発、タイ着</p> <p>2日目</p>											
----- タイ研修(2)へ続く -----											

## タイ研修(2)

-09:00 - 12:00 キャンパスツアー  
-13:00 - 16:00 講義「タイ国・タイ文化入門」  
3日目  
-09:00 - 12:00 タイ語授業  
-13:00 - 16:00 タイ語授業  
4日目  
-09:00 - 12:00 授業受講「文化・文学」  
-13:00 - 16:00 授業受講「歴史」  
5日目  
-09:00 - 12:00 実地見学（寺院訪問等）  
6日目  
-09:00 - 12:00 タイ語授業  
-13:00 - 16:00 タイ語授業  
7日目  
実地見学（古都アユタヤ・伝統産業・現代文化等）  
8日目日曜日  
9日目  
-09:30 - 12:30 授業受講「ビジネスコミュニケーション」  
10日目  
-09:00 - 12:00 講義「タイの歴史と文化」  
-13:00 - 16:00 タイ語授業  
11日目  
-09:00 - 12:00 授業受講（予備日）  
-13:00 - 15:00 共同セミナー準備  
12日目  
-09:30 - 12:30 共同セミナー  
-13:00 - 16:00 タイ語授業  
13日目  
-09:00 - 11:00 発表会、修了式  
14日目タイ発、日本着  
(3)3月中旬 報告会（1.5時間、於、京都大学）

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

講義への参加状況、タイ語講座と共同発表での評価、研修後の報告書による。

### 【教科書】

授業中に指示する

タイ研修(3)へ続く

### タイ研修(3)

#### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

#### (関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

#### [授業外学修(予習・復習)等]

タイに関する文献を読むこと。

#### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目35

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[派遣]留学プログラム ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール									
【授業の概要・目的】											
<p>多文化共学短期[派遣]留学プログラム」は、短期留学及び事前・事後学習から成る授業である。多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくはベトナム語で表現できるようになることを目的としている。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するベトナム語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のベトナム語講座では、初学者向けのベトナム語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)ベトナム国家大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、ベトナムの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるベトナムの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とベトナムとの関係についてはアジア諸国についての理解を深める。</li> <li>・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。</li> <li>・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。</li> <li>・ベトナム語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。</li> <li>・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。</li> </ul> <p>プログラムスケジュール予定</p> <p>(1) 2月初旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座(3時間程度)</p>											
----- ベトナム研修(2)へ続く -----											

## ベトナム研修(2)

(2) 2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、ベトナム国家大学ハノイ校）

1日目日本発、ベトナム着

2日目 2～6日目：ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学

-09:15-09:45 オリエンテーション

-09:50-11:40 講義「ベトナム地理」

-12:00-14:00 共同セミナー準備

3日目

-09:30-11:30 講義「日本語研究入門」

-14:00-16:00 ベトナム語授業

-16:15-18:15 共同セミナー準備

4日目

-09:30-11:30 講義「ベトナムの国家機関と法律」

-14:00-16:00 講義「ベトナムの大衆文化」

-16:15-18:15 共同セミナー準備

5日目

-09:30-11:30 ベトナム語授業

-12:45-14:30 実習（日本語教授研修）

-14:35-15:35 共同セミナーの準備

6日目

-10:00-16:30 実地研修（伝統村見学）

7日目土曜日

8日目日曜日

9～13日目：ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学

9日目

-08:30-09:30 オリエンテーション及び共同セミナー準備

-09:50-11:40 ベトナム語授業

-14:45-15:45 共同セミナーの準備

10日目

-08:45-09:30 ベトナム語授業

-11:00-12:00 共同セミナーの準備

-13:00-14:35 ベトナム語授業

-14:45-16:30 実習（日本語会話：日本語教授研修）

11日目実地研修（6時間程度 詳細は後日）

12日目

-08:45-10:50 ベトナム語授業

-13:00-14:30 実習（日本語会話：日本語教授研修）

-14:45-16:15 ベトナム語授業

-16:30-17:30 共同セミナー準備

13日目

-9:30-11:30 共同セミナー、修了式

14日目ベトナム発、日本着

(3) 3月下旬 報告会（1.5時間、於、京都大学）

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語（初級）」等の関連科目を

ベトナム研修(3)へ続く



ベトナム研修(3)

受講していることが望ましい。

**【成績評価の方法・観点】**

事前学習への参加状況、現地での評価、研修後の報告会および報告書による。

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

**【授業外学修(予習・復習)等】**

ベトナムに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目36

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 張 子康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[派遣]留学プログラム インドネシア大学スプリングスクール									
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て実施する。事前講義（インドネシア語学習を含む）、インドネシア大学が提供するインドネシア語講座の受講（オンライン）、インドネシア大学の学生との共同プレゼンテーションによる日本語・日本文化の相互学習（オンライン）をおこなう。</p> <p>具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するインドネシア語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。</p> <p>(1)のインドネシア語講座では、初学者向けのインドネシア語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)インドネシア大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、インドネシアの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。</p>											
【到達目標】											
<p>相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、インドネシアおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本 - インドネシアの両国関係について認識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>2月初旬～3月初旬実施予定。 研修の詳細についてはKULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本スプリングスクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてもKULASIS等を参照すること。</p> <p>プログラムスケジュール予定          (1) 2月上旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度)、共同セミナー発表準備講座(3時間程度)          (2) 2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム(於、インドネシア大学)</p> <p>仮スケジュール          1日目 日本発、インドネシア着          2日目 09:00-10:40 インドネシア語授業          11:00-12:40 インドネシア語授業          16:00-18:00 キャンパスツアー          3日目 09:00-10:40 インドネシア語授業          11:00-12:40 インドネシア語授業          14:00-16:00 文化体験(伝統舞踊研修)          16:30-18:30 共同セミナー準備</p>											
----- インドネシア研修(2)へ続く -----											

## インドネシア研修(2)

4日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
14:00-16:00 実習(日本語授業参加)  
5日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
16:30-18:30 共同セミナー準備  
6日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
14:00-16:00 文化体験(伝統工芸研修)  
7日目 09:00-18:00 課外研修(史跡訪問等)  
8日目 日曜日 休み  
9日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
14:00-16:00 文化体験(伝統楽器・演奏研修)  
16:30-18:30 共同セミナー準備  
10日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
16:00-18:00 講義受講「翻訳」  
11日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
16:00-18:00 共同セミナー準備  
12日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
16:00-18:00 共同セミナー準備  
13日目 09:00-10:40 インドネシア語授業  
11:00-12:40 インドネシア語授業  
13:15-18:00 共同セミナー  
14日目 インドネシア発、日本着  
(3)3月下旬 報告会(1.5時間、於、京都大学)

### 【履修要件】

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語(初級)」等の関連科目を受講していることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

事前学習への参加状況、インドネシア大学による評価、研修後の報告会および報告書による。

### 【教科書】

授業中に指示する

インドネシア研修(3)へ続く

## インドネシア研修(3)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

### [授業外学修(予習・復習)等]

インドネシアに関する文献を読むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目37

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		小山 哲 高嶋 航	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦争と植民地をめぐる歴史認識問題									
【授業の概要・目的】											
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
【到達目標】											
いわゆる「歴史認識」とはということかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。</p> <p>講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。なお、各講師の講義テーマについては、変更される可能性があります。</p> <p>小山 哲(文学研究科)：収容所の世紀の記憶の語り方 ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む</p> <p>高嶋 航(文学研究科)：「慰安婦」と中国</p> <p>塩出浩之(文学研究科)：琉球/沖縄をめぐる歴史認識</p> <p>谷川 穰(文学研究科)：靖国神社について</p> <p>中村唯史(文学研究科)：ソ連「民族詩人」の戦争と民族の表象について：アヴァル語詩人ガムザトフの場合</p> <p>吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐる</p> <p>太田出(人間・環境学研究科)：山西残留問題と「蟻の兵隊」 城野宏と笠実を事例として</p> <p>岡 真理(人間・環境学研究科)：日本の歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル</p> <p>小野寺史郎(人間・環境学研究科)：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識</p> <p>細見和之(人間・環境学研究科)：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡</p> <p>石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時(1972年)の歴史認識</p> <p>小関隆(人文科学研究所)：中立国の第二次世界大戦経験：アイルランドを中心に</p> <p>直野章子(人文科学研究所)：戦争被害受忍論からみる戦争責任論</p> <p>藤原辰史(人文科学研究所)：帝国日本の品種改良 種子と権力について考える</p> <p>フィードバック</p>											
----- 戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く -----											

## 戦争と植民地の歴史認識(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（50％）とレポート（50％）により総合的に評価します。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

### （その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。

昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目38

科目ナンバリング		G-LET50 69822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		次世代グローバルワークショップ Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop									
【授業の概要・目的】											
<p>世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て13年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。 今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているが、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定 (<a href="http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</a>)</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see detail in call for papers as follows after April <a href="http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</a></p>											
【到達目標】											
<p>テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen the understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．タイトルの作成</li> <li>2．要旨の作成</li> <li>3．応募書類の作成と応募</li> <li>4．論文執筆（6000語程度）</li> <li>5．校閲</li> <li>6．発表原稿作成</li> <li>7．発表演習</li> <li>8．修正</li> <li>9．報告</li> <li>10．大学教員からのコメントと返答</li> <li>11．全体のディスカッション</li> </ol>											
----- 次世代グローバルワークショップ(2)へ続く -----											

## 次世代グローバルワークショップ(2)

- 1 2 . 研究者間交流
- 1 3 . 論文のリライトと編集
- 1 4 . 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 1 5 . プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

### [履修要件]

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。

Applicants need to submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to participate.

### [成績評価の方法・観点]

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。

Based on workshop presentation and preparation.

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

calls for papers募集要項に従って準備を進める。

### (その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取ること。( @ )は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目39

科目ナンバリング		G-LET49 8M603 LJ36									
授業科目名 <英訳>		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング Critical Thinking on Science, Technology and Society				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング									
【授業の概要・目的】											
<p>伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること</li> <li>・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。          テキストは以下の10のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち6つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各2回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組み換え作物</li> <li>・喫煙</li> <li>・血液型性格判断</li> <li>・地震予知</li> <li>・動物実験</li> <li>・脳科学の実用化</li> <li>・乳がん検診</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・宇宙科学・技術への公的投資</li> <li>・原爆投下の是非を論じること自体の正当性</li> </ul> <p>初回に前半のテーマ3つを決定する。5回目の授業で後半のテーマ3つを決定する。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回)          テーマごとのディスカッション(12回)          まとめとフィードバック(2回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)へ続く -----											

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)

**[成績評価の方法・観点]**

3分の2以上の出席が単位発行の最低条件となる。  
積極的な授業参加による平常点が70%、提出物の評価が30%で採点する。

**[教科書]**

伊勢田哲治ほか編 『『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』』 (名古屋大学出版会)

**[参考書等]**

(参考書)

伊勢田哲治 『哲学思考トレーニング』 (筑摩書房)

野矢茂樹 『新版 論理トレーニング』 (産業図書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30 (オンライン授業となった場合は設けない)。  
開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目40

科目ナンバリング		G-LET36 6JK01 LE36									
授業科目名 <英訳>	Introduction-Transcultural Studies (Lecture)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	教授	Mitsuyo Wada-Marciano		
	Introduction-Transcultural Studies (Lecture)						文学研究科	教授	VASUDEVA, Somdev		
						文学研究科	准教授	安里 和晃			
						文学研究科	講師	Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	Introduction to Transcultural Studies										
[授業の概要・目的]											
<p>The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements). It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.</p> <p>Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this lecture class will discuss the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e.g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to introduce students to diverse disciplinary perspectives enabling them to frame their own studies of transcultural phenomena and perspectives.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Introduction to Transcultural Studies. *****</p> <p>IMPORTANT: Depending on the pandemic situation, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check "Class support" or PandA for detailed information. 注意：パンデミック状況により、本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。 *****</p>											
[到達目標]											
<p>Students will gain insights into the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to formulate own study projects and prepare them for research dealing with the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction. IMPORTANT・重要: Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to PandA for the most up-to-date information and the Zoom link).</p> <p>(1) Introduction [1 week]</p>											
											Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(2)へ続く

## Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(2)

The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organization of the class, including self-introductions by the lecturers and first examples from the three study foci, "Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).

### (2) Foundations [3 weeks] - (lecturer: Bjorn-Ole KAMM)

The first three-week section of lectures discusses transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

### (3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks] - (lecturer: Somdev VASUDEVA)

During the following three weeks we examine the various circular movements underlying the development of what came to be called "Modern Postural Yoga." In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

### (4) Society, Economy and Governance [3 weeks] - (lecturer: ASATO Wako)

This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

### (5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)

The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

### (6) Review and Feedback

The lecture class will be accompanied by a weekly discussion class ("tutorium," Code: JK02001), in which students discuss the content of the lectures and the readings, and clarify their understanding of transculturality. Participation in this class is mandatory for students of the major Master in Transcultural Studies and highly recommended for all other students joining from other majors.

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点】

Active participation in discussion (20%), preparation of mandatory readings and regular submission of short comments/discussion questions (20%); written examination (60%).

#### 【教科書】

使用しない

## Introduction-Transcultural Studies (Lecture)(3)

### [参考書等]

#### ( 参考書 )

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

#### Introductory readings:

- Appadurai, Arjun. 2005 (1996). *Modernity at Large. Cultural Dimensions of Globalization*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Brosius, Christiane. 2010. *India's Middle Class. New Forms of Urban Leisure, Consumption and Prosperity*. New Delhi: Routledge.
- Elkins, James et al (eds). 2010. *Art and Globalization*. University Park: Pennsylvania State Univ. Press.
- Morphy, Howard and Morgan Perkins. 2006. *Anthropology of Art. The Reader*. Malden: Blackwell.
- Juneja, Monica. 2011 "Global Art History and the 'Burden of Representation'." In: Hans Belting/Andrea Buddensieg (eds). *Global Studies: Mapping the Contemporary*. Ostfildern: Hatje Cantz.
- Juneja, Monica and Christian Kravagna. 2013. "Understanding Transculturalism." In *Transcultural Modernisms*, ed. Fahim Amir et.al. Berlin: Sternberg Press, 22-33.
- Lackner, Michael, Iwo Amelung and Joachim Kurtz. 2001. *New Terms for New Ideas: Western Knowledge and Lexical Change in late Quing China*. Leiden: Brill.
- Pomeranz, Kenneth. 2000. *The Great Divergence: China, Europe, and the Making of the Modern World Economy*. Princeton: Princeton University Press.
- Sartori, Andrew. 2008. *Bengal in Global Concept History: Culturalism in the Age of Capital*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Kitty Zijlmans/ Wilfried van Damme (eds). 2008. *World Art Studies: Exploring Concepts and Approaches*. Amsterdam: Valiz.

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Regular homework for this lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. The course Panda webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目41

科目ナンバリング		G-LET36 7JK02 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Transcultural Studies (Tutorium) Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Transcultural Studies (Discussion session)									
[授業の概要・目的]											
<p>The concept of transculturality can be used both as a heuristic device (e.g. multi-perspectivity and multi-locality) and focus of study (e.g. cultural entanglements).</p> <p>It is embedded in a large and very heterogeneous landscape of theoretical and methodological approaches that come from various disciplines and cover different thematic, historical and geographic areas.</p> <p>Jointly conducted by four researchers from different disciplinary backgrounds, this discussion class complements the lecture series of the same name and deals with the contributions and limitations of inherited and current notions of transculturality. Focusing on three study areas, "Knowledge, Belief and Religion," "Society, Economy and Governance" and "Visual, Media and Material Culture," and the respective fields of research of the lecturers, theories and methods will be tested, e.g. in explorations of diasporic cinema and cultural identity politics, circular movements in the development of "Modern Postural Yoga," and the relationship between patterns of migration and modes of institutionalization. The goal of the course is to deepen students' understanding of transcultural phenomena and perspectives.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Introduction to Transcultural Studies. *****</p> <p>IMPORTANT: Depending on the pandemic situation, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check "Class support" or PandA for detailed information. 注意：パンデミック状況により、本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。 *****</p>											
[到達目標]											
<p>Students will discuss the lectures and readings about the historical development of theories of transculturality and their application in practical research in the humanities and social sciences. This will allow them to deepen their understanding of transcultural dynamics, theoretical perspectives, the creation and crossing of cultural borders, entangled histories and forms of circulation.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>IMPORTANT・重要: Parts (1) Introduction and (2) Foundations will be offered online (remote) only or in hybrid form (please go to PandA for the most up-to-date information and the Zoom link).</p> <p>(1) Introduction [1 week] The Introduction to the course covers the aims, methods, requirements and overall organisation of the class,</p>											
----- Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(2)へ続く -----											

## Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(2)

including guidelines for essay writing and brief overviews of the three study foci, "Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Culture" (VMC).

### (2) Foundations [3 weeks]

The first three-week section of readings complements the lecture by Bjorn-Ole KAMM and discusses transculturality within the matrix of associated terms and metaphors, such as hybridity, as well as related-but-different perspectives, postcolonialism for example, followed by an introduction into transculturality as heuristic principle and its methodological consequences.

### (3) Knowledge, Belief and Religion [3 weeks]

In the following three weeks the readings will be discussed that relate to Somdev VASUDEVA's lectures on the concept of transculturality using "Modern Postural Yoga" as an example. In the first lecture, we investigate historical precursors of the relevant phenomena, explore influences of British and Scandinavian physical culture on the development of postural yoga in India in the second lecture, and consider the ways in which the latter was received (back) in Britain and globally in the final class of this section.

### (4) Society, Economy and Governance [3 weeks]

This section will deal with people on the move and practices of control and institutionalization, for example, through immigration policies, minority policies, social integration policies or citizenship, particularly in Asian countries, as they are discussed by ASATO Wako in his lectures. The focus on cross-border migration and demographic challenges shifts to supranational entities, such as ASEAN, in the last week.

### (5) Visual, Media and Material Culture [3 weeks] - (lecturer: Mitsuyo WADA-MARCIANO)

The last section focuses on transculturality in film and identity politics, dealing with individual filmmaking in PRC in the first week, and looking at aspects of diasporic cinema, especially the concept of transcultural queerness in the second. The last week will examine various archival film practices in the relationship with the realm of visual media.

### (6) Review and Feedback

#### 【履修要件】

Participation in the main lecture class Introduction to Transcultural Studies is mandatory. (Code: JK01001).

#### 【成績評価の方法・観点】

Readings (40%), discussion (40%), and active participation (20%)

#### 【教科書】

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

#### 【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

## Introduction-Transcultural Studies (Tutorium)(3)

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework for the lecture class (readings and short comprehension essays) will play an important role in this course.

### （その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course Panda webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目42

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (KBR) A Introduction-Focus I Seminar (KBR) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)へ続く											

## Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)

### [成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Introduced during class

### [授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目43

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (SEG) A Introduction-Focus I Seminar (SEG) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This class will cover social research methods, particularly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through observation, interviews, questionnaires, etc., and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, how people think and why they think the way they do, and finally, we believe that researchers approach social reality through research. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue. In addition, since this class is mainly for the Joint Degree Master of Arts Program in Transcultural Studies, fieldwork in Kyoto City will be conducted in addition to reviewing previous academic works on Japanese social institutions.</p> <p>About Japanese Social Institutions and Fieldwork The main topics will be multiculturalism and Buraku (outcast community). The fieldwork will take place in Higashikujo in Kyoto City, where Korean residents, newcomers to Japan, and other foreigners live. Outcast communities have been historically formed and are scattered throughout Kyoto City. Although they have already disappeared institutionally, the discrimination itself remains today and is also considered important as a historical lesson. In this class, we will continue to learn about the historical background of the Outcast community and learn about the Outcast community today through visits to archives and other facilities.</p>											
【到達目標】											
To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. introduction</li> <li>2. qualitative research (1)</li> <li>3. qualitative research (2)</li> <li>4. qualitative research (3)</li> <li>5. history and society (outcast community field visit)</li> <li>6. field visit to community</li> <li>7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center)</li> <li>8. listening and writing anthropology</li> <li>9. education in Japan (field visit to public schools)</li> </ol>											
----- Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)

10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization)
  11. Pandemic and Migration
  12. Students presentation (1)
  13. Students presentation (2)
  14. Students presentation (3)
  15. conclusion / feedback
- schedule may change due to scheduling.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

( 参考書 )

Corrigan-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, " The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology, " *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, " The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research, " *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, " Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment, " *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

### （ その他（オフィスアワー等） ）

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目44

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (VMC) A Introduction-Focus I Seminar (VMC) A				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Japanese Contemporary Popular Culture: Media Practices in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: Depending on the pandemic situation, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：パンデミック状況により、本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>Japanese popular media practices play not only in Japan a significant role in the everyday lives of many people. The course investigates various elements of this popular and consumer culture, such as manga, anime, or games, from a transcultural perspective. This practice-oriented and interactive seminar focuses on theoretical concepts and analytical techniques practical to engage transculturality in the cross-disciplinary research fields of visual, material, and media culture.</p> <p>Research into (sub-/pop-) cultures, for example, fan studies, often focuses either on the content or on the communities of fandom, at times essentializing involved persons or drawing borders around highly interconnected and dynamic things. However, cultural practices are performative, meaning that they exist through "doing," through recreating, tracing the network of involved human and non-human elements.</p> <p>Borrowing from Wittgenstein, Foucault, and many others, the course revisits key readings for a transcultural approach dealing with visual practices, such as cosplay and media content, for example, cultural representations of nationality or gender. Questions of production, reception, and appropriation by users in and outside Japan form the second point of departure. The theoretical input forms the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases.</p> <p>The course primarily addresses JDTS and MATS students of the VMC focus in their first semester but also welcomes students in their second year who are about to define their MA thesis topic. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams. It does not include a written term paper (see ECTS requirements below!), but several written short pieces and a project report instead.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture.            Modules: Introduction to Transcultural Studies.</p>											
[到達目標]											
<p>The course seeks to establish an understanding of theories of transculturality, entertainment, and user agency and various angles of research methodology useful for the study of visual and media practices. Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how to develop a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike.</p> <p>Students will apply key methodologies to contemporary cases studies, such as cyber-ethnography of fans, qualitative visual and textual analysis of manga, or the analysis of discourses surrounding the physical embodiment of fictional characters. The course aims to assist students in taking the leap to a position of knowledge production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.</p>											
----- Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)

### [授業計画と内容]

The following general structure will guide the schedule of course sessions. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class.

- (1) The first sessions introduce students to actor, network, and practice theories and appropriate methods for studying popular and sub-cultural practices. [Weeks 1-5]
- (2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific object, and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), popular culture often necessitates analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g., text analysis, ethnography, cyber-ethnography), working on the same question from different angles (triangulation). [Weeks 6-10]
- (3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results and discuss problems and achievements according to the overall study question. [Weeks 11-15]

The lectures, individual preparations (homework/feedback), and group projects will figure 1/3 of the course each.

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

All students: Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): A research paper (counting 30% of the overall grade).

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage. The course takes some guiding ideas from "Inside-out Japan? Popular culture and globalization in the context of Japan," by Matthew Allen & Rumi Sakamoto. 2006. Popular Culture, Globalization and Japan. London & New York: Routledge. pp.1-12. Reading their introduction/book is not mandatory but the chapter may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

## Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)

---

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目45

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (SEG) B Introduction-Focus I Seminar (SEG) B				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Issues in Environmental History: Nature, Knowledge, Place, and Surroundings									
【授業の概要・目的】											
<p>When we conjure up "the environment" in our mind 's eye, what do we see? Perhaps we envision mountains, trees, streams, and waves--scenes where humans don ' t appear or make only transient visits. Some of us could think about holistic linkages among all living creatures and their surroundings. Others among us may imagine how human societies have exploited and polluted relationships to non-human spaces. We might also "see" worldwide phenomena that are less obviously visible from a single vantage point, most notably climate change.</p> <p>This course invites us to reflect upon the multiplicity of environments and environmental thinking around the world, at a moment defined by global-scale environmental crises and human impacts. Some questions are: How have ways of understanding the environment, sustainability, and nature emerged, interacted, and changed? Can we study the world through approaches that go beyond human perspectives alone?</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• The course will introduce you to the multi-stranded field of environmental history, which is animated by desires both to understand the past on its own terms and to bring the past to bear on present-day problems.</li> <li>• The course will press us to think about how environmental ideas structure people ' s everyday lives and inform their political priorities. We will consider these issues by looking closely at recent English-language research related to the Japanese archipelago and its environs. We will explore how concepts of nature, human artifice, resources, pollution, science, conservation, war, and food have functioned in Japan. By the same token, we will survey "more-than-human" approaches to understanding environments. We are lucky in this course to have a rich space in which to pursue these possibilities on the ground: Kyoto and its surroundings.</li> <li>• By the end of the course, you will be prepared to conduct research related to environmental history from new points of view.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1. Introduction</p> <p>I. Approaches to Environmental History</p> <p>Week 2. The Trouble with Wilderness</p> <p>Week 3. Envirotech</p> <p>Week 4. Climate History</p> <p>II. Narrating Environmental Transformation</p> <p>Week 5. Visualizing and Managing Land and Sea</p> <p>Week 6. Changes in the Land</p> <p>Week 7. Nature and Empire</p>											
----- Introduction-Focus I Seminar (SEG) B (2)へ続く -----											



## Introduction-Focus I Seminar (SEG) B (2)

---

Week 8. War

Week 9. The Archives of Environmental History

III. Environmentalisms

Week 10. Knowing Harm

Week 11. Conceptual Interlude 1

Week 12. Disaster

Week 13. Conceptual Interlude 2

Week 14. Environmentalisms

Week 15. Presentations and Feedback

(Please note that the precise topics and order are both subject to change.)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and presentations in class (25%)

Short weekly reading responses (25%)

Final paper (50%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

### (その他(オフィスアワー等))

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B (3)

---

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目46

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Focus I Seminar (VMC) B Introduction-Focus I Seminar (VMC) B				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4,5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Documentary Traditions									
【授業の概要・目的】											
<p>In this lecture, we will study multiple traditions of documentary film. The first half of the course will focus on Patricia Aufderheide's booklet on common practices and subgenres in documentary film. The second half will focus on Japanese documentary film, using the textbook <i>Developments in the Japanese Documentary Mode</i> as a foundation. Students will be required to purchase/hold the two textbooks listed below before the class begins.</p>											
【到達目標】											
<p>The students in this course will learn the following three points.</p> <p>1) To absorb new knowledge on documentary film while reading texts. -- There are few appropriate texts that can provide an overview of documentary film. In addition to the two textbooks listed below, many other reading materials will be introduced in the class to make students aware of the richness of documentary film.</p> <p>2) To look at the documentary 's transcultural traditions from both the English-speaking perspective and the perspective of Japanese film history. -- Documentary films are not always produced in the same way around the world, and documentary film is a medium that reflect the social and political nature of a region as well as the needs of its people. We will consider this multilayeredness and flexibility by using different texts in the first and second halves of this paper.</p> <p>3) To talk about film, and to practice it in class. -- In this course, the emphasis will not be on finding any one right answer, but on discussing what you think about the films, or about the readings for each week. Through these discussions, students will hone their skills on how to communicate their thoughts to others.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1 and 2 Introduction</p> <p>Screening: Nanook of the North (1922, dir. Robert. J. Flaherty), 1h 18min.</p> <p>Class 3 and 4 Defining the Documentary 1 Naming Form Founders</p> <p>Screening:</p>											
----- Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(2)へ続く -----											

## Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(2)

---

Drifters (1929, dir. John Grierson), 49min.

The Man with a Movie Camera (1929, dir. Dziga Vertov), 1h 8min.

Class 5 and 6

Defining the Documentary 2

Cinema verite

Screening:

Salesman (1969, Albert Maysles, David Maysles, Charlotte Zwerin), 1h 31min.excerpt

Sisters in Law (2005, dir. Kim Longinotto), 1h 44min.

Class 7 and 8

Subgenres 1

Public Affairs

Government Propaganda

Screening:

Triumph of the Will (1935, dir. Leni Riefenstahl), 1h 54min.

The Wonderful, Horrible Life of Leni Riefenstahl (1993, dir. Ray M#252ller), 3h 3min.#8212excerpt

Class 9 and 10

Subgenres 2

Advocacy

Historical

Screening:

Night and Fog (1956, dir. Alain Resnais), 32min.

Class 11 and 12

Subgenres 3

Ethnographic

Nature

Screening:

Moi, un noir (I, a Negro, 1957, dir. Jean Rouch), 1h 10min.

Class 13 and 14

Documentary Traditions in Japan

Marcos P. Centeno-Martin and Michael Raine. " Tracing Tendencies in the Japanese Documentary Mode. " Developments in the Japanese Documentary Mode, ed. Marcos P. Centeno-Martin and Michael Raine. (MDPi, 2020): 1-15.

Marco P. Centeno-Martin. " Legacies of Hani Susumu ' s Documentary School. " Developments in the Japanese Documentary Mode, ed. Marcos P. Centeno-Martin and Michael Raine. (MDPi, 2020): 53-64.

Screening:

## Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(3)

Children in the Classroom (Kyoshitus no kodomotachi, 1954, dir. Hani Susumu), 30min.  
A Japanese Village (Nipponkoku furuyashiki-mura, 1984, dir. Ogawa Shinsuke), 3h 30min.

Class 15

Student Presentations

Students submit their final papers to me on June 21st.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Attendance and Participation in discussions	10%
Leading discussion (on readings)	30%
Presentation	20%
Final paper	30%

(An explanation of each of these items will be explained in class at the beginning of the semester.)

### 【教科書】

Patricia Aufderheide 『Documentary Film: A Very Short Introduction』 (Oxford University Press, 2007)  
Marcos Centeno and Michael Raine, eds. 『Developments in the Japanese Documentary Mode--This is an open access book』 (MDPI, 2020)

Please purchase Aufderheide's book prior to the beginning of our course via online. The second book, edited by Marcos Centeno and Michael Raine, is an open access book, so you can read the chapters online; no need to purchase this one.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

All students must come to each class after reading reading materials.

I might be assigning students to go to movie theater and view one or two documentary films during the semester.

### (その他(オフィスアワー等))

I usually stay in my office on Monday and Tuesday in the Spring semester, but it's safe to make an appointment with me via email first, if you want to meet me. My email is <mwadamar@gmail.com>.

Introduction-Focus I Seminar (VMC) B(4)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目47

科目ナンバリング		G-LET36 7JK06 SE36									
授業科目名 <英訳>		Introduction-Research Skills Introduction-Research Skills				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Basic Research Skills									
【授業の概要・目的】											
<p>This course introduces useful and essential skills for academic research to new JDTS students. Besides providing essential academic skills (using citation systems, finding topic-related literature in the Kyoto university and Heidelberg university library and electronic databases, time management, good scientific practice), the course will also prepare the students for preparing and giving good presentations and writing seminar papers within the JDTS program, including practical advice on formalities and layout. Main questions we will address are: Where and how do I find literature for my presentation and term paper? How do I prepare and give a good presentation? How does a term paper look like? What makes a good term paper? What needs to be included in a term paper? How do I quote correctly and create a bibliography? How to manage my time efficiently? Depending on corona risk levels, the course also includes a guided tour through the main branch of the university library on the Yoshida campus.</p> <p>Study Focus: all. Module: Introduction to Transcultural Studies. *****</p> <p>IMPORTANT: Depending on the pandemic situation, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information. 注意：パンデミック状況により、本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。 *****</p>											
【到達目標】											
Students will acquire basic academic skills for conducting research and obtain necessary expertise for preparing good presentations and term papers.											
【授業計画と内容】											
<p>Please see PandA for a detailed course schedule. We will cover the topics listed below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) What is Research?</li> <li>(2) Research Questions</li> <li>(3) Working Hypotheses</li> <li>(4) Finding Sources</li> <li>(5) Quality and Credibility of Sources</li> <li>(6) Oral Presentations I</li> <li>(7) Oral Presentations II</li> <li>(8) Oral Presentations III</li> <li>(9) Term Papers I</li> <li>(10) Term Papers II</li> <li>(11) Term Papers III</li> <li>(12) Plagiarism</li> </ol>											
----- Introduction-Research Skills(2)へ続く -----											

## Introduction-Research Skills(2)

- (13) Bibliography and Citation Software
- (14) Time Management
- (15) Project Management

### 【履修要件】

Mandatory for all first-year students of Transcultural Studies. Please make sure you can access all class material and have a sufficient internet connection for the Zoom meetings. If you have technical issues, please contact the instructor as soon as possible.

### 【成績評価の方法・観点】

Students' grades will be weighed according to the following scheme:

- Active participation 30%
- Homework and Exercises 30%
- Final term essay 40%

### 【教科書】

授業中に指示する

The course materials will be made available via the course PandA webpage.

### 【参考書等】

( 参考書 )

- Denzin, Norman K. 2009. 『The Research Act: A Theoretical Introduction to Sociological Methods』 ( New Brunswick: Aldine Pub )
  - Levin, Peter. 2007. 『Skilful Time Management.』 ( Maidenhead: Open University Press )
  - Turabian, Kate L. 2010. 『Student's Guide to Writing College Papers. 4th ed., rev. by Gregory G. Colomb, et al.』 ( Chicago: University of Chicago Press )
  - Turabian, Kate L. 2013. 『A Manual for Writers of Research Papers. 8th ed., rev. by Wayne C. Booth, et al.』 ( Chicago: University of Chicago Press )
  - Wallwork, Adrian. 2010. 『English for Presentation at International Conferences.』 ( New York: Springer )
- Selection; excerpts will be provided in class.

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Every participant is expected to carry out his or her own small research project and give a short presentation in the course. They will be given enough time for assignments in class but might need to do some extra work out of class.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment. Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目48

科目ナンバリング		G-LET36 7JK07 SE36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion									
【授業の概要・目的】											
<p>The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Skills in Transcultural Studies I.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.</p> <p>The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.</p>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reading and Summarizing</li> <li>3. Sentences and Paragraphs</li> <li>4. The Structure of Arguments</li> <li>5. Using Sources and Plagiarism</li> <li>6. Coherence, Cohesion, and Clarity</li> <li>7. Usage Rules and Style Suggestions</li> <li>8. Peer Review Session 1</li> <li>9. Academic Genres and Conventions</li> <li>10. Modes of Presentation</li> <li>11. Introductions and Conclusions</li> </ol>											
----- Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く -----											

## Skills for Transcultural Studies I-English(2)

12. Strategies for Editing and Revision
13. Peer Review Session 2
14. Final Presentations
15. Discussing the Final Papers

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

### 【履修要件】

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

### 【成績評価の方法・観点】

Class Participation: 15%  
Exercises: 20%  
Essay 1: 20%  
Essay 2: 25%  
Final Presentation: 20%

### 【教科書】

使用しない  
Reading materials will be provided as PDF files.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

### (その他（オフィスアワー等）)

Office hours: by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目49

科目ナンバリング		G-LET36 7JK08 SJ36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Translation of Japanese and its History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is aimed to help students to have a basic knowledge and understanding about translation of Japanese in terms of Japanese linguistics and history of Japanese. This course has 3 parts.</p> <p>Part 1: Translation between Japanese and English            Part 2: Translation between past Japanese and present Japanese            Part 3 : History of translation in Japan</p>											
【到達目標】											
<p>The goals of this course are to have a basic knowledge and understanding of:</p> <p>(1) what linguistic aspects affect translation between Japanese and other languages (especially English).            (2) what linguistic aspects affect translation between past and present Japanese.            (3) history of translation in Japan.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction            (2-4) Part 1: Translation between Japanese and English            (5-9) Part 2: Translation between past Japanese and present Japanese            (10-14) Part 3: History of translation in Japan            (15) Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>1. Non-Japanese native students.            2. With a basic comprehension of Japanese.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Report for Part 1: 25%            Report for Part 2: 35%            Report for Part 3: 40%</p> <p>[JDTS/MATS students] This course can be taken as reduced seminar (4 ECTS) only.</p>											
----- Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese(2)へ続く -----											

Skills for Transcultural Studies I-Advanced Japanese(2)

**[教科書]**

None. Reading materials will be provided.

**[参考書等]**

(参考書)

Will be introduced in classes.

**[授業外学修(予習・復習)等]**

To read papers introduced in classes.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目50

科目ナンバリング		G-LET36 6JK09 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Scripts, Languages and Buddhist Scriptures									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:</p> <p>I. Scripts and Writing Systems;            II. Languages and Words            III. Translation Studies of Buddhist Scriptures</p>											
【到達目標】											
<p>Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the textual and linguistic aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and interaction between diverse agencies on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of writing systems, construction and transmission of registers as well as translation studies of Buddhist scriptures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>I. Scripts and Writing Systems            Week #01 General Introduction            1.1. Writing System in the World            1.2. Logic of Writing            1.3. Interplay between Scripts and Languages (e.g. Scripts and Word Forms)            References: The world writing systems; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics Volume 1, 5. The writing systems of Indo-European;</p> <p>Week #02 Decipherment Part 1            2.1. Brahmi Script            2.2. Case Study: Asoka Inscription in Brahmi;            2.3. Mycenaean Greek Alphabet (Linear B)            2.4. Case Study: Documents KN Ca 895 and PY Ta 722</p> <p>Week #03 Decipherment Part 2            3.1. Kharosthi Script            3.2. Case Study: Asoka Inscription in Kharosthi;            3.3. Case Study: Coins in Greek and Gandhari            3.4. Historical Development of Brahmi and Kharosthi Script</p>											
----- Foundations I-Seminar (KBR)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR)(2)

References: Salomon 1998 Indian epigraphy; Falk 2006 Asokan Sites and Artefacts; Handout (glass\_salomon\_kharosthi); A companion to linear B Mycenaean Greek texts and their world 1;  
Website: <http://www.indoskript.org> ; <http://calibra.classics.cam.ac.uk> ; <https://damos.hf.uio.no/1> ;

### Week #04 Scripts along the Silk Road

- 4.1. Scripts and Languages in Turfan Collection
- 4.2. Scripts and Dating (Chinese Calligraphy)
- 4.3. Case Study: Scripts and Buddhist Sects (Saindhavi Script)

References: Fujieda 藤枝晃 Tunhuang Manuscripts Part II; Fujieda 1989 Earliest Types of Chinese Buddhist Manuscripts Excavated in Turfan; Tsui, Chung-hui 崔中慧 2020 Chinese Calligraphy and Early Buddhist Manuscripts; Dragomir Dimitrov 2020 The Buddhist Indus Script and Scriptures: on the so-called Bhaiksuki or Saindhavi Script of the Sammitiyas and their Canon;

### Week #05 Recognise and Read Part 1

- 5.1. Case Study: Read Skt. Manuscripts (Udanavarga, Catalogue System “ SHT ” )
- 5.2. Case Study: Read Gandhari Manuscript (Dharmapada)

### Week #06 Recognise and Read Part 2

- 6.1. Case Study: Read Skt.-Toch. Bilingual Manuscripts ( “ THT ” , THT542, THT1018)
- 6.2. Case Study: Read Bactrian Manuscript

Reference: Sander 1968 Palaographisches zu den Sanskrithandschriften; Bernhard 1965 Udanavarga; Brough 1962 The Gandhari Dharmapada. London; Sims-Williams 2007 Bactrian documents from Northern Afghanistan 2 Letters and Buddhist texts;

Website: Sanskrit: <http://idp.bbaw.de/> ; Gandhari: <https://gandhari.org/> ; Tocharian <https://www.univie.ac.at/tocharian> ;

## II. Languages and Words

### Week #07 Tarim Basin as Contact Zone

- 7.1. Literary Survey of Serindia
- 7.2. Linguistic Survey of Serindia

### Week #08 Languages and Texts along the Silk Road Part 1

- 8.1. Sanskrit Literature
- 8.2. Gandhari Literature
- 8.3. Tocharian Translations of Buddhist Texts

Reference: Wille 2005 Survey of the Sanskrit Manuscripts in the Turfan Collection; Tremblay 2007 Spread of Buddhism in Serindia; Tremblay 2001 Pour une histoire de la Serinde;

Website: <https://gandhari.org/home> ;

### Week #09 Translation and Loanwords Part 1

- 9.1. General Introduction (agencies, directions, registers)
- 9.2. Loanwords in English (from French, Nordic, Latin, Japanese, etc.)
- 9.3. Loanwords in Japanese (from English, German, Dutch, etc.)

## Foundations I-Seminar (KBR)(3)

---

### Week #10 Translation and Loanwords Part 2

- 10.1. Hittite, Akkadian & Sumerian (script involved)
- 10.2. Germanic Loanwords into Slavic and Celtic
- 10.3. Circular Borrowing A >> B >> A ' (e.g. Skt. pustaka- ' book ' )
- 10.4. Buddhist Loanwords in Chinese, Tibetan, Tocharian, Old Turkic

Reference: Oxford English Dictionary; Hethitisches Handwörterbuch 2008 2nd; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics vols 2 & 3; Adams 2013 A dictionary of Tocharian B; Wilkens 2021 Handwörterbuch des Altuigurischen;

### Week #11 Translation and Loanwords Part 3

- 11.1. Case Study: Middle Chinese Texts in Brahmi Script
- 11.2. Case Study: Origin of Chin. 觀音 guan yin
- 11.3. Case Study: Origins of Chin. 沙門 sha men, 和尚 he shang

Reference: Karashima 2017 On Avalokitasvara and Avalokitesvara; Pan 2021 Handout; Skjaervo 2004 This most excellent shine of gold 2; Bailey 1979 Dictionary of Khotan Saka;

Website: <https://gandhari.org/home> ;

### Week #12 Languages and Texts along the Silk Road Part 2

- 12.1. Khotanese Translations of Buddhist Texts
- 12.2. Sogdian Translations of Buddhist Texts
- 12.3. Uighur Translations of Buddhist Texts

Reference: Emmerick 1992 Literature of Khotan; Maggi Khotanese Literature; Yoshida 2015 A handlist of Buddhist Sogdian texts; Zieme Local Literatures Uighur in Brill Encyclopedia Buddhism; Karashima 辛嶋 1994 『長阿含經』の原語の研究 音写語分析を中心として; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ' s Chin. Transl. of Vkn;

## III. Translation Studies of Buddhist Scriptures

### Week #13 Transculturality in Translatology

- 13.1. Transmission of Buddhist Literature and Early Chinese Translations
- 13.2. Translation Techniques and Loan Translation (Calque)
- 13.3. Cultural Entanglements of Sanskrit, Middle Indic, Middle Iranian, Tocharian and Chinese Transmissions.

### Week #14 Vajracchedika

Case Study: Chinese translations of Vajracchedika by Kumarajiva, Dharmagupta and Xuanzang from perspectives of transcultural studies.

### Week #15 Review of Course Materials

Reference: Karashima 辛嶋 1994 『長阿含經』の原語の研究 音写語分析を中心として; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ' s Chin. Transl. of Vkn;

## Foundations I-Seminar (KBR)(4)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students will be required to read the materials in advance and come prepared to discuss them.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 大学院共通科目51

科目ナンバリング		G-LET36 6JK09 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 Campbell, Michael			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Morality, Culture and Relativism									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course we will consider issues around the understanding and evaluation of other cultures. How far can moral judgements cross cultural contexts? What is necessary for cross-cultural judgements to be both true and appropriate? Under what conditions can we responsibly judge the behaviour of others? Is belief in a universal human nature either necessary or sufficient for justifying a stock of common moral commitments? We will consider these questions through examining how moral philosophers have dealt with issues around relativism and the representation of individual and cultural difference. Along the way we will consider the plausibility of cultural relativism, and will examine what function evaluative judgements might serve when they cross cultural or temporal contexts. As well as introducing students to a central issue in moral philosophy, participants in this course will have the opportunity to engage with important contemporary thinkers working at the forefront of issues around the nature and limits of moral judgement, including Cora Diamond and David Wong.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- To introduce students to philosophical controversies surrounding relativism, objectivity and the understanding of other cultures.</li> <li>- To familiarise students with some of the aims, methods and problems of contemporary moral philosophy.</li> <li>- To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>This schedule is indicative only and is liable to change as the lectures progress.</p> <p>Weeks 1 - 3 Understanding a ' Primitive ' Society</p> <p>Weeks 4 - 7 Conceptualizing Individual and Social Change</p> <p>Weeks 8 - 11 The Relativism of Distance</p> <p>Week 12 - 14 Understanding Others: Understanding Ourselves</p> <p>Week 15 Feedback class</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- Foundations I-Seminar (KBR) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR) (2)

### [成績評価の方法・観点]

Evaluation will be conducted via quiz (40%) and final essay (60%). Students will be awarded a raw score grade (0-100).

### [教科書]

Students will be provided with copies of the relevant primary texts ahead of time.

### [参考書等]

(参考書)

### [授業外学修(予習・復習)等]

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes to test students comprehension of the material. During the semester students will be expected to prepare for their final essay.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目52

科目ナンバリング		G-LET36 6JK09 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR) Foundations I-Seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		南山大学 人類学研究所 非常勤研究員 MCCARTNEY, Patrick Stanley Dennis			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		A transcultural introduction to knowledge, belief, and religion									
【授業の概要・目的】											
<p>This course takes a transcultural approach to explore the Humanities and ways of understanding our worlds and our places in them. There are different ways to cultivate knowledge, be inspired, and transform ourselves, as well as understand what it means to be human.</p>											
【到達目標】											
<p>This introductory course covers key areas of the Humanities through a transcultural perspective.</p> <p>The course provides an understanding of what constitutes the Humanities and how a transcultural approach to the multi-dimensional flow of ideas and information adds value to our ability to understand and operate within the world.</p> <p>It enables students to consider why an education in the Humanities is important.</p> <p>It enables students to apply these newfound skills in critical thinking in the real world through an applied approach to problem identification and solving.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Transcultural Studies is a way to learn about cultural exchange processes, transformations and interweavings between, in, or beyond Asia and Europe. The brief aim to consider flows of ideas and through a multimodal and multidimensional perspective that is transregional, which questions traditional ideas about cultures in ethnically contained, linguistically homogenous and territorially limited areas. The focus, then, is on exploring the dynamics from the local to the global and all the glocal stops along the way. How are we to understand difference and similarity in any meaningful way when the world is complex and dynamic, both now and what comes to us from the past.</p> <p>This course consists of 15 lectures (15 weeks x 1 class)</p> <p>Weekly Format</p> <p>Each week is focused on a particular theme, which contains a particular set of theory and methods readings. All essential class readings listed in the syllabus will be provided as pdf or epub files.</p> <p>Questions will be provided to guide preparation for active participation in the next class. The weekly course content is split between Theory and Methods. The focus is on facilitating exposure to various research-based issues, methods and software and how these can be applied to the real world for practicable outcomes across multiple disciplines.</p> <p>There are seven short assignments spread out across the semester, culminating in a final assessment piece. The total score for the course ranges between 0-100.</p> <p>The first six assignments count a total of 10 points each (=60). The final assessment is worth 20 points (60+</p>											
----- Foundations I-Seminar (KBR) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR) (2)

---

20=80).

Assignment 1 - 10 points

Assignment 2 - 10 points

Assignment 3 - 10 points

Assignment 4 - 10 points

Assignment 5 - 10 points

Assignment 6 - 10 points

Assignment 7 - 20 points

Class Attendance = 10 points

Class Participation = 10 points

TOTAL = 100 points

-----

### Week 1: Introduction

**Aims:** This first class introduces the discipline of Transcultural Studies and provides an overview of the semester to come.

Explain expectations for course assessment.

**Guiding Questions:** What is culture? How can we study it? Why should we compare cultures? What is transcultural studies?

### Essential Readings:

1.1) Arthur, Paul Longley. "Introduction: Transcultural Studies in Australian Identity." In *Migrant Nation: Australian Culture, Society and Identity*, edited by Paul Longley Arthur, 1-19. London & New York: Anthem Press, 2018.

1.2) Michaels, Axel. "Cultural hybridity and transculturality." In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 3-14. London & New York: Routledge, 2019.

1.3) Gibbon, Guy. 2015. "Introduction." In *Critically reading the theory and methods of archaeology*, pp. 7-16. Lanham: Altamira Press.

1.4) Strauss, Sarah and Laura Mandelbaum, "Consuming Yoga, Conserving the Environment: Transcultural Discourses on Sustainable Living." In *Yoga Traveling: Bodily Practice in Transcultural Perspective*, edited by Beatrix Hauser, pp. 225-248. Cham, CH: Springer.

**First Assessment:** Submit by end of Week 3 (10 of 100 points)

1.1) Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. 2015. "Chapter 1: Foundations of Research Methods." In *Research Methods: The Essential Knowledge Base*, pp. 1-30. Cengage Learning: Sydney.

1.2) Download the Review Questions file, here.

1.3) Attempt the Review Questions (RQ1) on pp. 31-32.

1.4) Label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS1.

1.5) Save and upload the document to learning portal.

1.6) Create a free account with <https://www.notion.so/>

1.7) Explore this software and familiarise yourself with it as a place to organise information and workflow

---

## Foundations I-Seminar (KBR) (3)

---

1.8) Create the following sections:

1.8.1) Name

1.8.2) Proposed Title of Final Assessment:

1.8.3) General Idea: Add three to five key words that might relate to your topic.

1.8.4) Research Question(s): Add one to three relevant questions.

1.8.5) Methods: Add information about HOW, WHERE, WHAT, WHEN, and WHY you would do.

---

Week 2: Philology: The forgotten origins of the modern humanities

**Aims:** This second class situates the origins of the humanities in the study of, or love for, words. Philology is a method for unlocking the past through the study of ancient texts, manuscripts, and epigraphs (stone inscriptions). Is there nothing new under the sun? Can we learn anything from the dusty past?

**Guiding Questions:** Why Humanities? Why not STEM? How might studying the Humanities transform us in ways that other ways of knowing and being might not facilitate? Why is it important to go to the primary source and not rely on the translations found in secondary sources? What can we learn about ourselves and society by looking into the past?

**Essential Readings:**

2.1) Turner, J. 2014. " Prologue " and " Conventions. " In *Philology: The forgotten origins of the modern humanities*, pp. x-xxi. Princeton University Press: Princeton.

2.2) Herren, Madeleine. *Transculturality, or, how to find Europe beyond Eurocentrism*. In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 95-106. London & New York: Routledge, 2019.

2.3) Lavie, Smadar. 1993. "Chapter 7. ' The One Who Writes U ' : Political Allegory and the Experience of Occupation among the Mzeina Bedouin. " In *Creative/Anthropology*. Edited by S. Lavie, K. Narayan, and R. Rosaldo, pp. 153-183. Cornell University Press: New York.

2.4) Kikuchi, Yuko. 2004. "The Oriental-Occidental hybrid of philosophy and religion." In *Japanese Modernisation and Mingei Theory: Cultural nationalism and Oriental Orientalism*, pp. 4-8. London and New York: Routledge Curzon.

**Optional Exercises:**

1. Explore this site on Music in Ancient Rome (with audio), listen to the introduction about this instrument from ancient Egypt and a few of the short songs <https://www.futurelearn.com/courses/rome/0/steps/27642>

2. Watch this short video on the history of The Indo-European Connection <https://www.youtube.com/watch?v=SqK7XXvfiXs>

3. Watch this very short story: The Sound of the Proto Indo-European Language (The King & the God) <https://www.youtube.com/watch?v=S7kxmcz971E>

4. Have a look at the information about this Basic-level Workshop on Manuscriptology and Palaeography, Amrita University <https://www.amrita.edu/event/basic-level-workshop-manuscriptology-and-palaeography>

5. Have a look at the different collections at the Chester Beatty Library.

---

## Foundations I-Seminar (KBR) (4)

---

Week 3: Introduction to Epistemology: How do we know what we know?

Aims: The intention is explore the idea of knowledge, what different cultures consider knowledge to be and how this might change or stay the same across time and space.

Guiding Questions: Are we certain that we know to be 'True' is in fact so? Is truth relative? What does this even mean?

Essential Readings:

- 3.1) Gibbon, Guy. 2015. "Chapter 4." In *Critically reading the theory and methods of archaeology*, pp. 35-45. Lanham: Altamira Press.
- 3.2) Aldana, F.L. "Introduction: A new humanism and self, identity, and ideas." In *Why the humanities matter: A Commonsense Approach*, ix-xiv and 1-19. University of Texas Press: Austin, 2008.
- 3.3) Hamminga, B. "Epistemology from the African Point of View." In *Knowledge Cultures: Comparative Western and African Epistemology*, edited by B. Hamminga, 57-84. New York: Rodopi, 2005.
- 3.4) Schiffer, M.B. 2013. "Varieties of Scientific Knowledge." In *The Archaeology of Science*, pp. 25-42. Cham, Switzerland: Springer International.

Week 4: Philosophically-thinking...the pursuit of knowledge, thinking critically, and knowing the self

Aims: Philosophy refers to the love (or pursuit) of wisdom. Yet philosophy is often thought of having little application beyond gazing at one's navel, and that sophistry is something people who like to argue or build castles in the sky do. Yet, problem solving requires thinking through issues. However, we really cannot achieve much without having in place sound ways to reason and discuss problems we intend to solve. Philosophy, then, sits at the heart of just about every decision and subsequent action we do or intend. The aim of this module is to introduce the fundamentals of critical and self-reflexive thinking, and to introduce basic research frameworks and methods that can help the student begin to reflect on the opportunities to counter division and build cohesion.

Guiding Questions: Have you ever thought that the way you construct ideas is arbitrary and that other people and cultures throughout time have/had different ways of doing the same thing? How can we arrive at consensus? What is the point of science and the scientific method? Is it better to reduce error as much as possible or be 100 per cent correct? If we are certain that the way we as individuals and cultures construct knowledge and knowers and transmit this through generations, how can we work towards benefiting from, understanding, or tolerating differences of opinion? How do actual cultural differences and commonalities lead to division and conflict, or is it the construction of "self" and "other" that is at the root of our problems? How can we build cooperation, cohesion and unity?

Essential Reading:

- 4.1) Strandberg, H. Introduction and Chapter 1: Know Thyself. *Self-Knowledge and Self-Deception*, 1-13. Palgrave Macmillan: New York, 2015.
- 4.2) Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. Chapter 1: Foundations of Research Methods. In *Research Methods: The Essential Knowledge Base*, 1-30. Cengage Learning: Sydney, 2015.

## Foundations I-Seminar (KBR) (5)

---

4.3) 2. Hai-Jew, S. 2020. "Preface." In *Enhancing Qualitative and Mixed Methods Research with Technology*. Edited by S. Hai-Jew, pp. xxxiv-xlv. Hershey, PA: IGI Global.

Second Assessment: Sketching Your Research Plan: Submit by XXXX/XX/XX (10 of 100 points)

1. Read J.M. Fernandez-Balboa and B. Muros. 2006. "The Hegemonic Triumvirate: Ideologies, Discourses, and Habitus in Sport and Physical

Education: Implications and Suggestions," *Quest*, 58(2):197-221. <https://drive.google.com/file/d/1PXyFROqNI77cEZ8oqy3mmPmJEH6LaLj1/view?usp=sharing>

1.1 Read this Research Plan guide [https://www.ifcc.org/media/410323/05\\_Research\\_Guide\\_IFCC.pdf](https://www.ifcc.org/media/410323/05_Research_Guide_IFCC.pdf).

2. Use them as a template to help identify and consider a potential topic for the Final Assessment aligned to the underlying theme of the course: Identity and Communication in Transcultural Studies.

3. Create a 2-3 page summary of the outline for the Final Assessment.

4. Label your file: FAMILYNAME\_Student Number\_ASS2.

6. Upload documents to learning portal.

-----  
Week 5: Propaganda and Rhetoric

Aims: To explore the communicative strategies from different times and places.

Guiding Questions: Are there ethical ways to persuade people? If not, are noble lies tolerable? If so, to what extent?

Essential Readings:

5.1) Marlin, R. Chapter 1: Why study propaganda? In *Propaganda and the Ethics of Persuasion*, 1-34. Broadview Press: Peterborough, Canada, 2013.

5.2) Grint, Keith. 2022. "Critical Essay: Wicked problems in the Age of Uncertainty." *Human Relations*: 1-15.

5.3) Scholz, Jan. "Modern Arabic rhetorical manuals: A transcultural phenomenon." In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 170-184. London & New York: Routledge, 2019.

Third Assessment: Submit by XXXX/XX/XX (10 of 100 points)

1. Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. 2015. "Chapter 2: Ethics." In *Research Methods: The Essential Knowledge Base*, pp. 33-53. Cengage Learning: Sydney.

2. Download the Review Questions file, [here](#).

3. Attempt the Review Questions (RQ2) on pp. 51-52.

4. Use a pdf reader (like adobe or preview) to type each individual answer into the space on the pages.

5. Save and label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS3

6. Upload document to learning portal.

## Foundations I-Seminar (KBR) (6)

---

Week 6: Post-post-modernity...is it an infinite regression?

Aims: The Humanities are a direct result of the Enlightenment values that supposedly espouse free thought and rational enquiry. The ambition focused around replacing superstition and religious control. Yet, there is often little tying the enlightenment philosophers together, besides differences of opinion that results in confusion of what actually enlightenment ideas and modernist thinking is credited with achieving. In this module we explore in part ways in which the enlightenment values have come to us over the past few centuries and how they have evolved to create trans-cultural hybrids as well as fundamental issues with how we arrive at knowledge.

Guiding Questions:

What is the point of living? What is the point of anything? Why did the Enlightenment thinkers fail to cohesively answer these questions? Should we dispense with the ideals espoused, even if they are a confused assemblage of morality and virtue? How do we not descend into an infinite nihilistic regression? From where do we find meaning and purpose if not in art and literature? Without the Humanities to guide us, how would we find or create these treasures?

Essential Readings:

- 6.1) Todorov, T. "Introductory note" and "Chapter 1: The project." In *In Defense of the Enlightenment*, 6-24. London: Atlantic Books, 2010.
- 6.2) Lukianoff, G. and J. Haidt. "Introduction: The search for wisdom." In *The Coddling of the American Mind: How Good Intentions and Bad Ideas Are Setting up a Generation for Failure*, 11-24. New York: Penguin Press, 2018.
- 6.3) Bernard, H.R. "Chapter 15: Introduction to Qualitative and Quantitative Analysis." In *Research Methods in Anthropology: Qualitative and Quantitative Approaches*, pp. 337-345. Altamira Press: Lanham, Maryland, 2011.

Fourth Assessment: Text Analytics: Submit by XXXX/XX/XX (10 of 100 points)

1. Play around with copying and pasting random text from different books and websites from any source.
2. Make sure each sample of text is different to the rest in either subject, them, register, etc.
3. Take each sample text and add it to this word counting software.
4. Compare the Details and Key Word Densities of at least 5 different samples of text.
5. Take some screen shots.
6. Save them as one file.
7. Label it FAMILY NAME\_Student Number\_ASS4.
8. Upload to the learning portal.

-----  
Week 7: Are you sure? Identifying Truth and how to reduce error

Aims: Building on the principles from the previous module, we continue to explore the centrality of the Humanities in the pursuit of knowledge and how this can help us understand what it means to be human, while also nourishing the soul through the transformational effect of cultivating awareness and ways to understand and experience the world around us. Which of course all of these things are fundamental to just about every occupation and interpersonal experience we can potentially have. To this end, this week 's module demonstrates more conceptual frameworks and analytical tools necessary for rational, critical, and



## Foundations I-Seminar (KBR) (7)

---

compassionate enquiry across a range of disciplines, which will help identify Truth and Falsehood.

Guiding Questions: Are you 100 % certain that what you think you know to be true is in fact True? Are you sure? How to deal with competing truth claims such as attempts to brand the truth as “ fake news ” ? Is it possible to share Truth?

Essential Readings:

- 7.1) Potz, M. "Chapter 1: Introduction: Why We Need Political Science of Religion." In *Political Science of Religion: Theorising the Political Role of Religion*, 1-18. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2010.
- 7.2) Heelas, Paul. Introduction. In *Spiritualities of Life: New Age Romanticism and Consumptive Capitalism*, 1-22. Oxford: Blackwell, 2008.
- 7.3) Bendegem, J.V.P. 2013. “ Chapter 15: Argumentation and Pseudoscience: The Case for an Ethics of Argumentation. ” In *Philosophy of Pseudoscience: Reconsidering the Demarcation Problem*. Edited by M. Pigliucci and M. Boudry, pp. 287-304. The University of Chicago Press: Chicago and London.
- 7.4) Strandberg, H. 2006. “ Chapter 1: The Unfruitfulness of Rationalistic Discussion of Religious Belief. ” *The Possibility of Discussion: Relativism, Truth and Criticism of Religious Beliefs*. Hampshire, UK: Ashgate.

-----  
Week 8: Decolonizing and Re-Orienting through Neo-Colonialism: Part 1

Aims: Decolonization is a tricky ongoing project. It is as much about decolonizing minds and ways of thinking and being as it is about political situations. The intention of this module is to look at different ways in which the project of decolonization is taking place in various parts of the world to better understand comparative issues around the decolonization and neo-colonization of identity, space, and knowledge.

Guiding Questions: How are narratives constructed using colonial tropes? How are post colonial identities constructed? What challenges do both colonial and postcolonial narratives present to identity-based intervention design and operation?

Essential Readings:

- 8.1) Fox, J., C.S. Cashwell, and G. Picciotto. 2017. "The Opiate of the Masses: Measuring Spiritual Bypass and its relationship to Spirituality, Religion, Mindfulness, Psychological Distress, and Personality." *Spirituality in Clinical Practice* 4(4):274-287.
- 8.2) Bedasai, M. "Introduction" and "Chapter 1." In *Without Vision the People Perish. Jah Kingdom: Rastafarians, Tanzania, and Pan-Africanism in the Age of Decolonization*. North Carolina Press: Chapel Hill, 2017.
- 8.3) Verwimp, P and J. Boersema. 2013. “ Chapter 9: Fieldwork in Gitarama Introduction, Setting and Methods. ” In *Peasants in Power: The Political Economy of Development and Genocide in Rwanda*, pp. 195-212. Springer: Heidelberg.

Fifth Assessment: Submit by XXXX/XX/XX (10 of 100 points)

1. Read: Trochim, W., J.P. Donnelly and K. Arora. 2015. “ Chapter 5: Introduction to Measurement. ” In *Research Methods: The Essential Knowledge Base*, pp. 111-145. Cengage Learning: Sydney.
2. Download the Review Questions file, [here](#).
3. Attempt the Review Questions (RQ5) on pp. 142-143.
4. Use a pdf reader (like adobe or preview) to type each individual answer into the space on the pages.
5. Save and label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS5.

## Foundations I-Seminar (KBR) (8)

---

6. Upload document to learning portal.

-----  
Week 9: Decolonizing and Re-Orienting through Neo-Colonialism: Part 2

Aims: Follows on from Week 8.

Guiding Questions:

Essential Readings:

9.1) Hashimoto, A. Chapter 3: Japanese Narratives of Decolonization and Repatriation from Manchuria. In *The Cultural Trauma Of Decolonization: Colonial Returnees In The National Imagination*, edited by R. Eyerman and G. Sciortino, 57-84. Springer Nature: Cham, Switzerland, 2020.

9.2) Andreeva, Anna. Economies of the sacred in premodern Japan. In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 228-246. London & New York: Routledge, 2019.

9.3) White, B. 2006. " Re-orient-ing the occident: How young Japanese travellers are using the East-West dichotomy to dismantle regional nationalisms. " In *Dismantling the East-West Dichotomy: Essays in Honour of Jan van Bremen*. Edited by J. Hendry and H.W. Wong, pp.125-132. Routledge: London.

-----  
Week 10: A look back at the construction of knowledge

Aims: Labels have a way of sticking. The ways in which our forebears looked at the world impacts us today. This module looks at the disciplines of archaeology and anthropology for their roles in knowledge and belief.

Guiding Questions: What are the consequences of framing the world in particular ways?

Essential Readings:

10.1) Schiffer, M.B. 2013. "Exploration and Colonization." In *The Archaeology of Science*, 117-136. Cham, Switzerland: Springer International.

10.2) Turner, J. 2014. "Chapter 12: The Field Naturalists of Human Nature: Anthropology congeals into a discipline, 1840-1910." In *Philology: The forgotten origins of the modern humanities*, 328-356. Princeton University Press: Princeton.

Sixth Assessment: Update on Final Assessment (10 of 100 points)

- 1) Provide a summary of progress on Final Assessment
- 2) Should include basic headings and a paragraph minimum outlining reasons and justifications for choice of topic. Refer back to first assessment.
- 3) Save and label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS6.
- 4) Upload document to learning portal.

-----  
Week 11: Are there different types of knowledge?

## Foundations I-Seminar (KBR) (9)

---

Aims: The aim of this class is to consider how different types of knowledge might be constructed and valued, as well as their place in a transcultural world.

Guiding Questions: What are disciplines good for? Why do we need them?

Essential Readings:

1. Schiffer, M.B. 2013. "Varieties of Scientific Knowledge." In *The Archaeology of Science*, pp. 25-42. Cham, Switzerland: Springer International.
2. McIntyre, L. 2019. "Chapter 9: The Case for the Social Sciences." In *The Scientific Attitude: Defending Science from Denial, Fraud, and Pseudoscience*, pp. 299-321. Cambridge, MA: MIT Press.

-----  
Week 12: Pans and Pots

Aims: Perception is forever in a state of flux. What we think about something or someone changes over time. Memories fade and merge while new information might come to light. In the middle of this, individual memories are absorbed by higher orders of the social. These can translocate across cultures and countries to create pan-ideologies.

Guiding Questions: Where does the "east" start and the "west" stop?

Essential Readings:

- 12.1) Aydin, C. "Introduction." In *The Politics of Anti-Westernism in Asia: Visions of World Order in Pan-Islamic and Pan-Asian Thought*, 1-11. New York: Columbia University Press, 2007.
- 12.2) Borup, J. 2015. "Easternization of the East? Zen and Spirituality as Distinct Cultural Narratives in Japan." *Journal of Global Buddhism* 16:70-93.
- 12.3) Morozowski, S.A. 2014. "Imagining an Archaeology of the Future: Capitalism and Colonialism Past and Present." *Int J Histor Archaeol* 18:340-360.
- 12.4) Weiberg-Salzmann, M. and U. Willems. "Chapter 1: Challenging the Political: Religious Actors and Religious Arguments in Liberal Democracies." In *Religion and Biopolitics*, 3-32. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2020.

-----  
Week 13: Branding the nation: Using language and affect to entice consumption of culture

Aim: Linked with knowledge is culture. Linked with culture is memory and emotion. This module aims to help the student understand how perceptions of macro-identity construction occur in relation to creating national brands by understanding how branding theory has evolved to include psychology, linguistics, and marketing towards establishing nations as consumable products.

Guiding Questions:

What are the unintended consequences of nations adopting grand narratives to brand themselves? Who or which groups are potentially left out of the narratives? What sort of reasons would countries or groups lean on grand narratives for legitimacy?

Essential Readings:

- 12.1) Ermann, U. and K-J Hermanik (Eds.). 2017. "Introduction: Branding the nation, the place, the product.

## Foundations I-Seminar (KBR) (10)

---

" In Branding the Nation, the Place, the Product. Edited by Ulrich Ermann, Klaus-Jürgen Hermanik, pp. 1-14. Routledge: New York.

12.2) Sandvig, Christian and Eszter Hargittai. How to Think about Digital Research. In Digital Research Confidential: The Secrets of Studying Behavior Online, edited by Christian Sandvig and Eszter Hargittai, 1-28. MIT Press: Cambridge, USA, 2015.

12.3) Yack, B. Chapter 2: "The Moral Psychology of Community." In Nationalism and the Moral Psychology of Community, 44-67. University of Chicago Press: Chicago, 2012.

-----  
Week 14

TBA: Discussion Q/A of Final Assessment

-----  
Week 15: Cultural Nationalisms and Race Relations

Aims: People form groups that form communities, cultures, and countries. We are parochial and protective of our families and friends. With finite resources we conserve what we have and consider how to plan for the future. This has inevitable problems when communities and countries clash over resources. The stories we tell ourselves and others ...about ourselves and others plays a significant role in how we come to value ourselves and others. The aim of this module is to consider how we might just be able to get along, and how the Humanities might be able to help.

Guiding Questions: Nationalism is not that bad? Are we really that different? Is it okay to be proud of one 's cultural heritage?

Essential Readings:

15.1) Wang, Z. 2018. " Chapter 6: Researching Historical Memory. " In Memory Politics, Identity and Conflict: Historical Memory as a Variable, pp. 73-92. Palgrave Macmillan.

15.2) Antonsich, M., and M. Skey. 2016. "Affective Nationalism: Issues of Power, Agency and Method." Progress in Human Geography 41 (6):8-45.

15.3) Akerman, J.R. "Introduction." In Decolonizing the Map: Cartography from Colony to Nation, edited by J.R. Akerman, pp. 1-10. Chicago and London: University of Chicago Press, 2017.

-----  
Seventh/Final Assessment: Bring it in. (20 of 100 points)

7.1) Create a .pdf document of approximately 10-pages that has built upon the efforts beginning with the First Assessment. 12-pt font. Times New Roman. Double-spaced.

7.2) Label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS7.

7.3) Upload document to learning portal.

## Foundations I-Seminar (KBR) (11)

### [履修要件]

- 1) Attendance and active participation in each class is compulsory and part of overall grade.
- 2) Failure to attend more than two (of 15) classes without legitimate reason (i.e. doctor's note) might lead to failing the course.
- 3) No extensions will be granted to submit assignments.

### [成績評価の方法・観点]

#### Evaluation methods

- 1) Regular assignments (short reports: total = 7)
- 2) Class performance
- 3) Class attendance

The evaluation method must comply with the grading and evaluation policy of the faculty or graduate school. If the evaluation method comprises several parts, state the percentage of each part. (Evaluation of class performance: participation, class tests, short reports, active involvement, etc.)

Note: Credit cannot be given for attendance alone.

\* State the criteria that will be evaluated, the evaluation policy, etc. required for an appropriate evaluation in accordance with "11. Course objectives." (Also state any specific evaluation criteria and evaluation policies of the faculty or graduate school.)

Note: Instructors must set the criteria for passing the course in accordance with the grading and evaluation policy of the relevant faculty or graduate school.

\* State any course requirements for grade evaluation in the syllabus.

Grading system: raw score grade [0-100]

The first six assignments are worth 10 points each (60).

The final assignment is worth 20 points.

Class performance is 10 points.

Class attendance is 10 points.

TOTAL = 100 points

First Assessment: Submit by XXXX/XX/XX

1. Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. 2015. "Chapter 1: Foundations of Research Methods." In *Research Methods: The Essential Knowledge Base*, pp. 1-30. Cengage Learning: Sydney. <http://93.174.95.29/main/9D043F2226443EB6FACF5795A3D1E6F6>
2. Download the Review Questions file, [here](#).
3. Attempt the Review Questions (RQ1) on pp. 31-32.
4. Label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS1.
5. Save and upload the document to learning portal.

## Foundations I-Seminar (KBR) (12)

---

-----  
Second Assessment: Sketching a Research Plan: Submit by XXXX/XX/XX

1. Read Fernandez-Balboa ' s (2006) article and this Research Plan guide [https://www.ifcc.org/media/410323/05\\_Research\\_Guide\\_IFCC.pdf](https://www.ifcc.org/media/410323/05_Research_Guide_IFCC.pdf).
  2. Use them as a template to help identify and consider a potential topic for the Final Assessment aligned to the underlying theme of the course: Identity and Communication in Transcultural Studies.
  3. Create and sketch out in a 4-5 page summary which to start the Final Assessment ball rolling.
  4. Download Mindmaster for Mindmapping and use this program to create a “ mind map ” or rough sketch of themes you might explore in your final term project.
  5. 600-word (1-2 pages) minimum
  6. Label your file: FAMILYNAME\_Student Number\_ASS2.
  7. Upload documents to learning portal.
- 

Third Assessment: Submit by XXXX/XX/XX

1. Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. 2015. “ Chapter 2: Ethics. ” In Research Methods: The Essential Knowledge Base, pp. 33-53. Cengage Learning: Sydney.
  2. Download the Review Questions file, [here](#).
  3. Attempt the Review Questions (RQ2) on pp. 51-52.
  4. Use a pdf reader (like adobe or preview) to type each individual answer into the space on the pages.
  5. Save and label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS3
  6. Upload document to learning portal.
- 

Fourth Assessment: Text Analytics: Submit by XXXX/XX/XX

1. Play around with copying and pasting random text from different books and websites from any source.
  2. Make sure each sample of text is different to the rest in either subject, them, register, etc.
  3. Take each sample text and add it to this word counting software.
  4. Compare the Details and Key Word Densities of at least 5 different samples of text.
  5. Take some screen shots.
  6. Save them as one file.
  7. Label it FAMILY NAME\_Student Number\_ASSESSMENT\_4.
  8. Upload to the learning portal.
-

## Foundations I-Seminar (KBR) (13)

Fifth Assessment: Submit by XXXX/XX/XX

1. Read: Trochim, W., J.P. Donnelly and K. Arora. 2015. " Chapter 5: Introduction to Measurement. " In Research Methods: The Essential Knowledge Base, pp. 111-145. Cengage Learning: Sydney.
2. Download the Review Questions file, [here](#).
3. Attempt the Review Questions (RQ5) on pp. 142-143.
4. Use a pdf reader (like adobe or preview) to type each individual answer into the space on the pages.
5. Save and label your file: FAMILY NAME\_Student Number\_ASS5.
6. Upload document to learning portal.

### [教科書]

Access to relevant readings will be made accessible to all enrolled students. Handouts will be given in class.

### [参考書等]

( 参考書 )

Week 1: Essential Readings:

- 1.1) Arthur, Paul Longley. "Introduction: Transcultural Studies in Australian Identity." In Migrant Nation: Australian Culture, Society and Identity, edited by Paul Longley Arthur, 1-19. London & New York: Anthem Press, 2018.
- 1.2) Michaels, Axel. "Cultural hybridity and transculturality." In Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 3-14. London & New York: Routledge, 2019.
- 1.3) Strauss, Sarah and Laura Mandelbaum, "Consuming Yoga, Conserving the Environment: Transcultural Discourses on Sustainable Living." In Yoga Traveling: Bodily Practice in Transcultural Perspective, edited by Beatrix Hauser, pp. 225-248. Cham, CH: Springer.

Week 2: Philology: The forgotten origins of the modern humanities

Essential Readings:

- 2.1) Turner, J. 2014. " Prologue " and " Conventions. " In Philology: The forgotten origins of the modern humanities, pp. x-xxi. Princeton University Press: Princeton.
- 2.2) Herren, Madeleine. Transculturality, or, how to find Europe beyond Eurocentrism. In Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 95-106. London & New York: Routledge, 2019.

## Foundations I-Seminar (KBR) (14)

---

2.3) Lavie, Smadar. 1993. "Chapter 7. ' The One Who Writes U ' : Political Allegory and the Experience of Occupation among the Mzeina Bedouin. " In Creative/Anthropology. Edited by S. Lavie, K. Narayan, and R. Rosaldo, pp. 153-183. Cornell University Press: New York.

2.4) 2.4) Kikuchi, Yuko. 2004. "The Oriental-Occidental hybrid of philosophy and religion." In Japanese Modernisation and Mingei Theory: Cultural nationalism and Oriental Orientalism, pp. 4-8. London and New York: Routledge Curzon.

### Short Optional Exercises:

1. Explore this site on Music in Ancient Rome (with audio), listen to the introduction about this instrument from ancient Egypt and a few of the short songs <https://www.futurelearn.com/courses/rome/0/steps/27642>
2. Watch this short video on the history of The Indo-European Connection <https://www.youtube.com/watch?v=SqK7XXvfiXs>
3. Watch this very short story: The Sound of the Proto Indo-European Language (The King & the God) <https://www.youtube.com/watch?v=S7kxmcz971E>
4. Have a look at the information about this Basic-level Workshop on Manuscriptology and Palaeography, Amrita University <https://www.amrita.edu/event/basic-level-workshop-manuscriptology-and-palaeography>
5. Have a look at the different collections at the Chester Beatty Library <https://chesterbeatty.ie/exhibitions/>

---

### Week 3: Introduction to Epistemology: How do we know what we know?

#### Essential Readings:

3.1) Gibbon, Guy. 2015. "Chapter 4." In Critically reading the theory and methods of archaeology, pp. 35-45. Lanham: Altamira Press.

3.2) Aldana, F.L. "Introduction: A new humanism and self, identity, and ideas." In Why the humanities matter: A Commonsense Approach, ix-xiv and 1-19. University of Texas Press: Austin, 2008.

3.3) Hamminga, B. "Epistemology from the African Point of View." In Knowledge Cultures: Comparative Western and African Epistemology, edited by B. Hamminga, 57-84. New York: Rodopi, 2005.

3.4) Schiffer, M.B. 2013. " Varieties of Scientific Knowledge. " In The Archaeology of Science, pp. 25-42. Cham, Switzerland: Springer International.

---

### Week 4: Philosophically-thinking...the pursuit of knowledge, thinking critically, and knowing the self

#### Essential Reading:

4.1) Strandberg, H. Introduction and Chapter 1: Know Thyself. Self-Knowledge and Self-Deception, 1-13. Palgrave Macmillan: New York, 2015.

4.2) Read: Trochim, W., J.P. Donnelly, and K. Arora. Chapter 1: Foundations of Research Methods. In Research Methods: The Essential Knowledge Base, 1-30. Cengage Learning: Sydney, 2015.



## Foundations I-Seminar (KBR) (15)

---

4.3) 2. Hai-Jew, S. 2020. "Preface." In *Enhancing Qualitative and Mixed Methods Research with Technology*. Edited by S. Hai-Jew, pp. xxxiv-xlv. Hershey, PA: IGI Global.

-----  
Week 5: Propaganda and Rhetoric  
Essential Readings:

5.1) Marlin, R. Chapter 1: Why study propaganda? In *Propaganda and the Ethics of Persuasion*, 1-34. Broadview Press: Peterborough, Canada, 2013.

5.2) Grint, Keith. 2022. "Critical Essay: Wicked problems in the Age of Uncertainty." *Human Relations*: 1-15.

5.3) Scholz, Jan. "Modern Arabic rhetorical manuals: A transcultural phenomenon." In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 170-184. London & New York: Routledge, 2019.

-----  
Week 6: Post-post-modernity...is it an infinite regression?  
Essential Readings:

6.1) Todorov, T. "Introductory note" and "Chapter 1: The project." In *In Defense of the Enlightenment*, 6-24. London: Atlantic Books, 2010.

6.2) Lukianoff, G. and J. Haidt. "Introduction: The search for wisdom." In *The Coddling of the American Mind: How Good Intentions and Bad Ideas Are Setting up a Generation for Failure*, 11-24. New York: Penguin Press, 2018.

6.3) Bernard, H.R. "Chapter 15: Introduction to Qualitative and Quantitative Analysis." In *Research Methods in Anthropology: Qualitative and Quantitative Approaches*, pp. 337-345. Altamira Press: Lanham, Maryland, 2011.

-----  
Week 7: Are you sure? Identifying Truth and how to reduce error

Essential Readings:

7.1) Potz, M. "Chapter 1: Introduction: Why We Need Political Science of Religion." In *Political Science of Religion: Theorising the Political Role of Religion*, 1-18. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2010.

7.2) Heelas, Paul. Introduction. In *Spiritualities of Life: New Age Romanticism and Consumptive Capitalism*, 1-22. Oxford: Blackwell, 2008.

7.3) Bendegem, J.V.P. 2013. "Chapter 15: Argumentation and Pseudoscience: The Case for an Ethics of Argumentation." In *Philosophy of Pseudoscience: Reconsidering the Demarcation Problem*. Edited by M. Pigliucci and M. Boudry, pp. 287-304. The University of Chicago Press: Chicago and London.

## Foundations I-Seminar (KBR) (16)

---

7.4) Strandberg, H. 2006. "Chapter 1: The Unfruitfulness of Rationalistic Discussion of Religious Belief." *The Possibility of Discussion: Relativism, Truth and Criticism of Religious Beliefs*. Hampshire, UK: Ashgate.

-----  
Week 8: Decolonizing and Re-Orienting through Neo-Colonialism: Part 1  
Essential Readings:

8.1) Fox, J., C.S. Cashwell, and G. Picciotto. 2017. "The Opiate of the Masses: Measuring Spiritual Bypass and its relationship to Spirituality, Religion, Mindfulness, Psychological Distress, and Personality." *Spirituality in Clinical Practice* 4(4):274-287.

8.2) Bedasai, M. "Introduction" and "Chapter 1." In *Without Vision the People Perish. Jah Kingdom: Rastafarians, Tanzania, and Pan-Africanism in the Age of Decolonization*. North Carolina Press: Chapel Hill, 2017.

8.3) Verwimp, P and J. Boersema. 2013. "Chapter 9: Fieldwork in Gitarama Introduction, Setting and Methods." In *Peasants in Power: The Political Economy of Development and Genocide in Rwanda*, pp. 195-212. Springer: Heidelberg.

-----  
Week 9: Decolonizing and Re-Orienting through Neo-Colonialism: Part 2  
Essential Readings:

9.1) Hashimoto, A. Chapter 3: Japanese Narratives of Decolonization and Repatriation from Manchuria. In *The Cultural Trauma Of Decolonization: Colonial Returnees In The National Imagination*, edited by R. Eyerman and G. Sciortino, 57-84. Springer Nature: Cham, Switzerland, 2020.

9.2) Andreeva, Anna. Economies of the sacred in premodern Japan. In *Engaging Transculturality: Concepts, Key Terms, Case Studies*, edited by Laila Abu-Er-Rub, Christiane Brosius, Sebastian Meurer, Diamantis Panagiotopoulos and Susan Richter, 228-246. London & New York: Routledge, 2019.

9.3) White, B. 2006. "Re-orient-ing the occident: How young Japanese travellers are using the East-West dichotomy to dismantle regional nationalisms." In *Dismantling the East-West Dichotomy: Essays in Honour of Jan van Bremen*. Edited by J. Hendry and H.W. Wong, pp.125-132. Routledge: London.

-----  
Week 10: A look back at the construction of knowledge  
Essential Readings:

10.1) Schiffer, M.B. 2013. "Exploration and Colonization." In *The Archaeology of Science*, 117#8211136. Cham, Switzerland: Springer International.

10.2) Turner, J. 2014. "Chapter 12: The Field Naturalists of Human Nature: Anthropology congeals into a discipline, 1840-1910." In *Philology: The forgotten origins of the modern humanities*, 328-356. Princeton University Press: Princeton.

## Foundations I-Seminar (KBR) (17)

---

-----  
Week 11: Are there different types of knowledge?

Essential Readings:

1. Schiffer, M.B. 2013. "Varieties of Scientific Knowledge." In *The Archaeology of Science*, pp. 25-42. Cham, Switzerland: Springer International.
2. McIntyre, L. 2019. "Chapter 9: The Case for the Social Sciences." In *The Scientific Attitude: Defending Science from Denial, Fraud, and Pseudoscience*, pp. 299-321. Cambridge, MA: MIT Press.

-----  
Week 12: Pans and Pots

Essential Readings:

- 12.1) Aydin, C. "Introduction." In *The Politics of Anti-Westernism in Asia: Visions of World Order in Pan-Islamic and Pan-Asian Thought*, 1-11. New York: Columbia University Press, 2007.
- 12.2) Borup, J. 2015. "Easternization of the East? Zen and Spirituality as Distinct Cultural Narratives in Japan." *Journal of Global Buddhism* 16:70-93.
- 12.3) Morozowski, S.A. 2014. "Imagining an Archaeology of the Future: Capitalism and Colonialism Past and Present." *Int J Histor Archaeol* 18:340-360.
- 12.4) Weiberg-Salzman, M. and U. Willems. "Chapter 1: Challenging the Political: Religious Actors and Religious Arguments in Liberal Democracies." In *Religion and Biopolitics*, 3-32. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2020.

-----  
Week 13: Branding the nation: Using language and affect to entice consumption of culture

Essential Readings:

- 13.1) Ermann, U. and K-J Hermanik (Eds.). 2017. "Introduction: Branding the nation, the place, the product." In *Branding the Nation, the Place, the Product*. Edited by Ulrich Ermann, Klaus-J#252rgen Hermanik, pp. 1-14. Routledge: New York.
- 13.2) Sandvig, Christian and Eszter Hargittai. *How to Think about Digital Research*. In *Digital Research Confidential: The Secrets of Studying Behavior Online*, edited by Christian Sandvig and Eszter Hargittai, 1-28. MIT Press: Cambridge, USA, 2015.
- 13.3) Yack, B. Chapter 2: "The Moral Psychology of Community." In *Nationalism and the Moral Psychology of Community*, 44-67. University of Chicago Press: Chicago, 2012.

## Foundations I-Seminar (KBR) (18)

---

Week 14

TBA: Discussion Q/A of Final Assessment

-----  
Week 15: Cultural Nationalisms and Race Relations

Essential Readings:

15.1) Wang, Z. 2018. " Chapter 6: Researching Historical Memory. " In Memory Politics, Identity and Conflict: Historical Memory as a Variable, pp. 73-92. Palgrave Macmillan.

15.2) Antonsich, M., and M. Skey. 2016. "Affective Nationalism: Issues of Power, Agency and Method." Progress in Human Geography 41 (6):8-45.

15.3) Akerman, J.R. "Introduction." In Decolonizing the Map: Cartography from Colony to Nation, edited by J.R. Akerman, pp. 1-10. Chicago and London: University of Chicago Press, 2017.

### [授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等]

Refer to the essential readings for each week.

While it might seem like a lot of things to read, the intention is that instead of reading every page, rather you make the minimum effort to open each "essential reading" and skim over it. Acknowledge its existence. Read the introductory section, skim over the document by reading the first line of each paragraph. Read the conclusion.

Attend to jotting down some summarizing notes about each paper and mention what you found confusing, bizarre, interesting or infuriating. Be prepared to use these comments to stimulate discussion in class.

The readings could take about 15-20 minutes each. Out of class work might require minimum 2-3 hrs per week.

### ( その他 ( オフィスアワー 等 ) )

Course convener:

Dr Patrick S.D. McCartney

psdmccartney@protonmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目53

科目ナンバリング		G-LET36 6JK10 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		What Is Transcultural History?									
【授業の概要・目的】											
<p>Although national borders typically structure academic research, historical change extends beyond individual nation-states. In many cases, topics such as imperialism, migration, travel, scientific and technological change, capital flows, artistic movements, and language cannot be grasped without examining supra-national and sub-national scales.</p> <p>This course allows students to examine the methods, assumptions, and findings of recent historical work that can be variously (and perhaps simultaneously) be classified as "global," "transnational," and "transcultural." A key focus of the seminar is to engage deeply with book-length monographs that cover a wide range of case studies and approaches. Students will evaluate and discuss research that makes use of multi-location, multi-lingual historical archives, field sites, and interview subjects. Along the way, they will have the opportunity to plan global, transnational, and/or transcultural historical projects of their own.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand recent trends in English-language global, transnational, and transcultural historical research</li> <li>• To develop research questions that address border-crossing historical problems</li> <li>• To work with historical archival sources on campus and through online sources</li> <li>• To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and a small scale research project.</li> </ul> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance. Modules: Focus I-- Foundations I.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Ideas of (Cultural) History</li> <li>3. Space</li> <li>4. Global/Transnational History</li> <li>5. Material Culture</li> <li>6. (Global) Microhistory</li> <li>7. Mid-Term Exam</li> <li>8. Migration and Mobility</li> <li>9. Modes of Comparison and Connection</li> <li>10. Gender</li> <li>11. Labor</li> <li>12. Race</li> <li>13. Environment</li> <li>14. Knowledge on the Move: Science and Technology</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(SEG) (2)

### 15. Paper Presentations

(Please note that topics are subject to change)

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and presentations in class (30%)

Short weekly reading responses (25%)

Midterm essay on course readings (15%)

Final paper (30%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

#### 【教科書】

授業中に指示する

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

#### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

#### 【授業外学修(予習・復習)等】

• Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.

• Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

#### (その他(オフィスアワー等))

• Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目54

科目ナンバリング		G-LET36 6JK10 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 岩島 史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Rural Gender Studies									
【授業の概要・目的】											
<p>Feminism and gender studies are often aspatial and assume western urban families as the only available model. This course introduces rural gender studies as a lens through which to consider key topics in modern society.</p> <p>This seminar centers on three points for considering the difference between rural and urban from gender perspectives. First, rural lifestyles and the family model were different from the ones in urban areas. Most of Japanese agriculture is conducted by small scale family farmers, similar to the EU. By the 1980s, their life and work were not separated like modern wage-earning working families. Everyday life, work, and family style were significant for constructing a gendered identity of rural people. Second, rural people and areas are the targets of policies for rural development and/or rural women ' s empowerment. Finally, rural gender studies have criticized the representations of rural women by urban scholars and policymakers as a homogenized category, which colonizes rural women and deprives them of the agency.</p> <p>This course is divided into four parts. The first part presents basic concepts and major theories of gender studies and feminist rural studies. The second, third, and fourth parts are associated with the points I mentioned before. We focus on rural families and their work, rural policies, and the representations of rural women from feminist perspectives.</p>											
【到達目標】											
<p>The goals of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-to build familiarity with the key theoretical concepts and terms on rural gender studies.</li> <li>-to understand historical and current major issues related to the rural lifestyle, family, and work.</li> <li>-to have developed skills to analyze social problems critically with gender and feminist perspectives.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Week1. Introduction &amp; Overview</p> <p>I Key Concepts</p> <p>Week2.(1) Why does gender matter?</p> <p>【Reading Assignments】</p> <p>J.W. Scott, Gender and the Politics of History, Introduction; Chapter1</p> <p>Week3. (2) Why does rurality matter?</p> <p>【Reading Assignments】</p> <p>Jo Little 2002 “ Feminist theory and rural geography ” in Gender and Rural Geography, Pearson Education</p> <p>Bock, Bettina. B.2006 Introduction: Rural Gender Studies in North and South</p>											
----- Foundations I-Seminar(SEG)(2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(SEG)(2)

---

II Rural family, lifestyle, and their work

Week4. Masculinity and gendered division of labor in the EU

【Reading Assignments】

Ian Coldwell, 2007, " Young Farmers, Masculinities and the Embodiment of Farming Practices in an Australian Setting " Rural Sociology 17(1):19-33.

Week5. Farm work and femininity in the EU

【Reading Assignments】

Brandth, Berit. 2006. " Agricultural body-building: Incorporations of gender, body, and work " Journal of Rural Studies 22(1)17-27.

Week6. Japanese rural families and communities

【Reading Assignments】

Rieko Tsuru, Background and Factors Promoting the Empowerment of Women in the Rural Society of Japan in A Turning Point of Women, Families and Agriculture in Rural Japan.

Week7. Gendered division of labor in Japanese rural families

【Reading Assignments】

Masayuki Tanimoto 2012. " The Role of Housework in Everyday Life: Another Aspect of Consumption in Modern Japan " in Penelope Francks and Janet Hunter ed.The Historical Consumer: Consumption and Everyday Life in Japan, 1850-2000

III Gender and rural policy

Week8. Rural challenge initiatives in England in the 1990s.

【Reading Assignments】

Little, Jo and Owain Jones, 2000. " Masculinity, Gender, and Rural Policy " Rural Sociology 65(4):621-639.

Week9. Rural life improvement extension service in Japan: 1950-2000.

【Reading Assignments】

IV Feminist critiques of representations of rural women

Week10. Critiques from third world feminism

【Reading Assignments】

Mohanty 2011.Under Western eyes: feminist scholarship and colonial discourses

Week11. Critiques from feminist rural studies

【Reading Assignments】

Sachs, Carolyn.E.1996 1. Situating Rural Women in Theory and Practice

Week12. Representations of third world women in development discourse

【Reading Assignments】

Andrea Cornwall, Elizabeth Harrison and Ann Whitehead. 2007."Gender Myths and Feminist Fables: The Struggle for Interpretive Power in Gender and Development" Development and Change 38(1):1-20

Week13. Representations of rural women in a Finish magazine of rural women ' s association

【Reading Assignments】

Sireni, Maarit. 2015. " Reinventing Rural Femininities in the Post-Productivist Finnish Countryside. "



## Foundations I-Seminar(SEG)(3)

European Countryside 7 ( 1 ) : 42-56.

week14. Representation of Japanese Rural Women

Week15. Students Presentations

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Active Participation 30%(Attendance 10% & Participation 20%)

Small Essay 30%

Final Essay 40%

### 【教科書】

All weekly readings will be available online via a link provided on KULASIS.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

This course requires weekly readings and you need to complete two writing assignments throughout the course. Each essays will be based on weekly readings and lecture slides.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Contact me via e-mail.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目55

科目ナンバリング		G-LET36 6JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 KITSNIK Lauri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Dialogues in Modern Japanese Architecture									
【授業の概要・目的】											
<p>What is modern Japanese architecture and when did it begin? How were ideas coming from abroad domesticated and further expanded? To what extent is modern architecture in Japan informed by traditional building styles and materials? How has the relationship between architecture and nature been understood and elaborated? What characterises the works of several Pritzker Prize-winning Japanese architects? These are some of the questions this course hopes to address by looking at the dialogues and developments in modern architecture as they took place in Japan during the past century. A number of research trips taken around Kyoto to observe key buildings form an integral part of the learning process.</p>											
【到達目標】											
<p>The students will 1) gain knowledge on the historical development of modern Japanese architecture and its major architects; 2) learn to relate the above developments to transcultural dialogues taking place within a global context; 3) become familiar with approaches for studying architecture with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for historical and comparative analysis of architecture; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Seligmann, Introduction</li> <li>3. Research visit: around Kyoto University</li> <li>4. Seligmann, Chapter 1: Incorporating International Influences</li> <li>5. Research visit: Takaragaike and Kitayama</li> <li>6. Seligmann, Chapter 2: Drawing from Domestic Developments</li> <li>7. Research visit: Higashiyama</li> <li>8. Seligmann, Chapter 3: Constructing Relations between Building and Nature</li> <li>9. Research visit: Downtown Kyoto</li> <li>10. Seligmann, Chapter 4: Developing Dialogues with Materials</li> <li>11. Research visit: Kyoto Station and Omi-hachiman</li> <li>12. Seligmann, Chapter 5: Abstraction and Reduction, or Listening to the Sound of One Hand Clapping and Chapter 6: Afterword: Expanding Dialogues and Developments</li> <li>13. Research visit: Okazaki</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>											
----- Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar(VMC) (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Individual presentation (40%), participation in classroom discussion (40%), final essay (20%)

### 【教科書】

Ari Seligmann 『Japanese Modern Architecture 1920-2015: Developments and Dialogues』 ( The Crowood Press, 2016 )

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Read the assigned textbook during the course

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目56

科目ナンバリング		G-LET36 6JK12 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR/SEG) Foundations I-Seminar (KBR/SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Science in Japanese Context: Advanced Introduction to Philosophy of Science									
【授業の概要・目的】											
<p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Mill, Whewell, Popper, Grunbaum and others. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p> <p>この特殊講義においては科学哲学の古典的な論文や基礎的な論文を中心とした講義を通して、科学哲学という分野に入門することをめざします。具体的には、前半ではミル、ヒューウェル、ポパー、グリュンバウムらの古典的な論文を核として、その背景についてレクチャーを行います。後半では、近年注目を集める研究領域からいくつかをピックアップし、関連する基礎文献をリーディングとして、背景や現在の諸問題との関わり（特に日本という文脈での含意）についてレクチャーを行います。こうした文献の読解とレクチャーを通して、科学哲学という分野の広がりを知ってもらうことがこの授業のねらいです。</p>											
【到達目標】											
<p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p> <p>科学哲学という分野の主要な課題を説明できるようになる。科学哲学の考え方を現在のさまざまな問題と結びつけることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The lectures will be given both in Japanese and English. There will be some considerations for those who do not speak English so that they can also follow the class.</p> <p>Part I Classical Issues of Philosophy of Science            1. Scientific Reasoning (4 meetings)            2. What is Science? (3 meetings)</p> <p>Part II Various Basic Issues in Philosophy of Science            3 Philosophy of Medicine (4 meetings)            4 Philosophy of Precautionary Principle (3 meetings)</p> <p>Wrap up (1 meeting)</p>											
----- Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (2)

授業は日本語と英語で行われます。

### 第一部 科学哲学の古典的諸問題

- 1 科学的推論 (4週)
- 2 科学とは何か (3週)

### 第二部 科学哲学のさまざまな基礎的課題

- 3 医療の哲学 (4週)
- 4 予防原則の哲学 (3週)

まとめ(1週)

### 【履修要件】

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は、授業内容を理解できていること、またその理解した内容を適切に活用して具体例が分析できていること、という視点から行う。

### 【教科書】

Relevant parts of the following book will be distributed in the class.  
Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) Arguing about Science. Routledge.

以下の書籍から関連箇所を授業内で配布。  
Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) Arguing about Science. Routledge.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

## Foundations I-Seminar (KBR/SEG) (3)

---

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

### （その他（オフィスアワー等））

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours). The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。  
開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目57

科目ナンバリング		G-LET36 6JK14 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル・スタ ディーズ研究科・准教授 菅野 優香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Cinematic Imaginations: Feminist and Queer Film Criticism									
【授業の概要・目的】											
<p>In this seminar, students will be introduced to major debates in feminist and queer film theory and criticism while exploring critical concepts in fields such as women ' cinema, feminist and queer aesthetics and politics, realism, cinema verite, autobiography, and cinematic modernism. We will engage several key genres and modes (documentary, avant-garde, narrative cinema) in order to focus on the very central questions that have informed and shaped feminist and queer approaches to film texts. This seminar aims to examine the different ways in which feminist and queer theoretical and critical discourses address the intersections of gender, sexuality, and race through concrete analysis of these films. The course consists of film screenings, lectures, and discussions based on the assigned readings.</p>											
【到達目標】											
<p>Through this seminar, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand the historical developments of feminist and queer film criticism while learning key concepts and debates.</li> <li>• Develop the skills to analyze the film forms, aesthetics, and thematic concerns and the ways in which the issues of gender, sexuality, and race/ethnicity are expressed through them.</li> <li>• Construct compelling arguments on the social and political implications of film texts.</li> <li>• Situate the visual and cultural texts amid wider social and historical contexts.</li> <li>• Cultivate the analytical abilities to apply feminist and queer critical perspectives to contemporary visual culture.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
*Please note that each week is consisted of 2 class unites/3 hours											
<p>Week 1: Women ' s Cinema and Feminist Aesthetics Introduction and Overview</p> <p>Readings:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Teresa de Lauretis, " Aesthetic and Feminist Theory: Rethinking Women ' s Cinema, " New German Critique 34 (1985): 154-175.</li> <li>• Judith Mayne, " Female Authorship Reconsidered, " from The Woman at the Keyhole: Feminism and Women ' s Cinema (Bloomington and Indianapolis: Indiana University Press, 1990), 89-123.</li> </ul> <p>Screenings: Clips from: Jeanne Dielman, 23 Quai du Commerce, 1080 Bruxelles (Chantal Akerman, 1975) and Dance, Girl, Dance (Dorothy Arzner, 1940).</p> <p>Week 2: Early Queer Cinema</p>											
----- Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く -----											

## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)

---

### Readings:

- B. Ruby Rich, "From Repressive Tolerance to Erotic Liberation: Maedchen in Uniform," in *Chick Flicks: Theories and Memories of the Feminist Film Movement* (Durham and London: Duke UP, 1998): 179-206
- Richard Dyer, *Now You See It: Studies on Lesbian and Gay Film* (London and New York: Routledge, 1990/2002): 88-123.

Screening: *Maedchen in Uniform* (Leontine Sagan, 1931)

### Week 3: The Feminist Film Movement and Documentary

### Readings:

- Shilyh Warren, ch.3. "Strangely Familiar: Autoethnography and Whiteness in Personal Documentaries," *Subject to Reality: Women and Documentary Film* (Urbana, Chicago, and Springfield: University of Illinois Press, 2019): 67- 96
- E. Ann Kaplan, "Theory and Practice of the Realist Documentary Form in Harlan County, U.S.A." in *Show Us Life: Toward a History and Aesthetics of the Committed Documentary*, Thomas Waugh ed. (Metuchen, N.J., and London: The Scarecrow Press, 1984): 212-222

Screenings: *Harlan County, U.S.A* (Barbara Kopple, 1976), *Janie 's Janie* (Geri Ashur, Peter Barton, Marilyn Mulford, Stephanie Pawleski, Newsreel, 1971),

### Critical Response Paper #1

### Week 4: Reconsidering Realism: Experimental Autobiography

### Readings:

- Michell Citron, "Fleeing from Documentary: Autobiographical Film/Video and the ' Ethics of Responsibility," in *Feminism and Documentary*, ed., Diane Waldman and Janet Walker (Minneapolis and London: University of Minnesota Press, 1999): 271- 286.
- Linda Williams and B. Ruby Rich, "The Right of Re-VisIon: Michell Citron ' s Daughter Rite," *Film Quarterly* 35:1 (1981): 17-22.

Screening: *Daughter Rite* (Michelle Citron, 1978)

### Week 5: Modernism and Avant-Garde

### Readings:

- Laura Mulvey, "Film, Feminism and the Avant-Garde," in *Visual and Other Pleasures* (London: Palgrave Macmillan, 1989): 111- 126.
- Judith Mayne, "Su Friedrich ' s Swimming Lessons," in *Framed: Lesbians, Feminist, and Media Culture* (London and Minneapolis: University of Minnesota Press, 2000): 193-211.

Screenings: *Meshes of Afternoon* (Maya Deren, 1946), *Sink or Swim* (Su Friedrich 1990).

### Critical Response Paper #2



## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (3)

---

### Week 6: Barbara Hammer

#### Readings:

- Sarah Keller, " Barbara Hammer: Lesbian Feminist Iconography and Queer Aesthetics, " The Oxford Handbook of Queer Cinema, Ronald Gregg and Amy Villarejo ed. (Oxford: Oxford UP, 2021): 361-379.
- Chuck Kleinhans, " Barbara Hammer: Lyrics and History, " Women ' s Experimental Cinema: Critical Frameworks, Robin Blaetz, ed. (Durham and London: Duke UP, 2007): 167-187

Screening: History Lessons (Barbara Hammer, 2000)

### Week 7: New Queer Cinema

- Laura L. Sullivan, " Chasing Fae: " The Watermelon Woman " and Black Lesbian Possibility, " Callaloo 23:1 (Winter 2000), 448-460
- bell hooks, " Homophobia in Black Community, " in The Greatest Taboo: Homosexuality in Black Communities, ed. Delroy Constantine-Simms (Los Angeles: Alyson Books, 2000)

Screening: Watermelon Woman (Cheryl Dunye, 1995)

### Week 8: Presentations and Feedback

Presentations (20 minutes/person)

Feedback and Discussion

### **[履修要件]**

Films and clips in the syllabus will be shown in seminar. Please turn off all the electronic devices, including cell phones, laptops, and tablets.

### **[成績評価の方法・観点]**

Regular attendance and active participation (10 %)

Please come to class ready to actively participate, having completed all readings and assignments in advance.

Discussion Facilitation (10%)

Each student will facilitate and lead seminar discussion, either alone or with another student, depending on the seminar size. Please include a summary and the main arguments from the assigned readings as well as biographical information of the author. Formulate some questions from the readings (and screenings) to generate discussion.

Two Critical Response Papers (20% × 2 = 40%)

A critical response paper consists of a 3 - 4 page short essay in which you will write a critical review of a film screened for the seminar. This assignment is aimed at giving you an opportunity to practice film criticism and learn to analyse and write about film texts.

Presentation (10%)

## Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (4)

Please give a presentation (20 minutes) on your topic for the final essay. At this point, you should have clear ideas on what your final essay will be about. You are also encouraged to give constructive feedback to peer presenters.

### Final Essay (30%)

You will write the final paper (8- 10 pages) based on the topics discussed in the seminar. Make sure to incorporate theoretical and critical concepts and perspectives in your analysis.

\*Writing guidelines: all your papers are to be in 12-point type, double-spaced, with 1-inch margins and numbered pages. Use either Chicago or MLA citation style.

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Please come to class, having completed all readings and assignments.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目58

科目ナンバリング		G-LET36 6JK14 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (SEG/VMC) Foundations I-Seminar (SEG/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		ロシア国立研究大学高等経済学院東 洋学・西洋古典学研究所・准教授 Fedorova Anastasia			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1,2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Russo-Japanese Cultural Dialogue Through Images									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores the rich history of cultural encounters between Japan and Russia, starting in the Edo period and leading to the two countries' latest attempts at co-producing animated films. Both countries have traditionally formed their identities by negotiating a special place between the East and the West, and have tried to actively learn from each other. Drawing on examples from personal diaries, memoirs, painting, film and animation, we will explore how the mutual perception between Japan and Russia has transformed overtime in accordance with various political, economic and cultural changes that occurred both globally and domestically.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to identify the unique aspects of cultural interactions between Japan and Russia, while simultaneously interpreting them in a larger theoretical framework of cross-cultural exchange.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Please note that each week consists of 2 class units (Each week we meet for 3 hours). Throughout this course, there will be 15 class units in total.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction [1 class unit]</li> <li>2. Japan and Russia during the Edo Period [2 class units]</li> <li>3. Russo-Japanese War (1904-1905)[2 class units]</li> <li>4. Transnational Cultures of Modernism (I): Painting, Literature, Theater [2 class units]</li> <li>5. Transnational Cultures of Modernism (II): Film [2 class units]</li> <li>6. Japanese Fascination with Marxism [2 class units]</li> <li>7. Soviet Fascination with Japanese Material Culture [2 class units]</li> <li>8. Interacting through Manga and Anime [2 class units]</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation in class [40%];            Test(s) based on information from weekly reading assignments [20%];            Final essay written in English (8000 words) [40%]</p>											
【教科書】											
Reading assignments will be distributed in class.											
----- Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)へ続く -----											

Foundations I-Seminar (SEG/VMC) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

Reading assignments will be given from multiple sources including:

Thomas J. Rimer ed., A Hidden fire : Russian and Japanese cultural encounters, 1868-1926 (1995)

Yulia Mikhailova, William M. Steele, eds., Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images (2008)

Sho Konishi, Anarchist Modernity: Cooperatism and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan (2013)

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

Students must be prepared to comment and critically analyze the reading assignments weekly.

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目59

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 海田 大輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Contemporary Japanese Philosophy in a Global Context									
【授業の概要・目的】											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check "Class support" or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by:            MARUYAMA Masao, OMORI Shozo, HIROMATSU Wataru, and SAKABE Megumi.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.											
【授業計画と内容】											
1 Introduction 2-4 MARUYAMA Masao "'Being...' and 'Doing...'" 5-8 OMORI Shozo "An Essay on Kotodama: Words and 'Things'" 9-11 HIROMATSU Wataru "Articulation Forms of the World of Fact-Things" 12-14 SAKABE Megumi "Appearance and Copula" 15 Feedback											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme: Attendance 20% Active participation in discussion 20% Term paper 60%											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

**[教科書]**

使用しない

The reading materials will be uploaded on KULASIS.

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.  
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目60

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Heidi in Japan									
【授業の概要・目的】											
<p>In this class, we will discuss the story of “ Heidi ” (1880/81) by Johanna Spyri from the perspective of comparative literature. It is one of the main tasks of comparative literature to think about the reception of one literary work in various countries and regions, because it is important to know what has remained the same and what has changed in the course of translation and adaptation of the original work. Usually, these changes do not come from pure chance but from the essential differences of cultures. So, when we think about the transcultural transformations of a literary work, we at the same time (re-)think about the culture in which we are living. In this sense, the story of “ Heidi ” is a very productive example because it has a lot to tell us about our cultures.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will on the one hand gain basic knowledge about the reception of “ Heidi ” in Japan, and on the other hand understand the importance of interaction between cultures which sometimes borders on cultural appropriation.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction  (2) Biographical facts about Johanna Spyri  (3) Spyri ’ s “ Heidi ’ s Years of Learning and Wandering ” (1880) in its cultural contexts  (4) Spyri ’ s “ Heidi Can Use What She Learned ” (1881) in its cultural contexts  (5) Excursus 1: Charles Tritten ’ s French “ Heidi ” -sequels  (6) The first Japanese translation by Yaeko Nogami (1920) and other early translations  (7) “ Heidi ” in girls ’ magazines in Pre-War Japan  (8) “ Heidi ” in children ’ s magazines in Post-War Japan  (9) The animation series “ Heidi, Girl of the Alps ” by Isao Takahata (1974)  (10) The reception of Takahata ’ s animation in Europe  (11) Excursus 2: “ Heidi ” -movies in the world  (12-14) Presentations by students  (15) Conclusion</p>											
【履修要件】											
<p>Completion of modules “ Introduction to Transcultural Studies, ” “ Skills for Transcultural Studies, ” “ Focus 1 ” and “ Focus 2 ”</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Homework (30%), participation (30%), final report (40%).</p> <p>To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

(その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目61

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 湯川 志貴子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Selected Readings in Classical Japanese Literature									
【授業の概要・目的】											
<p>The aim of this course is to seek and discuss Japanese values, ideas and attitudes toward certain universal themes, such as love, death, human nature and aesthetic beauty through a close reading of selected representative works of classical Japanese literature. We will use well-known English translations of the Manyoshu, Taketori Monogatari, Ise Monogatari and Tsurezuregusa, among other works, as our texts.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p> <p>『萬葉集』、『竹取物語』、『伊勢物語』、『徒然草』等、日本の代表的な古典の英訳本を用い、これらの作品を熟読することによって、恋愛、死、人間性、美といった普遍的なテーマに対する日本人の価値観、観念や捉え方について考察を試み、理解を深めることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ To become familiar with the content of selected works of classical Japanese literature and the sociohistorical background of the period within which each work was written.</li> <li>・ To grasp underlying themes and literary concepts which are critical to a deeper understanding of the selected works.</li> <li>・ To be able to recognize and understand major literary devices and techniques of expression and their function.</li> <li>・ To present critical analysis of a work of classical Japanese literature of the student's choice in a written paper.</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象とする作品の内容やあらすじを理解する。またその時代背景について基礎知識を身につける。</li> <li>・ 各作品をより深く理解するために、重要な文学的概念やテーマを学ぶ。</li> <li>・ 各作品に用いられている文学的技法およびその意義を考察する。</li> <li>・ 各自が選定した日本の古典の作品について客観的に批評し、その論拠となる文献・資料を調査して、結果を小論文にまとめる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>The course schedule is as follows. Revisions will be made as needed based on the progress of the course.</p> <p>Weeks 1 ~ 3 Depictions of death in classical Japanese literature: methods of expression in Manyoshu elegies</p> <p>Weeks 4 ~ 6 Character development in classical Japanese literature: a superhuman heroine's humanization in the Tale of the Bamboo Cutter</p> <p>Weeks 7 ~ 9 Love in classical Japanese literature (1): Tales of Ise and "kokoro nasake aramu otoko"</p> <p>Week 10 Midterm presentations on final report</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

Weeks 11 ~ 14 Love in classical Japanese literature (2): "long autumn nights" and "empty vows"; Yoshida Kenko's views on love in Tsurezuregusa

Week 15 Wrap-up session and feedback

We will devote 3 ~ 4 class sessions (lecture session reading session discussion session) to each theme.

### 【Lecture Session】

A general overview of the selected work(s) of literature and background information on the sociohistorical period will be provided. The instructor will also address literary concepts, social practices and customs as well as Japanese values and standards of the period as appropriate.

### 【Reading Session】

We will conduct a careful reading of selected passages of the text in translation. We will examine fundamental terms, the structure and/or development of each work, the writing style of the author and techniques of expression used. We will consider their function and effectiveness as we proceed with our reading and interpretation.

### 【1 ~ 2 Discussion Sessions】

With respect to each theme, the class will be assigned two to three questions to consider and discuss at length as a group.

For each of the themes covered during the semester, students will be required to write and submit a "comprehension essay" (100-150 words) summarizing the main points covered, points that needed further explanation, and any other comments concerning that topic.

以下の計画と内容に基づいて授業を進めていく。授業の進捗と受講者の状況によって、日程・内容を一部変更する場合がある。

第1~3週目 日本の古典に見る死の表現・描写

『萬葉集』の挽歌の表現方法

第4~6週目 日本の古典に見る人物描写

『竹取物語』の超人間的なる主人公の人間化

第7~9週目 日本の古典に見る恋愛(その一)

『伊勢物語』の「心なさけあらむ男」

第10週目 小論文中間発表

第11~14週目 日本の古典に見る恋愛(その二)

「男女の情も、ひとへに逢ひ見るをばいふものかは」(『徒然草』)他

第15週目 まとめ、フィードバック

一つのテーマにつき、3~4回と時間をかけて講義-->講読-->議論と考察していき、理解の深化を図る。

### 【講義(1回)】

対象作品の時代背景など必要な予備知識について解説する。重要な文学的理念や、社会的慣習・風習、当時の日本人の価値観・規範等にも適宜触れる。

### 【講読(1回)】

英訳本を用いて作品(抜粋)を読み進める。基本用語の解釈、作品の構造や展開、作風、文体、表

### Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(3)

現技法等にも注目し、これらの役割と効果について考察しつつ精読していく。

#### 【議論（1～2回）】

講読した内容に関する出題問題（2～3問）に基づきグループ・ディスカッションを行う。

内容の理解度を確認するために、理解しやすかった点、理解しづらかった点、感想等を100-150語にまとめた「comprehension essay」をテーマ毎に課す。

#### 【履修要件】

Enrollment is limited to 5 students. Students in the Heidelberg Centre for Transcultural Studies program will be given priority.

It is recommended that students come into the class having fulfilled one of the following:

- 1) The student has taken a course in academic writing in English at the undergraduate or graduate level.
- 2) The student has written an academic paper or report in English for an undergraduate or graduate level course in the past (in any field of study).

定員：

5名までとし、Heidelberg Centre for Transcultural Studiesの学生を優先する。

次のいずれかの要件を満たしていることが望ましい：

- 1) 学部・大学院で英語のアカデミック・ライティングの授業を履修したことがある。
- 2) 過去に学部・大学院の授業（分野不問）で英語による小論文や学術的レポートを書いたことがある。

#### 【成績評価の方法・観点】

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either a reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the instructor.

For students taking this course as a "full seminar," assessment will be based on the following [1] ~ [4].

- [1] Outline and working bibliography for oral presentation and term paper (20%)
- [2] Oral presentation on development of term paper (20%)
- [3] Term paper (40%)

- [4] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions (20%)

Students are encouraged to utilize the instructor's office hours throughout the semester to discuss any specific concerns they may have regarding their paper.

Before enrolling in this course, students should carefully note the following:

One of the main objectives of the term paper for this course is for students to acquire the ability to analyze objectively the work of classical Japanese literature selected. This assignment is not intended as an "essay" for students to express their subjective opinions or personal preferences with regard to the literary work in question. Students will be expected to come up with a viable hypothesis and write a logical and objective paper that is based on careful and close reading of the text and amply supported by evidence cited from the literature.

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(4)

For students taking this course as a "reduced seminar," assessment will be based on the following [1] ~ [3].

- [1] Outline and working bibliography for oral presentation (20%)
- [2] Oral presentation (60%)
- [3] Submission of comprehension essays and contribution to discussion sessions (20%)

「Full seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]~[4]によって行う。

- [1] 口頭発表および小論文に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表 (20%)
- [2] 口頭発表 (20%)
- [3] 小論文(40%)
- [4] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度 (20%)

なお、授業期間中、小論文の作成等について授業担当の教員と直接相談できる時間（オフィスアワー）を設けているので積極的に利用してもらいたい。

本授業で課せられる小論文では、主観的な感想を述べるのが目的ではないことに留意すること。まずは仮説を立て、それを裏付けるエビデンスを収集する。そして、それに対する客観的な分析を施して論を展開し結論を導くことが求められる。客観的且つ論理的に述べることが要求される。このことを十分に理解したうえで授業に臨んでもらいたい。

「Reduced seminar」として登録した学生については、成績判定は以下[1]~[3]によって行う。

- [1] 口頭発表に関するアウトライン・構想、および参考文献一覧表 (20%)
- [2] 口頭発表 (60%)
- [3] 「Comprehension essay」の提出およびディスカッションへの貢献度 (20%)

### [教科書]

Handouts and required reading material will be provided in class.

必要に応じ、授業時に資料を配布する。

### [参考書等]

(参考書)

- 『1000 Poems from the Manyoshu: The Complete Nippon Gakujutsu Shinkokai Translation』 (Dover Publications) ISBN:978-1306338257
- Cranston, Edwin A. (translator) 『A Waka Anthology: The Gem-Glistening Cup』 (Stanford University Press) ISBN:978-0804731577
- Kawabata, Yasunari (translator, modern Japanese) and Keene, Donald (translator, English) 『The Tale of the Bamboo Cutter』 (Kodansha International) ISBN:978-4770023292
- McCullough, Helen Craig (translator) 『Classical Japanese Prose: An Anthology』 ISBN:Stanford University Press (978-0804719605)
- McCullough, Helen Craig (translator) 『Kokin Wakashu: The First Imperial Anthology of Japanese Poetry』 (Stanford University Press) ISBN:978-0804712583
- Keene, Donald (translator) 『Essays in Idleness: The Tsurezuregusa of Kenko』 (Tuttle Publishing) ISBN:978-4805306314

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(5)

### [授業外学修（予習・復習）等]

- 1) The translation for each reading piece will be distributed in class a week before the reading session. Students should read the entire handout before coming to class.
  - 2) For each of the themes covered during the semester, students will be assigned a "comprehension essay" (100-150 words), in which they should summarize the main points covered, points that needed further explanation, and any other impressions they have about the subject material. Details of submission format and due date to be announced in class.
  - 3) Guidelines for preparing the outline and working bibliography, oral presentation and term paper will be handed out in class in November. Students are encouraged to begin exploring questions to address in their presentation/paper, and begin reading a translation of the work(s) they wish to use and any other essential sources as soon as possible. Students should start this process as soon as they receive the guidelines and are encouraged to consult the instructor should they have any questions.
- 1) 講読する対象作品の英訳は前週に授業で配布するので、必ず全文を読んでくること。
  - 2) 内容の理解度を確認するために、理解しやすかった点、理解しづらかった点、感想等を100-150語にまとめた「comprehension essay」をテーマ毎に課す。書式・提出期限等については授業時に指示がある。
  - 3) 「Outline and working bibliography」、口頭発表、小論文の作成に当たっては、11月中に作成要領についての指示がある。したがって、受講者はその後直ちに発表や小論文で取り上げたい作品とテーマについて文献調査を開始し、同作品の英訳本その他必要な資料を読み始めることを強く勧める。文献調査の方法等について不明な点があれば、早めに担当教員に相談すること。

### (その他（オフィスアワー等）)

\*Please visit KULASIS to find out about office hours. Will also be announced in class.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目62

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター Breen John 名誉教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Monarchy and modernity in Japan, Asia and Europe									
【授業の概要・目的】											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>In this course, we adopt a critical view of monarchy in Japan, Asia and Europe and its relationship to modern society. What were the dynamic origins of the emperor system when it was created in 19th century Japan? What are its legacies? How does the modern Japanese monarchy compare to monarchies in Asia and Europe? We explore key concepts for the study of monarchy (power, ritual, restoration, and sovereignty among others) , and examine the contested relations between modern monarchies and politics, diplomacy, religion and society.</p>											
【到達目標】											
Students will acquire the concepts and methods necessary to study modern monarchies in Japan, Asia and Europe. They will also develop the skills needed to give critical presentations.											
【授業計画と内容】											
1 Introduction to the study of monarchy: concepts and methods 2 The Reiwa enthronement and postwar emperor theory 3 Early modern emperors, empresses, kings and queens 4 FIELDWORK The Palace 5 What is a Restoration? Restoring kings and emperors 6 Meiji and the monarchs of the modern world 7 Monarchs and the sacred 8 FIELDWORK Ise 9 Monarchs and the military 10 Modern monarchs and political power 11 Monarchy and the nation 12 A constitutional monarch / course summary											
【履修要件】											
特になし											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)**

**[成績評価の方法・観点]**

Attendance: 10%

Course work : Presentations 40%

Final test: 0%

Final essay: 50%

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

( 参考書 )

John Breen and Mark Teeuwen 『A New history of Shinto』 ( Wiley Blackwell ) ISBN:978-1-4051-5516-8  
( paperback version )

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Students to review material ahead of class

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

I will answer student queries via email and communicate with students via email.

Students are required to take out insurance ahead of the field trip to Ise.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目63

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Buddhist Art and Manuscript Cultures along the Silk Road									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:</p> <p>I. Silk Road in and between Asia and Europe;            II. Buddhist Art as Cultural Entanglement;            III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity.</p>											
【到達目標】											
<p>Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the visual and material aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and contact between religious networks on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of Buddhist art and manuscript cultures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>I. Silk Road in and between Asia and Europe            Week #01 Silk Road A Greater Picture Part 1            1.1. Asia in Old Persian inscriptions            1.2. India in early Greek literature            1.3. Case Study: Names of Rome in Chinese sources vs. Name of China in foreign sources            1.4. Case Study: Indika by Megasthenes and Arrian</p> <p>Brief overview of course content            Old Persian script ~ example of transculturality (for scripts, cf. later sessions)            Topic for discussion: names and naming trends (in Europe, Asia, USA, etc.)            Rome: Da-qin 大秦 great-Qin , Fu-lin 拂菻            China in Sanskrit, Greek (ser), Latin (Seres) sources.</p> <p>Week #02 Silk Road A Greater Picture Part 2            2.1. Sogdians as Cultural Brokers            2.2. Turfan as Contact Zone            2.3. Chang ' an as Cosmopolitan Terminal            Old Persian script ~ example of transculturality            Trade routes of Sogdians: <a href="https://sogdians.si.edu/historic-trade-routes-of-the-sogdians/">https://sogdians.si.edu/historic-trade-routes-of-the-sogdians/</a>            Sogdian Ancient Letters <a href="https://sogdians.si.edu/ancient-letters/">https://sogdians.si.edu/ancient-letters/</a>            Read Letter 1, 2, 3.            Nanaia goddess: <a href="https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/show/1150">https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/show/1150</a>  <a href="https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/browse">https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/browse</a>            Religious adaptability of the Sogdians, by turns Mazdeans, Buddhists, Nestorians, Manichaeans and Muslims,</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く -----											



## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)

-----  
according to their political and commercial interests

Manichaeism

Chang ' an & Heian-kyo

<https://en.wikipedia.org/wiki/Heian-kyo>

References: Kent 1953 Old Persian grammar, texts, lexicon; Karttunen 1989 India in early Greek literature; Hansen 2017 The Silk Road: A New Documentary History to 1400: A New History with Documents. 2nd Edition; Sogdian Ancient Letters (by Sims-Williams, Livsic, La Vaissiere, Grenet); La Vaissiere 2005 Sogdian traders: a history; La Vaissiere 2005 Les sogdiens en Chine; Lieu 2013 The 'Romanitas' of the Xi'an Inscription; The Oxford dictionary of late antiquity; Boyce 1975 A reader in Manichaean Middle Persian and Parthian.

Week #03 Tarim Basin as Contact Zone Part 1

3.1. The Great Game from transcultural perspectives

3.2. German Expeditions (Grunwedel, Le Coq, Bartus)

3.3. French Expedition (Pelliot)

Week #04 Tarim Basin as Contact Zone Part 2

4.1. British Expedition (Hoernle, Macartney, Stein)

4.2. Russian Expedition (Oldenburg, Petrovski)

4.3. Japanese Expedition (Otani)

4.4. Chinese Expedition (Huang Wenbi)

Matsunami collection in Tokyo University

References: Hansen 2017 The Silk Road; Seiiki koko zufu 西域考古図譜. Kagawa Mokushiki 香川黙識 (ed.), 1915, 2 vols;

Website: <http://idp.bl.uk> , <https://www.metmuseum.org> , <http://turfan.bbaw.de/dta/> , <http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja> ,

II. Buddhist Art as Cultural Entanglement

Week #05 Buddhist Art Part 1

5.1. Gandhara and the Greeks

5.2. Kucha and Kizil Caves

Gandhara Art, Language Gandhari (loan words from Middle Iranian, Script from Aramaic, )

Indian + Greek (Hadda, Afghanistan), Coins, Aniconic

Week #06 Buddhist Art Part 2

6.1. Dunhuang Caves as Time Capsules

6.2. Khotan as Entryway into Kucha and Turfan

Rhie Early Buddhist Art of China and Centra Asia

References: Gandhara BAW 2013; The Art of Gandhara in The Metropolitan Museum of Art; Pakistan. Terre de rencontre Ier-VIe siecle. Les arts du Gandhara (Musee Guimet); Alt-Kutscha; Altbuddhistische Kultstätten in Chinesisch-Turkistan; Die buddhistische Spätantike in Mittelasien 7 vols; Schlingloff 1981 Erzählung und Bild (updated chin. version in 2013); Duan Wenjie 1994 Dunhuang Art; Ancient Khotan 2 vols; Serindia 5 vols; 中央アジア 世界美術大全集 東洋編15;

Website: <https://www.metmuseum.org> ; <https://www.metmuseum.org> ; <http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja>

-----  
Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (3)へ続く

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (3)

---

### Week #07 Visual and Textual Interplay Part 1

Focus: Names and Depictions of Certain Figures (Gods, Animals, Buddhist Monks, etc.)

- 7.1. Narrative Elements in the Buddhist Stories
- 7.2. Variations of Depiction and Concept of Open Philology
- 7.3. Case Study: Tigress Story in Various Transmissions

### Week #08 Visual and Textual Interplay Part 2

Dieter Schlingloff: Erzählung und Bild

Depiction of development of story and several episodes

Rock Art of Honey Hunters, 6000 BC

Lion Hunt of Ashurbanipal, Assyrian 7th cent. BC

Blinding of Polyphemus, Laconian Black Figure Cup, c. 540 BCE.

Cyclops Polyphemus Eleusis Amphora: funerary proto-Attic amphora circa 660 BC

Drinking cup (kylix) depicting Kirke from the Odyssey Greek Archaic Period 『千と千尋の神隠し』（せんとちひろのかみかくし）

Bharhut Bull and Tiger Jataka (Schiefner) by Asoka 3rd cent. BC

Jataka 357 Latukika, Bharhut, 2nd cent. BC

Miracle of the Buddha walking on a River Sanchi East Gateway 1st cent. BC

Sikri Stupa in Homage to Buddha Dipamkara in Gandhara Kushan 4th cent. AD

Josua begegnet einem Engel. Pal.gr.431.pt.B (<https://digi.vatlib.it/mss/detail/215228>)

## III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity

### Week #09 Western Manuscripts

- 9.1. General Introduction
- 9.2. Western Manuscripts (Greek, Latin, Old Church Slavonic, Gothic, Old English, etc.)

### Week #10 Oriental Manuscripts

- 10.1. General Introduction
- 10.2. Oriental Manuscripts (Gandhari, Sanskrit, Khotanese, Tocharian, Chinese, etc.)
- 10.3. Differences and Similarities between Western and Oriental Manuscripts

References: Manuscript Cultures Mapping the Field; One-Volume Libraries Composite and Multiple-Text Manuscripts

Website: Homer (Venetus A): <http://beta.hpcc.uh.edu/hmt/archive-dl/VenetusA/> ; Aeneas: [https://digi.vatlib.it/view/MSS\\_Vat.lat.3867](https://digi.vatlib.it/view/MSS_Vat.lat.3867) ; Gothic: <http://www.alvin-portal.org/alvin/view.jsf?pid=alvin-record%3A173610&dswid=7503> ; Old High German: <http://www.handschriftencensus.de/werke> ; Old English: <https://ebeowulf.uky.edu/ebeo4.0/CD/main.html> ; Sanskrit: <http://idp.bbaw.de/> ; Gandhari: <https://gandhari.org/> ; Avestan: <https://ada.geschkult.fu-berlin.de>

### Week #11 Composite Manuscripts Part 1

- 11.1. Textually Composite (Buddhist, Jaina, China; Bilingual)
- 11.2. Physically Composite (two layers, glued or sewn)

### Week #12 Composite Manuscripts Part 2

- 12.1. Philosophical/Religious Encounters between Asia and Europe
- 12.2. Case Study: Manichaeism in Tocharian und Old Turkic; Toch B-Uighur Bilingual Hymn to Mani

## Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (4)

References: The Emergence of Multiple-Text Manuscripts; Hartmann Wille Skt Handschriften Sammlung Pelliot 3510 Sammelhandschriften; Hartmann 2017 SHT 7185; Pan/Chen 2021 Traces of Chinese Buddhist Scrolls in Fragments of Tocharian Pothis; von Gabain/Winter 1958 Ein Hymnus an den Vater Mani auf “Tocharisch ” B mit altturkischer Übersetzung; Pinault 2008 Bilingual hymn to Mani: Analysis of the Tocharian B parts

### Week #13 Production of Manuscripts

13.1. Production of Palm Leaf Manuscripts

13.2. Chinese Buddhist Scrolls Transformed into Tocharian Pothis (How & Why & When & Where)

### Week #14 Manuscript Forgeries

14.1. Manuscript Forgeries as Transcultural Case Study

14.2. Unknown Script or Forgery? Hoernle Biscrypt

References: Sims-Williams 2000 Forgeries from Chinese Turkestan in the British Library 's Hoernle and Stein Collections; Dunhuang Manuscript Forgeries 2002; Rosen 2001 Hedin Forgery; Fakes and Forgeries of Written Artefacts from Ancient Mesopotamia to Modern China; Dragoni Schoubben Peyrot 2020 The Formal Kharosthi script from the Northern Tarim Basin in Northwest China may write an Iranian language  
Website: <https://www.youtube.com/watch?v=1G7Nd5Y6UCE>

### Week #15 Review of Course Materials

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

#### 【教科書】

授業中に指示する

#### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (5)

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be required to read the materials in advance and come prepared to discuss them.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目64

科目ナンバリング		G-LET36 6JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA , Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Esoteric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.											
【成績評価の方法・観点】											
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目65

科目ナンバリング		G-LET36 7JK16 SE36										
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		A History of Tantric Yoga										
【授業の概要・目的】												
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>												
【到達目標】												
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>												
【履修要件】												
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.												
【成績評価の方法・観点】												
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).												
【教科書】												
授業中に指示する												
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)へ続く -----												

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)

---

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目66

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Economic development in Asia</li> <li>2. Demographic change</li> <li>3. Diversity of political system</li> <li>4. Development and migration</li> <li>5. Feminization of labor and migration</li> <li>6. Ageing and migration</li> <li>7. Population policy and marriage migration</li> <li>8. Social integration/multicultural policy</li> <li>9. Logic of human rights and migration</li> <li>10. Policy of sending countries</li> <li>11. International labor market formation</li> <li>12. International collaboration and mutual benefit</li> <li>13. Welfare Regime / Familism</li> <li>14. Pandemic and migration</li> <li>15. Conclusion</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)**

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

reflection papers(50%) and term paper(50%).

**【教科書】**

Papers and related documents will be distributed inclass.

**【参考書等】**

( 参考書 )

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domesticity and New Rich Employers in Taiwan, Durhan and London: Duke University Press.

Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

**【授業外学修（予習・復習）等】**

Participants may be required to read papers related to the class.

**（ その他（オフィスアワー等） ）**

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目67

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授 久野 秀二 非常勤講師 久野 愛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Critical Consumption Studies									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check "Class support" or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>This course examines the political, economic, social, and cultural aspects of consumption broadly conceived. Theoretical and empirical studies on consumption have attracted scholarly attention from various disciplines ranging from sociology, anthropology, history, geography, business, and marketing studies, to agri-food studies. This course provides the overview of the interdisciplinary discussion on consumption -- not simply as the purchasing of goods but also as a political and social practice. It asks, for example, how have scholars in different disciplines understood and theorized consumption?; how does the consumption of food, clothes, and other consumer products affect social, economic, cultural and environmental sustainability?; and who are main actors and how they interact each other in these processes?</p>											
[到達目標]											
<p>This course aims to foster students' better understanding of theories, approaches and practices concerning consumption. It particularly helps students to identify key theoretical studies and concepts on the issue and to critically analyze consumption from comparative perspectives.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Week 1. Introduction</p> <p>Weeks 2-5. Theoretical Frameworks and Concepts of Consumption Studies</p> <p>(1) Sociology and Political Economy of Consumption</p> <p>(2) Sociology and Culture of Consumption</p> <p>(3) Geographies of Consumption</p> <p>(4) Consumption in History</p> <p>Weeks 6-9. Consumption of Food</p> <p>(1) Food Consumption and Place</p> <p>(2) Food Consumption and Identity</p> <p>(3) Food Consumption and Nutrition Politics</p> <p>(4) Food Consumption and Sustainability Politics</p> <p>Weeks 10-13. Consumption, Body, and Gender</p> <p>(1) Gender and Fashion as a Concept, Behaviour, and Market</p> <p>(2) Spectacle of Consumption</p> <p>(3) Creating Consumption?</p>											
										----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く	

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

(4) Consumption and Emotions

Week 14. Discussion

Week 15. Feedback

### 【履修要件】

No prerequisite knowledge or skill required other than English language ability sufficient to interact actively in class.

### 【成績評価の方法・観点】

Grading will be done on the basis of class participation/presentations (60%) and final assignment evaluation (40%).

To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

### 【教科書】

Reading materials will be made available in PDF through a Cloud system (Google Drive or Dropbox). All readings will be labeled depending on their importance: (a) Required, (b) Suggested, and (c) Optional. The list of readings will be distributed in advance of the start of the class.

### 【参考書等】

(参考書)

Reference literature will be made available on the Cloud system (Dropbox). They will be labeled "Reference", and are useful for students wishing to dig deeper into a specific topic.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Students are expected to complete all assigned readings to come prepared to discuss them in class.

### （その他（オフィスアワー等））

Office hour: Please email the instructors for an appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目68

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授 矢野 剛 非常勤講師 大西 広 非常勤講師 中野 有 非常勤講師 田添 篤史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to East Asian Economies									
[授業の概要・目的]											
<p>East Asia has various types of economies, for example transitional economy, planning economy, development economy and market economy. By introducing these economies, we learn that we need various type of approach including Marxist economics, transitional economics, and development economics. Therefore, professors will not only introduce East Asian economies but also teach the basic points of such approaches.</p>											
[到達目標]											
<p>It can be expected that participant students obtain basic knowledge and analytical framework to understand East Asian economies in the context of social sciences.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Professor Yano provides lectures on the following topics below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)Macro view on Chinese Economy: Investment</li> <li>2)Modern Economic History in China</li> <li>3)Economic Reform in China</li> <li>4)Industrialization in China</li> <li>5)Transitional Economics as a framework to analyze China</li> </ol> <p>Professor Nakano provides lectures on the following topics below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6)East Asia from the US Viewpoint</li> <li>7)East Asia in International Organizations</li> <li>8)Cooperative security in East Asia: How to resolve the issue of North Korea</li> <li>9)A Grand Design for Northeast Asia: Multilateral: Cooperation and Physical Integration</li> </ol> <p>Professor Li provides lectures on the following topics below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10) Marxist Economics as a framework to analyze Asia</li> <li>11)Trend of Regional Disparity in China 12)Ethnic conflicts in China from a viewpoint of economics</li> </ol> <p>Professor Tazoe provides lectures on the following topics below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13)Economic History of Japan</li> <li>14)Similarity of the East Asian Three Countries</li> <li>15)Comparative analyses of the East Asian Economies</li> </ol> <p>Prof. Yano: Oct 14 (3rd period) Orientation round</p>											
											Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)**

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Check the understanding level by discussion in each lecture(50%) and by the final reports(50%).  
To JDTS/MATS students: This is course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

1. Participant students are supposed to check the contents of material for lecture before each round of lecture.
2. Participant students are strongly recommended to prepare for report writing even during the period when lectures are conducted.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目69

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐野 真由子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.</p> <p>In the course of 2022, we will encounter with the British diplomats Ernest Mason Satow (1843-1929) and Algernon Bertram Mitford (1837-1916), two of the more famous figures in the early diplomatic history of Japan, known to have played important roles in the backstage of the Meiji Restoration. They were both young at the time and good colleagues to each other.</p> <p>Large part of the course will be dedicated to looking into their own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of the time, but to critically discuss the two diplomats' conducts in a culture different from their own, particularly through comparing their reactions.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following individuals' experiences.</p> <p>Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their work in the forefront of facing a different culture.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2-13: Discussions on experiences of Satow and Mitford mainly through their representative works "A Diplomat in Japan" (Satow, 1921) and "Memories" (Mitford, 1915), in combination with some other sources when necessary. The major aims of the discussions are as mentioned in the above fields. Classes will consist of: - Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned books); - Discussions and further analyses in class; and - Introduction to additional sources and reading materials.</p> <p>Note: The schedule and more concrete contents of each week will be considered most appropriately depending the number of participants, their knowledge of the Japanese language as well as history, and other related conditions.</p> <p>Week 14-15: Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

### 【履修要件】

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Satow's and Mitford's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

### 【成績評価の方法・観点】

Evaluation criteria:

- 1) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 40%
- 2) Term paper (4,000-5,000 words): 60%

To JDTS/MATS students: This course can be taken as full seminar (8 ECTS) only.

### 【教科書】

Ernest Satow 『A diplomat in Japan』 ( Seeley, Service; 1921 ) ( Students may use the e-book version (Project Gutenberg , 2013) via KULINE. )

Hugh Cortazzi (ed.) 『Mitford's Japan: memories and recollections, 1866-1906』 ( Japan Library; 2002 ) ( The pages from the text book to be used in the course will be provided in class. )

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

See [Class requirement].

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目70

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 河合 淳子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		SocSci Research Methods in Education									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.</p> <p>Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education</li> <li>• To gain knowledge of various research methods and to experience one of them</li> <li>• To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background.</li> <li>• To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Real time sessions using ZOOM will be provided. The lecture materials will be uploaded on PandA as necessary. If you have concerns, come to the first class and consult with the instructor. Please check KULASIS for the ZOOM information of the first class (Wednesday, October 7th).</p> <p>Course Overview</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sociological perspectives on education (Week 1) What do we know about education of our own? Do we really know about it?</li> <li>2. The nature and purposes of social research in the field of education (Week 2-3)</li> <li>3. Investigation on Japanese education (Week 4-7)             <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1: Condition of language education in Japan                 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Why do reforms return again and again?</li> </ul> </li> <li>3-2: Transition from schools to work                 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction of various approaches- Functionalist approach,</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

Conflict theorist approach, and Micro-interactionism

3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance)

- Discourse analysis of educational problems

3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacher-student relationship, relationship between schools and families.

4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)

5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12)

5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry

5-2: Sampling Techniques

5-3: Data Collection Techniques

(1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview

5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). 授業への参加 ( 30% )、課題レポート ( 30% )、期末レポート ( 40% ) で評価する。

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.

The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.

- Short reports 1 and 2 (30%)
- Report 3 (40%)
- Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students

- Short reports 1 and 2 (40%)
- Final presentation handout (20%)
- Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

### [教科書]

授業中に指示する

Handouts will be distributed.

プリント配布

### [参考書等]

(参考書)

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』 ( Taylor and Francis,2001 )

Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (ed.) 『Teaching and Learning in Japan』 ( Teaching and Learning in Japan )

McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『McMillan, James H. and Schumacher, Sally』 ( Addison Wesley Longman, Inc., 2001 )

Light, Richard J. et al 『By Design: Planning Research on Higher Education』 ( Harvard University Press, 1990 )

Weiss, Robert S 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』 ( The Free Press, 1994 )

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

- Office hour by appointment
- We will conduct a small-scale group/individual research project in the latter half of the course.

Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.

講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費 ( 交通費 ) が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目71

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 教授 久野 秀二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Comparative Development Studies: Situating Sustainability within Development									
【授業の概要・目的】											
<p>This course consists of two different, but mutually intersecting sessions.</p> <p>The first session “ Modernity and Crisis: Four Key Theorists ” aims at providing students with an overview of the theories of ‘ modernity ’ that have been foundational to sociological thinking since the earliest emergence of the discipline. Max Weber, in particular, characterised modern society as efficient, productive and rational, and yet also increasingly prone to crisis and the gradual de-humanisation of its citizens. This course explores the work of four key theorists of modernity (George Ritzer, Robert Putnam, Hannah Arendt, and James C Scott) --- each one of which illuminates a particular crisis of modernity.</p> <p>The second session “ Rural Development and Local Food in the Transition Toward a Sustainable Food System ” aims at offering students a room to discuss different frameworks for the analysis of the current "turn" and "transition" in rural development and the global agro-food economy. What is wrong with the present agro-food system? What is the future food system we would like to aim at? What strategies and forms of governance may be better suited to lead us to the desirable future? The articles proposed to consideration offer different theoretical perspectives on how to direct agro-food economy toward sustainability and social justice. The course wants to stimulate students' participation in order to develop a comparative perspective at global level on these topics.</p>											
【到達目標】											
<p>Students participating in this course are expected to acquire the knowledge and skills necessary to analyse the complex and dynamic processes of development and modernity. It is our educational goal that participating students enhance their understanding and critical sense of reality of the ecological, economic, social and political systems from a multidimensional and multidisciplinary perspective.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The first session (Hugh Campbell, University of Otago, New Zealand) explores the work of four key theorists of modernity --- each one of which illuminates a particular crisis of modernity.</p> <p>1) The McDonalidization of Society: George Ritzer, a neo-Weberian who examines the way in which bureaucratic logics and rationalities have combined with capitalist profit-seeking to create ‘ controlled ’ worlds of consumption that dehumanise us as individuals and increasingly constrain our lives. His theory describes what he calls the ‘ McDonalidization ’ of society. -- Reading: selected from George Ritzer - The McDonalidization of Society</p> <p>2) Individualization and Loss of Community: Robert Putnam, also a neo-Weberian, is most known for his work on social capital and loss of community in modern societies. His celebrated book Bowling Alone examines changes in the way that American citizens have engaged in wider social worlds. His argument is</p>											
										Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く	

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

---

that we are losing our connectedness to diverse communities and our lives are becoming more ' individualized ' and more alienated and intolerant of difference.

-- Reading: selected from Robert Putnam - Bowling Alone: the collapse and revival of American community.

3) The Authoritarian State and the De-Humanization of Citizens: Hannah Arendt is a political philosopher who has become increasingly adopted by sociologists seeking to understand some of the political pathologies of modernist society. Arendt argued that the rational apparatus of the state has evolved in ways that have not been constrained by values or ethics and that ' servants of the state ' can easily transition into becoming ' servants of evil intentions ' . Her compelling example of the holocaust in Nazi German (which she herself narrowly escaped) is now considered a classic study of the rise of authoritarianism in modernist societies and has had a revival of interest in the age of Donald Trump.

-- Reading: Selected readings by Hannah Arendt.

4) Modernity, Nature and State Control: James C Scott is a neo-Marxist scholar (who also draws on Weber) who has examined the way in which the modernist state took a particular form during the 20th Century and how the state (and modernity) have increasingly come into tension and conflict with ecological forces. In his book Seeing Like A State, he describes some of the mechanisms of control that the state uses to constrain citizens and how -- using examples like the promotion of modernist agriculture -- those mechanisms have increasingly failed to control and dominate nature.

-- Reading: Selected from James C Scott - Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed.

In combination, these four theorists bring to light four key crises of modernity: 1) bureaucratic and rationalized systems of social control, 2) Individualization and the loss of social bonds, 3) the rise of authoritarianism and the de-humanization of vulnerable groups, and 4) the conflict between modernity and nature.

The second session (Maria Fonte, American University of Rome, Italy) reviews various practices, discourses and policies on sustainable development and transitions in the agro-food economy, with special attention to Europe, from rural sociology and/or economic geography approaches.

1) From uniformity to diversity: agriculture modernisation, rural development and the sustainable food system

-- Jan Douwe van der Ploeg, Ye Jingzhong, Sergio Schneider, 2010. Rural development reconsidered: building on comparative perspectives from China, Brazil and the European Union. Rivista di Economia Agraria, 2: 163-190.

-- Fonte, M. and Quietì, Maria Grazia 2018. Food Production and Consumption Practices Toward Sustainability: The Role and Vision of Civic Food Networks. Reference Module in Food Science, Elsevier 2018.

2) Global challenges: toward sustainable food systems and sustainable diets

-- The Lancet Commissions, 2019. Food in the Anthropocene: the EAT-Lancet Commission on healthy diets from sustainable food systems, pp.1-7.

-- Tim Lang, 2021. The Sustainable Diet Question: Reasserting societal dynamics into the debate about a Good Diet. International Journal of Sociology of Agriculture & Food, 27(1): 12-34.

3) Food citizenship: the consumer in the food system

---

### Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (3)

-- Ray, C. 1998. Culture, intellectual property and territorial rural development, *Sociologia Ruralis*, 38(1): 3-20.

-- Henk Renting, Markus Schermer and Adanella Rossi, 2012. Building Food Democracy: Exploring Civic Food Networks and Newly Emerging Forms of Food Citizenship. *International Journal of Sociology of Agriculture and Food*, 19(3): 289-307.

-- G#243mez-Benito C., Lozano C. (2014). Constructing Food Citizenship: Theoretical Premises and Social Practices. *Italian Sociological Review*, 4(2): 135-156.

#### 4) How to conceptualise transitions to sustainability 1: Multi-level Perspective

-- Geels, F.W., Schot, J., 2007. Typology of socio-technical transition pathways. *Research Policy*, 36: 399-417.

-- Smith, A., 2006. Green Niches in Sustainable Development: The Case of Organic Food in the United Kingdom, *Environment and Planning C, Government and Policy*, 24: 439-458.

-- Mary Lawhon and James T. Murphy (2011) Socio-technical regimes and sustainability transitions: Insights from political ecology. *Progress in Human Geography*, 36(3): 354-378.

#### 5) How to conceptualise transitions to sustainability 2: social practice theory

-- Warde, A., 2014. After taste: Culture, consumption and theories of practice, *Journal of Consumer Culture*, 14(3): 279-303.

-- Fonte, M. 2013. Food consumption as social practice: Solidarity Purchasing Groups in Rome, Italy. *Journal of Rural Studies*, 32: 230-239.

-- Crivetis, M and Paredis E., 2013. Designing an explanatory practice framework: Local food systems as a case. *Journal of Consumer Culture*, 13(3): 306-336.

#### 6) Democratising food: Real Utopias projects, food councils and new forms of governance

-- Fonte, M. and Ivan Cucco 2018. The centrality of food for social emancipation: Civic food networks as real utopias projects. Jose Luis Vivero-Pol, Tomaso Ferrando, Olivier De Schutter and Ugo Mattei, eds., *Routledge Handbook of Food as a Commons*, Routledge.

-- Blay-Palmer, A., 2009. The Canadian pioneer: the genesis of urban food policy in Toronto. *International Planning Studies*, 14(4): 401-416.

Both sessions will be offered in an intensive way, such as every morning (1-2 periods) in a week, or two classes (1-2 periods for each) for two weeks. The detail will be announced when it is confirmed.

#### 【履修要件】

There are no special requirements for this course. This course is designed for any and all students with an interest in international development, rural development and interdisciplinary approaches.

#### 【成績評価の方法・観点】

Grading will be done on the basis of attendance and class participation (60%) as well as a final presentation and/or assignment essay by each student (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (4)

### [教科書]

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. GoogleDrive). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

### [参考書等]

#### (参考書)

Readings will be made available through a Cloud system (e.g. Dropbox). See course schedule (t.b.a.) for a detailed reading list.

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

Participating students will be assigned to read chapters of textbooks and relevant articles beforehand. Since classes are very interactive, well-preparation for each class is very important for students to participate in discussions. Also, at the end of the course students will be assigned to present their report on whatever relevant to the topics discussed in the classes.

Regarding the preparation, which is also a part of student assignments, the registered participants are required (and all other participants are encouraged) to well prepare each class by reading required materials and bring (if possible, submitting beforehand) an analytical summary of the assigned readings.

Analytical summary of two assigned readings for each class must be 400-500 words (one-page A4) consisting of three parts:

- 1) Summary --- identify and summarise the key arguments or main points of the assigned reading(s). Not descriptive, but analytical. Not exhaustive, but picking out three or four of the important key arguments or main points, and briefly explain them.
- 2) Integration --- pick one or two ways in which the authors' arguments or the topics of the assigned readings relate to one another or relate to something that has been ever studied by the students or also to the reality of their own country or region. Look for similarity or difference, and generate connections, contrasts or comparisons between them.
- 3) Question/Reactions --- identify questions the readings raise for students that we could discuss in the class. Also, students can raise specific questions about which parts of the reading did not make sense. Possible to raise objections (to content, style, politics, methods, etc), argument, praise, or any other reactions the students have while reading.

### (その他 (オフィスアワー等))

t.b.a.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目72

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定助教 小林 舞 経済学研究科 教授 久野 秀二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		International Development Assistance Policy									
【授業の概要・目的】											
<p>This semi-intensive course provides students with a diverse overview of Japan's international development assistance policy and practice of the Japanese government, business actors, and civil society organizations based on actual cases.</p> <p>The course allows students to learn about development practice in collaboration with the Japan International Cooperation Agency (JICA) under the Development Studies Programme. Each module will be led by guest lecturers, who are subject-matter experts working on a particular issue related to the module's theme. Coursework will include in-class exercises, class discussions, take-home assignments, and/or group work to build students' ability to understand, analyze, and apply new knowledge.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can expect to gain:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- A critically informed overview of Japan's international development assistance, policy making, and practices and locating policy agendas historically and within a global context.</li> <li>- A critical understanding of and engagement with key policy-making and intervention issues in the international assistance arena.</li> <li>- An ability to apply the skills and knowledge acquired during the course to actual development issues.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Course introduction and feedback will be done via Kulasis and Panda. The actual lectures are expected to start on Dec 1, 2021, and end on Jan 19, 2022. Lectures are scheduled on Wednesdays from 14:45 to 18:00. The duration of each session is 3 hours.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Week 0: Introduction - Course overview (via the platform)</li> <li>- Week 1: History of Japan's ODA, policies and programs; introduction of JICA (Guest lecturer from JICA)</li> <li>- Week 2: JICA's priority and operation framework; introduction of selected projects operated by JICA; JICA's approach to development compared to other donors; JICA's outlook and future agenda (Guest lecturer from JICA)</li> <li>- Week 3: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)</li> <li>- Week 4: Roles of the private sector in sustainable development (Guest lecturer from a private company)</li> <li>- Week 5: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Southeast Asia (Guest lecturer from a nongovernmental organization)</li> <li>- Week 6: Strengths and limitations of ODA: Case studies in Africa (Guest lecturer from a non-governmental organization)</li> <li>- Week 7: Course Feedback (via the platform)</li> </ul>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											



## Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Grades will be based on the following:

- attendance and participation (credit will not be given for more than two absences),
- three short essays (500 words) to be completed in a group of two to three students and submitted after each block of lecture - 40% of the final grade. (\* Block 1: JICA lectures, block 2: lectures from business entities, block 3: lectures from NGOs)
- one final essay (1,500 words) to be completed individually or in a small group (2-3 people) after the course is completed - 60% of the final grade.

There are two options to complete the final project:

Option 1: Write a pitch (proposal) for a development project that you would hypothetically present to one of the course lecturers. For example, you could choose a problem that was raised during one of the classes and propose a solution. You could also present a project or idea that you think would solve an issue or problem that you are interested in. Your pitch should include a succinct description of the project, which lecturer(s) you would hypothetically present it to and why; and, how you think the lecturer would react to your ideas.

Option 2: Write an argumentative essay about which lecture was the most interesting or the most convincing. The article must include a set of reasons supported by evidence (facts) from the classes. Evidence can be what a lecturer said, the materials that s/he used during the lecture, and/or how they were presented.

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, and Rohinton Medhora (eds.) 『International development : ideas, experience, and prospects』 ( Oxford: Oxford University Press, 2014 )

Veltmeyer, Henry and Paul Bowles 『The essential guide to critical development studies』 ( New York, NY : Routledge, 2017 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

-

### （その他（オフィスアワー等））

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目73

科目ナンバリング		G-LET36 6JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		経済学研究科 准教授 IVINGS, Steven			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Economic and Business History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to provide students with the overview of economic and business history from global perspectives. It covers a broad range of topics, geographical areas, and time periods from the emergence of early and modern capitalism, the Industrial Revolution, and post-WWII economic growth to the transformation of the global economy from the 1980s. Students who specialize in economic history or business history are highly recommended to take this course, including those who have taken an economic and/or business history course at other institutions or those who have taken similar courses at Kyoto University only in Japanese, since this course will be conducted solely in English (including lecture, discussion, and assignments). The course is also highly recommended to students who do not specialize in business or economic history but want to deepen their understanding of business and the global economy.</p>											
【到達目標】											
<p>This course aims to foster an understanding of historical changes in business and economy. Upon completion of this course, students are expected to gain ability to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-explain the transformation of the global economy, the impacts of economic changes on various parts of the world, and the role of business in history.</li> <li>-identify and analyze key scholarly discussion in the fields of economic and business history.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: What is economic history?</li> <li>2. Early Capitalism, Great Divergence,</li> <li>3. Industrial Revolution</li> <li>4. Globalization and Imperialism</li> <li>5. 19th Century Europe</li> <li>6. The US &amp; Latin America</li> <li>7. 19th Century Asia</li> <li>8. Japan: Asia ' s first industrial Revolution</li> <li>9. The Great Wars and Disintegration Part I: World</li> <li>10.The Great Wars and Disintegration Part I: East Asia</li> <li>11. “ Golden Age ” of Economic Growth: Part I World</li> <li>12. “ Golden Age ” of Economic Growth: Part II Japan and “ Asian Tigers ”</li> <li>13. “ Great Convergence ” : World economy after 1980s</li> <li>14. East Asia in the globalized world</li> <li>15. Feedback Session</li> </ol> <p>The above is subject to variation.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

**Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)**

**【履修要件】**

No prerequisite knowledge or skill required.

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance, active participation, and other in-class activities 50% (including presentation); Final paper 50%

**【教科書】**

To be announced in class

**【参考書等】**

(参考書)

To be announced in class

**【授業外学修(予習・復習)等】**

Students are expected to read all the reading assignments and prepare for class.

**(その他(オフィスアワー等))**

Office hours by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目74

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Ecocinema: From Plastic Garbage to Art									
【授業の概要・目的】											
<p>The search for a sustainable life is a pressing issue in Japan, especially after the Fukushima disaster. However, those of us living in Japan are uncertain about where to start and how to proceed. This course will examine “ ecocinema, ” focusing specifically on films from the U.S., P.R.C. and Japan that tackle issues of nuclear power, agriculture, and sustainable life. By examining those issues in different regions, we will imagine how global sustainability might look and what roles our transcultural communities might play in the future.</p> <p>Study Focus: Visual, Media, and Material Culture.</p>											
【到達目標】											
<p>First, students will learn about a wide range of issues in present global ecology and a variety of documentary films categorized as “ ecocinema. ”</p> <p>Second, students will learn how to analyze those films. They will study, step-by-step, how to approach and analyze the medium of film.</p> <p>Third, in developing and writing their final essays, students will hone their ability to produce a persuasive paper. During our final two to three weeks, all students will present their final essay topics to the class.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1-2: Introduction: What is Ecocinema? and Issues on Global Warming</p> <p>(Screening) An Inconvenient Truth (2006, dir. Davis Guggenheim, 1 h 36 min)</p> <p>(Reading Assignment) “ What is Ecocinema? A Case Study Analysis with Jim Henson ’ s Labyrinth, ” Toby Neilson.</p> <p>(Suggested Assignments) “ More Truth, Even Less Convenient, ” David Guggenheim.</p> <p>Tatiana Schlossberg, “ How Much Do You Know About Solving Global Warming? ”</p> <p>Week 3-4: Planet or Plastic?</p> <p>(Screening)</p>											
											Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (2)へ続く

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (2)

---

Plastic China (2016, dir. Jiuliang Wang, 1 h 22 min)

(Reading Assignments)

Beattie G., Sale L., McGuire L., “ An inconvenient truth? Can a film really affect psychological mood and our explicit attitudes toward climate change? ” *Semiotica*, 187, 105-125 (2011).

Laura Parker. “ We Make It. We Depend on It. We ’ re Drowning in It. ” *National Geographic*, June 2018: 40-91.

“ China Stops Recycling Our Shit. ” (January 23, 2018).

<http://iquitplastics.com/blog/2018/1/23/china-bars-recycling-our-shit>

Week 5-6: Issues on Alternative Energy

(Screening)

Ashes to Honey (2010, dir. Hitomi Kamanaka, 2h 15 min)

(Reading Assignments)

Hideaki Fujiki, “ Problematizing Life: Documentary Films on the 3.11 Nuclear Catastrophe, ” in *Fukushima and the Arts: Negotiating Nuclear Disaster*, ed. Barbara Geilhorn and Kristina Iwata-Weickgenannt (London and New York: Routledge, 2017), 90-109.

Joel Neville Anderson, “ Cinema in Reconstruction: Japan ’ s Post 3.11 Documentary, ” in *Film on the Fault Line*, ed. Alan Wright (Bristol, UK/Chicago, USA: Intellect; 2015), 215-231.

Week 7-8: Issues on Fukushima

(Screening)

Nuclear Nation (2012, dir. Atsushi Funahashi, 1h 36 min)

(Reading Assignments)

Mick Broderick and Robert Jacobs, “ Fukushima and the Shifting Conventions of Documentary: From Broadcast to Social Media Netizenship, ” in *Post-1990 Documentary: Reconfiguring Independence*, ed. Camille Deprez and Judith Pernin (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2015), Chapter 14.

Brandon Harris, “ After the Wave: Atsushi Funahashi on Nuclear Nation ” in <https://filmmakermagazine.com/82896-after-the-wave-atsushi-funahashi-on-nuclear-nation/#.XV9M1FBUuCQ> (published on Dec. 17, 2013, and accessed on August 2019).

Week 9-10: Food Ecology and Animal Rights

(Screening)

Food, inc. (2008, dir. Robert Kenner, 1h 34 min)

A Story of a Butcher ’ s Shop (2013, dir. Aya Hanabusa, 1h 49 min)

(Reading Assignments)

Laura Lindenfeld, “ Can Documentary Food Films Like Food Inc. Achieve their Premise? ” *Environmental*

---

### Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (3)

Communication Vol. 4, No. 3 (September 2010), 378-386.

Belinda Smail, "New Food Documentary: Animas. Identification, and the Citizen Consumer," Film Criticism Vol. 39, No. 2 (Winter 2014-15), 79-102.

Week 11-12: Ecology and Art

(Screening)

Waste Land (2010, dir. Lucy Walker, 1h 39 min)

(Reading Assignments)

No reading assignments for this week. Instead, we 'll discuss on various possibilities for "ecocinema" in class.

Week 13-14: Student Presentations on Final Essay

Student Presentations on Final Essay

\*20 minutes maximum.

\*use power point.

\*if you are analyzing a film, which has not been screened in class, show some clips at least from the film during your presentation.

\*distribute your one-page outline with hard copies to all students.

Week 15: Feedback

#### 【履修要件】

Number of participants not more than 7.

#### 【成績評価の方法・観点】

Active Participation + Attendance (20%), Leading Discussion on Reading Materials (10%), Short Reaction Paper (20%), Presentation (10%), Final Paper (40%).

#### 【教科書】

Not used. Reading materials will be retrieved digitally from my file.

#### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

I'll introduce reading references in class.

#### 【授業外学修(予習・復習)等】

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class.

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) (4)

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

\*Consultation (office hours) by appointment.

\*Please contact Mitsuyo Wada-Marciano <mwadamar@gmail.com> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目75

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Asian Cinemas & Transcultural Cinema Forum 2022									
【授業の概要・目的】											
<p>This course examines contemporary East Asian cinemas' transnational current at various levels of industry, genre, filmic style, and global commodification. Despite Hollywood cinema's historical dominance of the global cinema market, the ways in which cinema is disseminated have never been monolithic. Such cultural traffic has occurred through negotiations among locales, regions, and nations, across Asian countries, including Japan, Hong Kong, Taiwan, and Korea, and with Hollywood as well.</p> <p>This 2-month intensive course, cosponsored with Transcultural Cinema Forum, scrutinizes the dynamic between the global and the local by focusing on those East Asian cinemas' strategies towards globalization and regionalization. The course has been constructed in multiple sections, investigating transcultural aspects in cinema with specific topics, such as "Children of the World (1940): Jewish Filmmakers in Exile in Occupied Shanghai, 1939-1945," "When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan."</p> <p>This course is designed for all students who are interested in screen culture in Asia and other areas. Attending lectures, which will be held on Tuesdays in class, is mandatory in order to discuss both films and reading assignments during the classes. Due to the Covid-19, students reside outside Japan might need to participate via zoom (the zoom information will be provided later).</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools to map the current state of East Asian cinema and "transculturality" conformed among them, and to develop their original, compelling ideas on those films. All students will strengthen their ability to communicate clearly and make persuasive arguments orally and in writing. We will discuss various films from the PRC, Taiwan, South Korea, and Japan, and students will be assigned to see films outside a classroom due to the limitation of class hours.</p> <p>By the end of this course, students are expected to be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• draw on concepts from Film Studies to analyze a film's narrative and form, not just its content</li> <li>• expand knowledge of issues in Asian and transnational cinemas, and apply critical frameworks, film theories, and historiographical approaches</li> <li>• make original arguments and support them with evidence and a logical chain of reasoning</li> <li>• communicate their ideas clearly in writing, discussions, and oral presentations</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
Week 1-2 Introduction											
Week 3-4											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											



## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

---

Filmmaker Kazuhiro Soda

Talk Title:

“ The Power of Observation: How and Why I Make ‘ Observational ’ Documentaries ”

Screening:

Peace (2010, dir. Kazuhiro Soda, 95 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 5-6

Dr. Tamako Akiyama

Associate Professor of Chinese Studies at Department of Chinese, Kanagawa University

Talk Title:

“ When Currents Collide: Chinese Independent Cinema and Japan ”

Screening:

TBA

Reading Assignments:

TBA

Week 7-8

Filmmaker Thomas Ash

Talk Title:

TBA

Screening:

Ushiku (2021, dir. Thomas Ash, 87 min.)

The Ushiku deportation prison near Tokyo mainly holds people seeking refuge in Japan. Using a hidden camera, award-winning filmmaker Thomas Ash interviewed inmates there from late 2019. His film publicly accuses Japan ’ s uncompromising refugee policy through one of the country ’ s biggest human rights scandals. Ushiku has been making international headlines for years.

Reading Assignments:

\*Mark Schilling, “ Detained but not silent: Stories from inside Japan ’ s immigration Centers, ” The Japan Times (June 11, 2021).

<https://drive.google.com/file/d/1Jc9BzBsM2yDbtBdFUJYdAWdNDwwrbOHw/view>

\*Yukina Kin, “ Horrible ‘ hospitality ’ : Detainees talk about reality of Japan immigration facility in film, ” The Mainichi (July 2, 2021).

<https://drive.google.com/file/d/1Y1NjjXHfEQFjll6MOr40N7HZf10DvviC/view>

\*Toshikuni Doi, “ Yamagata International Documentary Film Festival Review #6 Ushiku ” (October 15, 2021).

### Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)

---

[https://drive.google.com/file/d/1PEGVxOjOSKmXFeDAQps45XdpXcz\\_7jmw/view](https://drive.google.com/file/d/1PEGVxOjOSKmXFeDAQps45XdpXcz_7jmw/view)

Week 9-10

Dr. Roland Domenig

Associate Professor, Department of Art Studies, Meiji Gakuin University

Talk Title:

“ Children of the World (1940): Jewish Filmmakers in Exile in Occupied Shanghai, 1939-1945 ”

Screening:

Children of the World ( 『世界儿女』 , 1940, dirs. Louise & Jakob Fleck, 90 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 11-12

Filmmaker Kaori Oda

Talk Title:

“ Film to Understand and Be Understood ”

Screening:

Thus A Noise Speaks (2012, dir. Kaori Oda, 38 min.)

Cenote (2019, dir. Kaori Oda, 75 min.)

Reading Assignments:

TBA

Week 13-14

Dr. Yoshikuni Igarashi

Professor of History, Vanderbilt University

Visiting Research Scholar, International Center for Japanese Studies

Talk Title:

“ Circular Vision: The Metavisuality of Television ”

Outline: In this talk, I will gauge television ' s underestimated socioeconomic effects on Japanese society by revisiting the early years of its introduction, when it was still a newsworthy event. The dramatic transformation that Japan experienced under the high-growth economy (1955-1972) was not only political, social, economic, and cultural but also intensely visual. Television was instrumental to how individuals came to see themselves and their nation during this period. Through television, individuals became deeply embedded in a newly emerging national space: their everyday lives viewed as part of an unfolding national drama. This new media provided viewers an expansive vision even as it taught them to internalize its conforming gaze.

Screening:

Good Morning (Ohayo, 1959, dir. Yasujiro Ozu, 94min.)

## Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(4)

---

Reading Assignments:

TBA

Week 15

Student Presentations

Final essay due, December 6th (Tuesday) by noon.

### 【履修要件】

Undergraduate students who want to take this course need to receive my permission.

### 【成績評価の方法・観点】

1. Attendance + Participation 25%
2. Essay Assignment 20%
3. Presentation on your final essay topic 15%
4. Final Essay 40%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class. The logistic will be explained in the introduction.

### (その他(オフィスアワー等))

My office hours are TBA.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目76

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院先端総合学術研究科 ROTH, Martin Erwin 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Digital games in a transcultural perspective									
【授業の概要・目的】											
Digital games are widely recognized as a global culture. However, the term global remains vague in most discussions, to say the least. In order to gain a more nuanced understanding, this class aims at discussing the possibility of a transcultural perspective on digital games. Discussing a wide range of dimensions and examples of transcultural elements in digital games, participants will develop a toolkit for analyzing games and gaming culture from a transcultural perspective.											
【到達目標】											
The course provides an understanding of relevant transcultural theories of and transcultural aspects about digital games. It enables students to analyze digital games, gaming culture and other aspects of digital media culture from a transcultural perspective.											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. What does “ transcultural ” mean; you tell me</li> <li>2. Starting Points: Global Circuits of Play</li> <li>3. Production I: Hardware</li> <li>4. Production II: Software and Editors</li> <li>5. Distribution I: Region lock and Rating</li> <li>6. Distribution II: Digital Platforms</li> <li>7. Contents I: Representations of Culture</li> <li>8. Contents II: Localization</li> <li>9. Reception I: Reviews and Wikis</li> <li>10. Reception II: Video sharing and live streaming</li> <li>11. Game Cultures I: Speedrunning</li> <li>12. Game Cultures II: E-Sports</li> <li>13. Game Cultures III: Indie and Doujin</li> <li>14. Play Cultures?</li> <li>15. General Discussion</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

The course will be evaluated based on active participation in the discussion (30%), a short presentation (30%) and an essay on any transcultural aspect of digital games or gaming culture (40%), based on a six-point grade scale. The evaluation will be based on the course objectives.

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

I expect you to prepare the weekly course readings as the course will be discussion-heavy and based on these readings.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目77

科目ナンバリング		G-LET36 6JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Italian Neorealism in World Cinema									
【授業の概要・目的】											
<p>Italian neorealism (1945-1952) was a crucial movement in film history, marking an aware move away from mainstream Hollywood filmmaking and focusing on realistic characters and stories. Through a virtual journey across world film cultures, and national identities, this course aims to provide a critical approach to the enduring resonance of Italian neorealism in international cinema. We will start with a brief introduction on the main features of the movement and historical contextualization of the most relevant neorealist movies, from the masterpiece 'Roma citta' aperta' (Roberto Rossellini, 1945). Subsequently, the course will explore the broad influence of neorealism on global cinema, from the impact on contemporary filmmakers (e.g. Akira Kurosawa) to the late tributes (e.g. 'Roma', Alfonso Cuaron Orozco, 2018).</p>											
【到達目標】											
<p>Students will learn the most significant features of Italian neorealism. Investigating the wide-ranging impact of the neorealist movement, they will improve their knowledge of world cinema. Moreover, they will deepen their historical awareness of the relationships between a movie and its precursors. Students will be able to critically watch and discuss a film, prepare a short oral presentation and perform it in front of the class. The seminar requires an active interaction of the students. Therefore, attendance is mandatory. Classes will be held in English.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>This course is a cinema course, with some screenings, therefore one class is the length of 2 classes/180 min.</p> <p>1: Italian neorealism. Introduction.                  2-6: Italian neorealism in global cinema. Screening and commentary of world movies influenced by Italian neorealism.                  7: Presentations prepared by students.                  8: Feedback.</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Evaluation will depend on: 1. active participation in class, 2. final presentation. Attendance is mandatory. No more than three absences are allowed.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The instructor will assign reading after classes.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目78

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Modern East Asian History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.            From Session 1 to Session 5: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.            From Session 6 to Session 9: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.            From Session 10 to Session 14: Modern sports in East Asia have a long history. The sessions provide interesting topics of that history.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance.            Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia.</li> <li>-further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history.</li> <li>-develop a good understanding of sports in Modern East Asia.</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Weeks 1-5 ( Ericson)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction</li> <li>• Places of Learning and Experiment</li> <li>• Infrastructure and Everyday Technology</li> <li>• Cultivation "Revolutions": Red, Green, and Blue</li> <li>• Risk and Disaster</li> </ul> <p>Weeks 6-9 ( Murakami)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War</li> <li>• "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War</li> <li>• The End of the Coolie Trade in Southern China</li> <li>• Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy</li> </ul> <p>Weeks 10-14 ( Takashima)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduction: Girl ' s Baseball in East Asia</li> <li>• The Japanese Empire and Sports</li> <li>• Sports and Masculinities in Japan</li> </ul>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											



Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)

Week 15 Feedback

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).  
To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).  
Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China's Protection of Overseas Chinese during the Late Ch'ing Period (1851-1911)』 (Singapore University Press)  
Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Orde』 (Bloomsbury)  
Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』  
Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan』 (Cornell University Press)  
Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』 (University of Chicago Press)  
Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』 (Science, Technology, and Society (2016))  
Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』 (Environmental History (2012))  
Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』 (Harvard University Press)  
Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』 (University of California Press)  
Stefan Huebner 『Pan-Asian Sports and the Emergence of Modern Asia』 (NUS Press)  
Andrew D. Morris 『Marrow of the Nation: A History of Sport and Physical Culture in Republican China』 (University of California Press)

**【授業外学修(予習・復習)等】**

The students are expected to read the assigned materials.

(その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目79

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Historical Seminar: Animals and Borders									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.</p> <p>Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area.</p>											
【到達目標】											
<p>After this course, students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* better understand the methods, problems, and assumptions of animal history</li> <li>* undertake individual field and archival research</li> <li>* communicate ideas during in-class discussion and through written reports</li> </ul> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance. Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course Outline</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Three Initial Questions</li> <li>3. Conceptualizing Animals and/as Humans</li> <li>4. Animal Actors</li> <li>5. Animal Traces, Animal Parts</li> <li>6. Domestication</li> <li>7. Creatures of Empire</li> <li>8. Invasive Species</li> <li>9. Disease</li> <li>10. Between the Laboratory and "the Field"</li> <li>11. Knowing Animals</li> <li>12. Rethinking Pets</li> <li>13. The Zoo</li> <li>14. Writing Animal Histories</li> </ol>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

15. Presentations/Feedback

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance, participation, reading responses, and presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research project and project presentation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

授業中に指示する

At least one copy of the books will be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

**（その他（オフィスアワー等））**

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目80

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 特定准教授 TAJAN , Nicolas Pierre			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Psychiatry									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: This class will be offered in an online or hybrid format in October and taught in the 4th period. Later, this class will be offered in 2nd period. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.</p> <p>注意：10月中に本科目は4限にオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。後に2限に変更します。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>Psychology and psychiatry have often been criticized for not considering cultural dimensions of mental distress. This course introduces transcultural psychiatry, a discipline that carefully questions taken-for-granted ways of organizing knowledge related to mental distress with respect to cultural differences.</p> <p>The course is divided into 3 sections of 4 classes. First, transcultural psychiatry ’ s history, principles, and methods are detailed. Second, we focus on cultural assessments such as the Cultural Formulation Interview (CFI), and the McGill Illness Narratives Interview (MINI). Third, we explain applications to mental health including insights on migrants and disasters, and offer a Psychological First Aid training. The approach is integrative: it combines most recent psychiatric definitions, psychopathological and anthropological understanding of human distress. Students are encouraged to discuss articles, videos and case studies studied in class.</p> <p>The course is also unique opportunity to receive a practical training in Psychological First Aid including role playing (classes 12 and 13), inspired by the World Health Organization most recent guidelines.</p> <p>By the end of this course, students will know how mental distress is assessed in various cultural contexts, and how psychological first aid in situations such as natural disasters, and other catastrophes, is provided in contexts where people also have to navigate cultural differences.</p>											
[到達目標]											
<p>To help you develop your analytical and critical thinking regarding mental distress in a variety of social and cultural contexts.</p> <p>To provide you with a general introduction to and understanding of key questions and challenges in transcultural psychiatry.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1. Introduction</p> <p>2. Transcultural Psychiatry 1/4: History and Scope</p>											
										Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く	

## Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

3. Transcultural Psychiatry 2/4: Pioneers
4. Transcultural Psychiatry 3/4: The Cultural Concept of the Person
5. Transcultural Psychiatry 4/4: Culture and Illness
6. Cultural Assessment 1/4: Illness Narratives
7. Cultural Assessment 2/4: McGill Illness Narrative Interview
8. Cultural Assessment 3/4: Cultural Concepts of Distress
9. Cultural Assessment 4/4: Cultural Formulation Interview
10. Culture and Mental Health 1/4: Working with Refugees and Migrants
11. Culture and Mental Health 2/4: Working in Disaster Areas
12. Culture and Mental Health 3/4: Psychological First Aid I
13. Culture and Mental Health 4/4: Psychological First Aid II
14. Conclusions
15. Feedback

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Short tests (30%): Multiple choice questionnaire (15 questions, 1 response to choose among 3 possibilities) lasting 10 minutes at the beginning of classes 6 and 10.

Participation and attitude (30%).

Final test (40%): Multiple choice questionnaire.

Graduate students are allowed to write a term paper (ca. 4-5.000 words) to take this course for 8 ECTS.

Graduate students submit the term paper in addition to taking the test.

### 【教科書】

Relevant material is distributed in class

### 【参考書等】

(参考書)

Bhugra et al. (2011) WPA Guidance on Mental Health and Mental Health Care in Migrants World Psychiatry, 10:2-10

Delille E and Crozier I (2018) History of Psychiatry, Special issue Historicizing Transcultural Psychiatry, Vol. 29, Issue 3, Number 115. Sage publications.

Grolleau D, Kirmayer L, Young A (2007) McGill Illness Narrative Interview. <https://www.mcgill.ca/tcpsych/research/cmhr/mini>

Halpern J and Vermeulen K (2017) Disaster Mental Health Interventions. Core principles and practices. Routledge.

Halpern J, Nitza A, and Vermeulen K (2019) Disaster Mental Health Case Studies. Lessons learned from counseling in Chaos. Routledge.

Human Rights Watch (2016) Living in Hell. Abuses against People with Psychosocial Disabilities in Indonesia. <https://www.hrw.org/report/2016/03/20/living-hell/abuses-against-people-psychosocial-disabilities-indonesia>

Kirmayer (2007) Psychotherapy and The Cultural Concept of the Person, Transcultural Psychiatry, vol 44 (2)

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(3)

232-257.

Kirmayer L and Pedersen D (2014) Toward a new Architecture for Global Mental Health, *Transcultural Psychiatry*, vol 51 (6) 759-776.

Kleiman A (1988) *The Illness Narratives. Suffering, Healing and the Human Condition*. Basic books.

Lewiz-Fernandez R et al. (2016) *DSM-5 Handbook on the Cultural Formulation*. American psychiatric Publishing.

Patel V (2014) Why Mental Health matters to global health, *Transcultural Psychiatry*, vol 51 (6) 777-789.

Summerfield D (2014) Against Global Mental Health, *Transcultural Psychiatry*, vol 49 (3-4) 519-530.

Wen Shing Tseng (2001) *Handbook of Cultural Psychiatry*. Academic Press.

( 関連 U R L )

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp>

**[授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等]**

Students have weekly reading assignments (not exceeding one page per week). Students are advised to take notes during class and to review the course material before short test 1 and 2, and final test.

( その他 ( オフィスアワー 等 ) )

Friday (12:30-13:00)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目81

科目ナンバリング		G-LET36 6JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	水6	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of past iterations of this course has been its collaborative format, which brings students at Kyoto University into conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.</p> <p>(Please note however that the precise outlines of the collaboration for 2022-23 are not clear yet.)</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of the course, students will:</p> <p>Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.</p> <p>Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.</p> <p>Improve their ability to express themselves in speech and in writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism</p> <p>Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire</p> <p>Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire</p> <p>Week 5: Hawaii**</p> <p>Week 6: Singapore**</p> <p>Week 7: The World of the Arafura Sea**</p> <p>Week 8: Central and South America**</p> <p>Week 9: The North American Pacific Northwest**</p> <p>Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism</p> <p>Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review</p> <p>Weeks 14-15: Final Presentations</p>											
<p>** These meetings will involve hands-on discussion and collaborative assignments with Zurich University students. Due to time differences, the goal is to hold these classes in the evening starting at 18:00. Please keep</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											



**Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)**

-----  
this in mind.

(Please note that the content and order of topics is subject to change.)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

**【教科書】**

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

**(その他(オフィスアワー等))**

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目82

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目	An Introduction to Bioethics										
【授業の概要・目的】											
<p>Is it okay to take pills to help you ace exams? Should you be able to choose the sex of your child? Is abortion murder?</p> <p>These controversial questions will be explored in this bioethics course. Bioethics is an interdisciplinary field of study that looks into ethical, legal, and social implications of life sciences and health care. This course will help you understand key ethical issues surrounding crucial problems that profoundly impact your life from birth to death.</p> <p>Topics include:</p> <p>Reproductive technology such as surrogacy and sex-selection of the baby Abortion Informed consent Euthanasia The use of medical technology for the purpose of enhancement</p> <p>You will also learn about ethical arguments and regulations in Japan and other countries concerning life sciences and healthcare. The hope is, through this course, you will better understand and formulate your own opinions on these important issues.</p> <p>This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Focus I -- Foundations I.</p>											
【到達目標】											
<p>You will learn:</p> <p>Basic terms for bioethics Basics of ethical arguments How decisions are made on critical bioethics issues Regulations and public policies related to bioethical issues in Japan and other countries</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Discussion topics include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. What is Bioethics?</li> <li>2. The Ethics of Assisted Reproductive Technology</li> <li>3. The Ethics of Truth-Telling</li> <li>4. Is Abortion “ Murder ” ?</li> <li>5. What ’ s Wrong with Enhancement?</li> <li>6. Is Euthanasia Wrong?</li> <li>7. Living-Donor Organ Transplantation</li> <li>8. Cloning Technology</li> <li>9. ES Cells and iPS Cells</li> <li>10. Lifespan and Eternal Life</li> </ol>											
											Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)(2)へ続く

Research 1-3-Seminar (KBR/SEG)(Colloquim)(2)

11. Brain Death and Organ Transplants
12. Genome Editing and Ethics
13. The Problem with "Suicide Tourism"
14. Forgoing Life-Sustaining Treatment
15. The Ethics of Ageing

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Class attendance and active participation (50%), small quiz tests that come with the video lectures (50%).

**【教科書】**

Kodama, Satoshi & Natsutaka 『EXPLORING BIOETHICS THROUGH MANGA: Questions on the Meaning of "Life" 』 ( Kyoto: Kagakudojin ) ISBN:978-4759827774

**【参考書等】**

( 参考書 )

Tony Hope and Michael Dunn 『Medical Ethics: A Very Short Introduction 2nd ed.』 ( Oxford University Press ) ISBN:978-0198815600

**【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】**

This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students. Each lecture video with a small quiz test lasts for less than one hour.

**【その他 ( オフィスアワー等 ) 】**

Students are encouraged to try to understand each other's perspective on issues related to life and death.

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目83

科目ナンバリング		G-LET36 6JK23 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 助教 文学研究科 助教		吉井 秀夫 下垣 仁志 富井 眞 内記 理	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion.            Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
[到達目標]											
By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.											
[授業計画と内容]											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week)Hideo Yoshii Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (3weeks)Hideo Yoshii This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Prehistory in Japan (3weeks)Makoto Tomii This section will outline the history of the study of Japanese prehistory, and focuses on the material culture of Mesolithic (called “ Jomon ” period) as well as Paleolithic and Early Neolithic, with showing some researches to exploit the potential for contributing to the world prehistory.</p>											
										Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)へ続く	

Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Lecture) (2)

4 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(3weeks)Hitoshi Shimogaki  
This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods and toilet) from structural remains and artifacts excavated in Japan.

5 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)Satoshi Naiki  
In order to assemble knowledge about “ origins ” of Buddhist culture, Kyoto University has conducted researches in Buddhist sites in China and Central Asia. In the lectures, how Buddhist cultures were transferred into East Asia will be discussed on the basis of archaeological information obtained by Kyoto University.

6 Discussion (1 week)Hideo Yoshii

7 Feedback(1week)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

**【教科書】**

使用しない  
Not used

**【参考書等】**

( 参考書 )  
授業中に紹介する  
To be announced in class

**【授業外学修（予習・復習）等】**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目84

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		The Memory of the Second World War in Asia and Europe									
【授業の概要・目的】											
<p>For natural meaning biological reasons are the last witnesses of the Second World War slowly but surely passing away. However, a demand for war remembrance and for tackling the issue of "War and Memory-studies" is still continuing in academia, the humanities, cultural and social sciences. The remembrance of World War II remains an important topic for societies across the globe maybe more than ever.</p> <p>In the early 21st century are debates on questions related with responsibility for war, war guilt and its admission or compensation still in progress in Asia, in East-Asia in particular. Prominent examples are territorial disputes, e.g. about Takeshima/Dokdo Island between Japan and South Korea, the controversy about ' Ianfu ' (called "Comfort Women" by the Japanese wartime propaganda #8211 a better term might be ' forced prostitutes ' or ' sex slaves ' ) and the debate on (financial) compensation for former forced labourers. The governments of the United States of America and Japan are mutually waiting for official gestures of apology #8211 for the Pearl Harbor attack on the one hand and for the drop of the A-bombs on Hiroshima and Nagasaki on the other hand. The process of reconciliation is in Asia still in an early stage and far from coming to an end.</p> <p>In post-war Europe predominates a consensus about the remembrance of World War II and the Holocaust. Germany and its historical archrival France #8211 two neighbouring countries, which had been in military conflicts for decades #8211 became closest political and military partners after 1945. It looks like European countries are successful in overcoming the past #8211 but is that actually true?</p> <p>This course will focus on the culture(s) of memory, the remembrance and commemoration of World War II I in a comparative global perspective by focusing on the Asia-Pacific region and Europe in particular. Diverse ' memorial sources ' such as statues, memorials, cemeteries, remembrance days and festivities, war movies, graphic novels, manga etc. will be analyzed in this course.</p> <p>Study Focus: Society, Economy and Governance; Visual, Media and Material Culture Modules: Mobility &amp; Research 1; Mobility &amp; Research 2; Research 3.</p>											
【到達目標】											
<p>This course aims to provide students with an overview of the culture of World War II-memory in Asia and Europe in a comparative perspective. Students should get a better understanding for reconciliation processes and learn on how to deal with WWII-controversies in a global perspective.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan will be determined at a later point, depending on the number of course participants, students ' feedback and interest in specific topics/case studies.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

## Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture)(2)

After a short introduction into the historiography of World War II will the course be based on the following ‘ four sub-topics ’ which are considered as ‘ core-topics ’ :

- a) Monuments and Memorial Sites (such as e.g. USS Arizona Memorial, Holocaust Memorial, ‘ Stumbling Stones ’ )
- b) Controversies (such as e.g. Bombing of Dresden; Ianfu; History Textbooks)
- c) Museum Exhibitions (e.g. the ‘ Wehrmacht-Exhibition ’ ; Chiran Peace Museum for Kamikaze Pilots)
- d) Movies and Manga (e.g. The Bridge on the River Kwai; ‘ Grass ’ )

### [履修要件]

3rd year or above

### [成績評価の方法・観点]

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as a reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Required are active participation in class and in its discussion (25%), a (short) presentation (25%) and a term paper/essay (50%). The length of the paper will be in accordance with the number of Credit Points.

### [教科書]

授業中に指示する

For each session, students need to prepare two readings (two short book chapters or articles). Depending on the topic, there can be other tasks instead of a reading, e.g. watching a short video or writing a short photo/image analysis (less than one page). Each student will give one brief ‘ stimulus presentation ’ (as introduction into a new topic) in class.

The course materials will be made available via the course PandA webpage.

### [参考書等]

( 参考書 )

Assmann, Aleida and Conrad, Sebastian 『Memory in a Global Age: Discourses, Practices and Trajectories』 ( Basingstoke, Palgrave MacMillan, 2010 )

Ford, Douglas 『The Pacific War: Clash of Empires in World War II』 ( London: Bloomsbury Publishing, 2011 )

Melber, Takuma 『Pearl Harbor. Japan ’ s Attack and America ’ s Entry into World War II』 ( Cambridge: Polity Press,2021 )

Overy, Richard J. 『The Bombing War: Europe 1939-1945』 ( London: Allen Lane, 2013 )

Seraphim, Franzisk 『War Memory and Social Politics in Japan, 1945-2005』 ( Cambridge: Harvard University Press,2005 )

Weinberg, Gerhard L. 『A World at Arms: A Global History of World War II』 ( Cambridge: Cambridge University Press, 2012 )

### [授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等]

TBA

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Lecture)(3)

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation hours by appointment. Please contact me via email to [takuma.melber@hcts.uni-heidelberg.de](mailto:takuma.melber@hcts.uni-heidelberg.de) for arranging an appointment and/or for raising any questions related with the course.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目85

科目ナンバリング		G-LET36 7JK27 SJ36									
授業科目名 <英訳>		Research 2-Advanced Japanese Research 2-Advanced Japanese				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Reading Japanese academic texts									
【授業の概要・目的】											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>This course is aimed to develop your skills to read academic articles written in Japanese, including classical Japanese.            Each participant chooses a paper as they like, and tries to "read" it (including how to pronounce each kanji).            Participants are supposed to help each other to understand texts.</p>											
【到達目標】											
<p>The goals of this course are to:</p> <p>(1) be get a skill to collect information to read academic Japanese.            (2) with THAT skill be able to read Japanese academic papers.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction            (2) Instruction: Selection of papers / How to prepare for presentation            (3-14) Intensive reading of papers &amp; discussion            (15) Exams and Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>1. Non-Japanese native students.            2. With a basic comprehension of Japanese.</p>											
----- Research 2-Advanced Japanese (2)へ続く -----											

## Research 2-Advanced Japanese (2)

### [成績評価の方法・観点]

Usual performance score (e.g. discussion during classes): 30%

Assignments: 40%

Exams: 30%

[JDTS/MATS students] This course can be taken as reduced seminar (4 ECTS) only.

### [教科書]

None. Reading materials will be provided.

### [参考書等]

(参考書)

Will be introduced in classes.

### [授業外学修(予習・復習)等]

To read papers introduced in classes.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目86

科目ナンバリング		G-LET36 7JK30 PJ36									
授業科目名 <英訳>		Research 2-Advanced English Research 2-Advanced English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		Weekly Writing Practicum									
[授業の概要・目的]											
<p>*****</p> <p>IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.            注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。</p> <p>*****</p> <p>This course will introduce graduate students to different approaches to the craft of historical writing in English. Topics to be covered include grant/fellowship proposal writing, journal article submissions, and academic presentations. The central concern is to hone the historian's most important skill for international communication: the writing of clear, persuasive, and gripping English-language prose. As noted below, there are multiple reasons for taking this kind of course.</p> <p>(Students from different research backgrounds are likely to participate. Thus, depending on student preferences, in-class discussion can be in English, Japanese, or a combination thereof.)</p>											
[到達目標]											
<p>Objectives for the course include:</p> <p>Preparing and delivering a spoken conference-style presentation.</p> <p>Writing a short research proposal for an overseas fellowships.</p> <p>Identifying concrete steps for submitting your research to English-language journals (as well as, of course, working to improve your writing in general).</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The precise outline of the course will be determined in concert with student preferences. Here is one possible format:</p> <p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: The Craft of History Writing</p> <p>Week 3: Identifying Your Research Goals</p> <p>Weeks 4-6: Preparing a Research Proposal with Peer Review Feedback</p> <p>Week 7: Mini-presentation of Research Proposals</p> <p>Weeks 8-11: Working on a Longer Paper Topic</p> <p>Weeks 12-14: Developing Presentations and Peer Review Feedback on Papers</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>											
											----- Research 2-Advanced English (2)へ続く

## Research 2-Advanced English (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Evaluation will consist of the following components:

Attendance, assignments, peer-review assessments, and discussion 40%

Shorter in-class presentations and final presentation 20%

Final paper 40%

This course is intended for graduate students with interests in historical research. Registration is capped at 8 students in order to ensure plenty of time for individualized discussion and feedback.

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Please be sure to make time to prepare the written and oral assignments outside of class.

### (その他(オフィスアワー等))

Office hours will be determined at the beginning of the course.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目87

科目ナンバリング		G-LET49 79829 SB36									
授業科目名 <英訳>		Heidelberg-Strasbourg Student Workshop				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm 文学研究科 特任教授 Sandra Schaal			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Heidelberg-Strasbourg Student Workshop on Transcultural Topics									
【授業の概要・目的】											
<p>Each year, the Kyoto University Graduate School of Letters sends a student delegation to its partners in Europe, Heidelberg University and Strasbourg University. At each partner university, the students will come together with researchers and fellow students of the Japanese Studies department (Strasbourg) and the Master in Transcultural Studies (Heidelberg) to hold joint workshops about a given topic of historical and contemporary concern. Kyoto University GSL students currently studying in Heidelberg are invited to join this program.</p> <p>In the previous years, topics included “ Nationalism in the Era of Globalization, ” “ Peace and Conflict in Asia and Europe ” and will continue to explore questions of transculturality in and between Asia and Europe. The purpose of the two joined workshops is to engage with academic background talks by senior researchers, followed by an exchange of ideas with fellow students concerning cultural negotiation and transculturation. Students will deepen their understanding about the dynamics of transculturality and cultural exchange by studying policies, social movements but also representations in art and literature, and by expressing their own thoughts in talks.</p> <p>Additionally, students will visit institutions, museums of Heidelberg and Strasbourg to learn about the history and current affairs of the cities where the partner universities are located.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will acquire competence in writing, presenting, and discussing an English-language paper that relates to the topic of the workshops. They will gain practice in commenting and critiquing other papers to assist each other in giving and receiving constructive feedback. Furthermore, students will gain knowledge about EU institutions, French and German history, and the history of partner universities.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan will be determined during the preparation weeks for the student delegation (December to January).</p> <p>In Heidelberg:            * Guidance [1 hour].            * Field research at the Documentation and Culture Center of German Sinti and Roma [2 hours].            * One-day student workshop [6 hours].</p> <p>In Strasbourg:            * Guidance [1 hour].            * Field research at an institution of the European Union, e.g. parliament [2 hours].            * Student workshop [3 hours].</p>											
											Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)へ続く

## Heidelberg-Strasbourg Student Workshop(2)

The students are asked to prepare readings for the workshops from December when they are announced by the instructor. By the end of January, they need to submit a presentation file (PowerPoint or Keynote) and a draft of their script.

The actual workshops will take place in the first week(s) of February.

Note: Depending on the schedule, parts of the visits may fall within Heidelberg University 's lecture period. The program will be scheduled so that it does not interfere with regular classes.

### 【履修要件】

Completion of module "Introduction to Transcultural Studies." Mainly for first-year student of Joint Degree M. A. Program in Transcultural Studies.

### 【成績評価の方法・観点】

Presentation during the workshops (80%), active participation in discussions (20%).

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Participants need to prepare the readings designated for the workshop topic and prepare a 20-minute paper.

### (その他(オフィスアワー等))

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目88

科目ナンバリング		G-LET36 7JK29 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 准教授 文学研究科 講師		Mitsuyo Wada-Marciano VASUDEVA, Somdev 安里 和晃 Bjorn-Ole Kamm	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Research Colloquium									
[授業の概要・目的]											
<p>During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.</p> <p>In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Research 3; Master's Thesis.</p>											
[到達目標]											
Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, they will acquire advanced time and project management skills.											
[授業計画と内容]											
<p>The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).</p> <p>The concrete schedule will be determined in the first session of the course.</p>											
[履修要件]											
Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).											
[成績評価の方法・観点]											
Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).											
[教科書]											
使用しない											
----- Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)へ続く -----											

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.  
Consultation (office hours) by appointment.  
Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



大学院共通科目89

科目ナンバリング		G-LET36 7JK29 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 3&MA Thesis-Research Colloquium Research 3&MA Thesis-Research Colloquium				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 准教授		Mitsuyo Wada-Marciano VASUDEVA, Somdev 安里 和晃	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Research Colloquium									
【授業の概要・目的】											
<p>During the Research Colloquium students develop, present, and discuss their research plans in front of their supervisors and fellow students. Furthermore, writing samples from the master's thesis are presented and discussed. This regular feedback will facilitate a structured completion of the thesis.</p> <p>In the master's thesis students apply relevant methodologies and theories of Transcultural Studies, as well as linguistic competences, regional knowledge, and project management skills to a research project of their own design and in line with the chosen study focus. In consultation with their supervisor, students develop a specific research question and select relevant methods and research material. They contextualize their project within the state of the art of scientific debates and present their findings in written academic English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Research 3; Master's Thesis.</p>											
【到達目標】											
Students will learn to independently design and realise a research project (research question, line of argumentation etc.). They will gain the ability to relate and critically discuss complex research issues within the field of Transcultural Studies. Additionally, they will acquire advanced time and project management skills.											
【授業計画と内容】											
<p>The respective supervisor of the master's thesis will guide the students in choosing their research question and in the concrete planning of their projects. Depending on the number of students and the needs of the group, each course week is either devoted to the discussion of a particular theory or methodology (which will be based on readings out of class), or offers the students a space to present the current status of their master's theses (one session can allow for one to two presentations).</p> <p>The concrete schedule will be determined in the first session of the course.</p>											
【履修要件】											
Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies," "Skills for Transcultural Studies," "Focus 1" and "Focus 2" (Master Program in Transcultural Studies).											
【成績評価の方法・観点】											
Presentation (40%), discussion (40%), active participation (20%).											
----- Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)へ続く -----											

Research 3&MA Thesis-Research Colloquium (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class for this course. The planning of the master's thesis, in-class presentations and discussions will play an important role in this course, so the preparation of presentations and literature as well as the review of feedback received during the class requires at least about an hour.

**(その他(オフィスアワー等))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment.

Please contact the respective thesis supervisor for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目90

科目ナンバリング		G-LET36 8J980 GE36									
授業科目名 <英訳>		Oral Master Examination - Oral Examination Oral Master Examination - Oral Examination				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	1回生以上	単位数	0	開講年度・ 開講期	2022・ 前期不定	曜時限	その他	授業 形態		使用 言語	英語
題目	Oral Examination										
[授業の概要・目的]											
<p>Oral examination (30 min.) on overall knowledge in the field of Transcultural Studies plus one topic from the chosen study focus. Registration or completion prerequisite for Master Thesis registration at Heidelberg University.</p> <p>Study Focus: all.</p>											
[到達目標]											
<p>Objectives of module: With the successful completion of this module students have acquired the following competences:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Ability to present, analyse, and critically discuss the state of the art of their exam topics;</li> <li>- Ability to critically relate specific research questions to a broader disciplinary field;</li> <li>- Ability to present arguments in line with academic standards.</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>Date of the examination to be agreed upon by student and supervisor at least one month in advance. For content, e.g., reading material to be prepared, see Method, Point of view below.</p> <p>[Important Notice] For students with Kyoto University as their home institution, this oral examination will be conducted together with their thesis defense. Students with Heidelberg University as their home institution will need to present their thesis topic pro forma in an oral defense at Kyoto University in addition to this Module “ Oral Examination ” after the thesis submission.</p>											
[履修要件]											
<p>Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies", "Skills for Transcultural Studies", "Focus 1" and "Focus 2". Only for students in Division of Joint Degree M.A. Program in Transcultural Studies.</p>											
											Oral Master Examination - Oral Examination (2)へ続く

## Oral Master Examination - Oral Examination (2)

### [成績評価の方法・観点]

The oral examination lasts approximately 30 minutes. The examination is held by two examiners. The first examiner is the supervisor of the master ' s thesis. Student and supervisor agree on three topics for the examination from the general field of Transcultural Studies and the chosen study focus. In the oral examination, students demonstrate their knowledge of the state of art in the chosen topics and their ability to contextualize specific research questions in the larger disciplinary contexts of transcultural studies.

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

( 参考書 )

Not used

( 関連URL )

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/elearn>

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Participants need to prepare the readings designated for the Oral Master Examination.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

大学院共通科目91

科目ナンバリング		G-LET36 8J980 GE36									
授業科目名 <英訳>		Oral Master Examination - Oral Examination Oral Master Examination - Oral Examination				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	0	開講年度・ 開講期	2022・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態		使用 言語	英語
題目		Oral Examination									
<b>[授業の概要・目的]</b>											
Oral examination (30 min.) on overall knowledge in the field of Transcultural Studies plus one topic from the chosen study focus. Registration or completion prerequisite for Master Thesis registration at Heidelberg University.  Study Focus: all.											
<b>[到達目標]</b>											
Objectives of module: With the successful completion of this module students have acquired the following competences: - Ability to present, analyse, and critically discuss the state of the art of their exam topics; - Ability to critically relate specific research questions to a broader disciplinary field; - Ability to present arguments in line with academic standards.											
<b>[授業計画と内容]</b>											
Date of the examination to be agreed upon by student and supervisor at least one month in advance. For content, e.g., reading material to be prepared, see Method, Point of view below.  [Important Notice] For students with Kyoto University as their home institution, this oral examination will be conducted together with their thesis defense. Students with Heidelberg University as their home institution will need to present their thesis topic pro forma in an oral defense at Kyoto University in addition to this Module " Oral Examination " after the thesis submission.											
<b>[履修要件]</b>											
Completion of modules "Introduction to Transcultural Studies", "Skills for Transcultural Studies", "Focus 1" and "Focus 2". Only for students in Division of Joint Degree M.A. Program in Transcultural Studies.											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
The oral examination lasts approximately 30 minutes. The examination is held by two examiners. The first examiner is the supervisor of the master ' s thesis. Student and supervisor agree on three topics for the examination from the general field of Transcultural Studies and the chosen study focus. In the oral examination, students demonstrate their knowledge of the state of art in the chosen topics and their ability to contextualize specific research questions in the larger disciplinary contexts of transcultural studies.											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
----- Oral Master Examination - Oral Examination(2)へ続く -----											

Oral Master Examination - Oral Examination(2)

[参考書等]

(参考書)

Not used

(関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/elearn>

[授業外学修(予習・復習)等]

Participants need to prepare the readings designated for the Oral Master Examination.

(その他(オフィスアワー等))

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。